

中心市街地活性化基本計画進捗管理業務

報 告 書

平成 23 年 12 月

和 歌 山 市

目 次

1. 調査目的	1
2. 調査概要	1
(1) 通行量調査の実施と分析	1
(2) 市民意識調査の実施と分析	1
3. 通行量調査の実施と分析	2
3-1 「城まち賑わい拠点の創出」に関する目標達成度の計測・分析	2
(1) 調査内容	2
(2) 調査結果	4
(3) 調査地点の環境変化等	10
(4) 目標達成の状況と今後の見通し	11
3-2 「城まち回遊性の向上」に関する目標達成度の計測・分析	12
(1) 調査内容	12
(2) 調査結果	13
(3) 調査地点の環境変化等	17
(4) 目標達成の状況と今後の見通し	17
4. 市民意識調査の実施と分析	18
4-1 市民意識調査の概要	18
(1) 調査の目的	18
(2) 調査の概要	18
4-2 アンケート集計結果	19
(1) 回答者について	19
(2) 中心市街地への来訪について	21
(3) 中心市街地の商業について	29
(4) 中心市街地の居住環境について	33
(5) 中心市街地まちづくり活動について	42
(6) 将来の中心市街地まちづくりについて	45
(7) 中心市街地活性化の重要度	47
4-3 調査結果の比較	50
(1) 中心市街地活性化の重要度	50
(2) 中心市街地まちづくり施策の重要度	51
(3) 中心市街地活性化事業の関心度	55
(4) 居住者増加の取り組みについて	63
(5) まとめ【総評】	64

1. 調査目的

本市では、衰退の加速する中心市街地の状況に鑑み、平成 19 年「和歌山市中心市街地活性化基本計画」を策定、同年 8 月に内閣総理大臣の認定を受け、現在当計画に基づき、各種事業に取り組んでいるところである。

当計画において、通行量や居住人口の数値目標を設定しており、目標を達成するためには、各事業を円滑に実施し、進捗状況や活性化に向けた目標への達成具合を経年をおって把握することが必要である。また同時に、各事業のより一層の効果を図るため、居住者や来街者にとっての利便性を高める事業展開に向けた調査もあわせて行うことが必要である。

本業務では、中心市街地活性化基本計画において掲げる活性化への目標のうち、「城まち賑わい拠点の創出」及び「城まち回遊性の向上」に関する目標達成度を計測し経年変化を捉える。また、中心市街地活性化基本計画の最終年度にあたる本年度において、各種事業の効果検証を行うとともに、より一層効果的かつ効率的に事業を推進しにぎわいを図り、今後の活性化の取組の方向性及び有効活用方策等を確認するため、中心市街地に係る市民の意識を調査・分析する。

2. 調査概要

本目的に基づく調査・分析を以下のとおり実施する。

(1) 通行量調査の実施と分析

1) 「城まち賑わい拠点の創出」に関する目標達成度の計測・分析

ぶらくり丁を中心とする中心商業地において城まちの賑わいの拠点を創出することによる、訪れたいくなるまちづくりへの取組の効果について、目標達成状況を把握するため、基本計画に定められた中心市街地 7 地点のうち、3 地点の平日・休日それぞれの歩行者及び自転車の通行量を計測する。なお、残り 4 地点については、市からデータの提供を受け、7 地点全てを踏まえた分析を行う。

2) 「城まち回遊性の向上」に関する目標達成度の計測・分析

南海和歌山市駅と JR 和歌山駅を交流誘導ゾーンとし、両駅から中心商業地に至る本市中心市街地の骨格道路（基本計画の中では「城まちハッピーロード」と総称）の回遊性を高める取組の効果について、目標達成状況を把握するため、和歌山市中心市街地区域内（城まちハッピーロード）の 6 地点の歩行者及び自転車の通行量を計測し分析を行う。

(2) 市民意識調査の実施と分析

中心市街地以外の和歌山市内に在住する満 16 歳以上の男女 2,000 人、中心市街地に在住する満 16 歳以上の男女 500 人をそれぞれ無作為抽出し、中心市街地活性化に関するアンケートを実施し、市民の考える現実的な中心市街地と理想的な中心市街地について分析する。また、過年度に実施した中心市街地に関するアンケート等との比較や、その他各種統計データや環境変化等を考慮し、今後の中心市街地のあり方・方向性について分析する。

3. 通行量調査の実施と分析

3-1 「城まち賑わい拠点の創出」に関する目標達成度の計測・分析

ぶらくり丁を中心とする中心商業地において城まちの賑わいの拠点を創出することによる、訪れたいまちづくりへの取組の効果について、目標達成状況を把握するため、基本計画に定められた中心市街地7地点のうち、3地点の平日・休日それぞれの歩行者及び自転車の通行量を計測する。なお、残り4地点については、市からデータの提供を受け、7地点全てを踏まえた分析を行う。

(1) 調査内容

1) 調査日時

平日調査：平成23年8月29日（月）午前10時～午後7時まで

休日調査：平成23年9月4日（日）午前10時～午後7時まで

2) 調査方法

各調査地点において2方向別に、歩行者・自転車の通行量を1時間ごとに計測する。

3) 調査地点

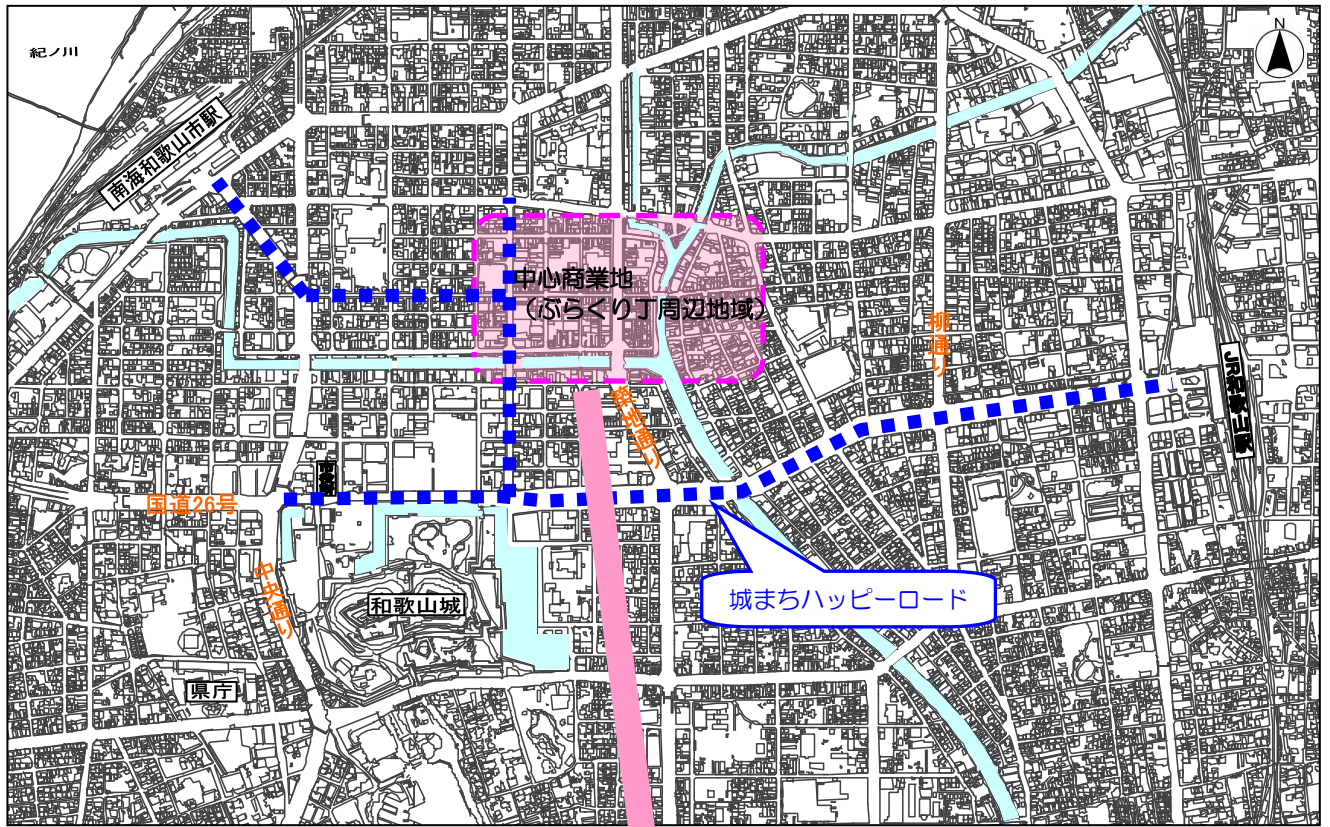
調査地点は、以下の中心商業地（ぶらくり丁内）の3地点とする。

なお、基本計画に定められた中心市街地7地点のうち、下記3地点を除いた、残りの4地点については市からデータの提供を受けた。

c. 本町商店街「きのくに信用金庫」前（和歌山市本町2丁目38）

f. 中ぶらくり丁商店街「朝井金物店」前（和歌山市元寺町1丁目56）

g. 東ぶらくり丁商店街「丸越」前（和歌山市新八百屋丁11）



拡大

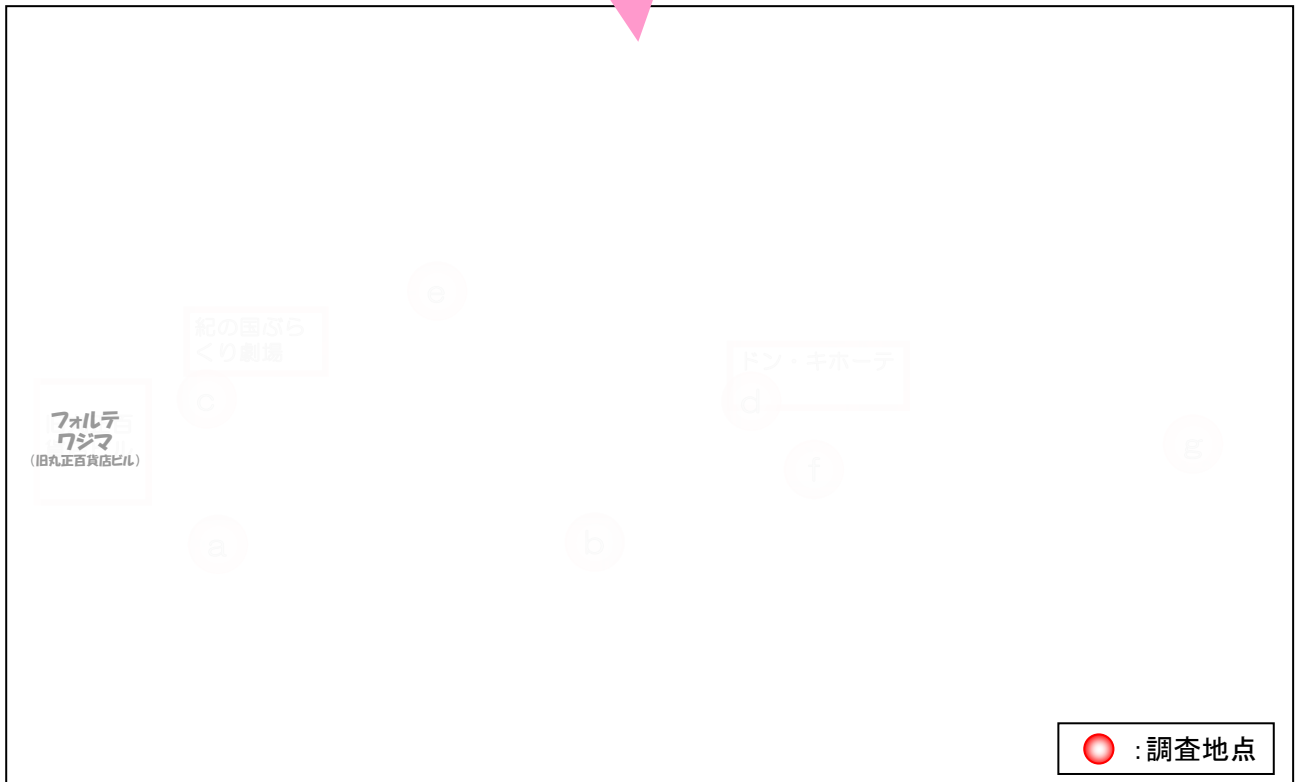


図-1 調査地点位置

(2) 調査結果

7地点合計の通行量（休日・平日平均）は17,106人（平成23年度目標値26,500人に対しては約65%）であった。

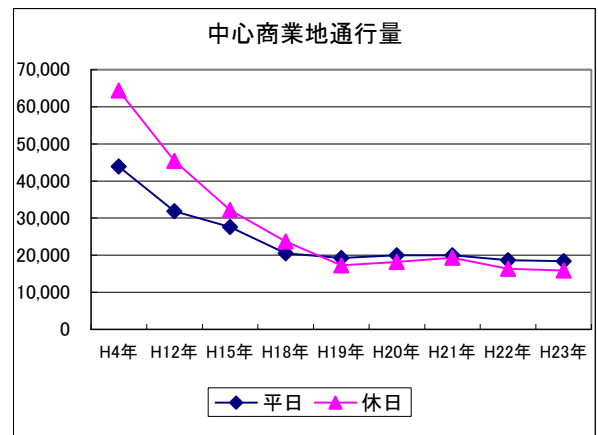
基本計画策定以降、通行量（休日・平日平均）は平成21年まで若干増加したが、平成23年は平成21年の通行量（休日・平日平均）から2,507人減少（12.8%減）した。

平日・休日別に見ると、平日、休日の各通行量は平日が18,390人、休日が15,822人であり、平日の通行量のほうが休日のそれより若干上回る。

前年との比較においては、7地点合計では平日が1.2%、休日が3.0%減少している。

さらに地点別に見ると、平日では、c.本町商店街きのくに信用金庫前（20.7%増）、d.ぶらくり丁大通り商店街ドンキホーテ前（17.1%増）、g.東ぶらくり丁商店街丸越前（18.6%増）の3地点で増加し、a.ぶらくり丁商店街マクドナルド前（12.9%減）、b.ぶらくり丁商店街島清金物店前（16.6%減）、e.北ぶらくり丁ふなとや前（6.4%減）、f.中ぶらくり丁商店街朝井金物店前（2.5%減）の4地点で減少している。

休日では、c.本町商店街きのくに信用金庫前（18.0%増）、e.北ぶらくり丁ふなとや前（8.6%増）、f.中ぶらくり丁商店街朝井金物店前（4.1%増）、g.東ぶらくり丁商店街丸越前（23.6%増）の4地点で増加し、a.ぶらくり丁商店街マクドナルド前（16.8%減）、b.ぶらくり丁商店街島清金物店前（6.8%減）、d.ぶらくり丁大通り商店街ドンキホーテ前（16.7%減）の3地点で減少している。



■平日及び休日の地点別通行量の経年推移

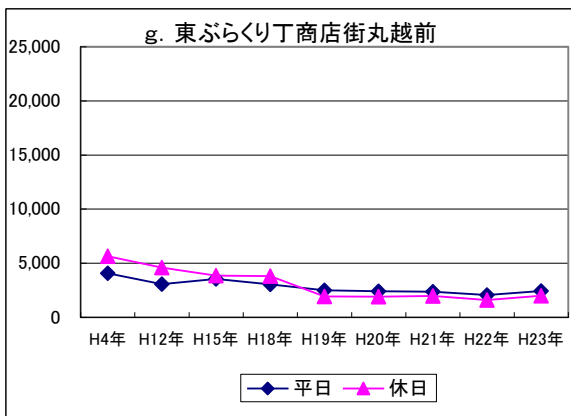
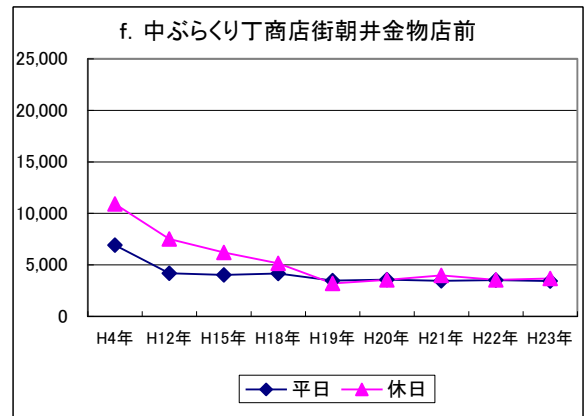
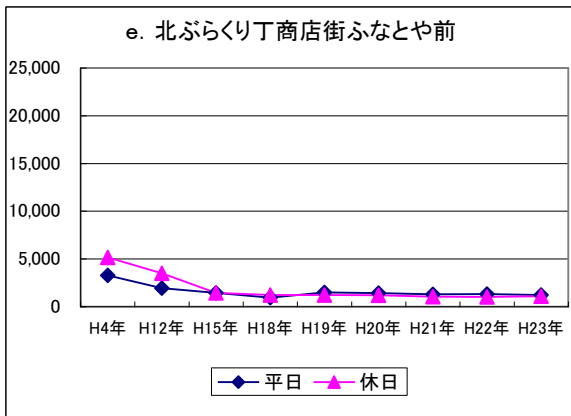
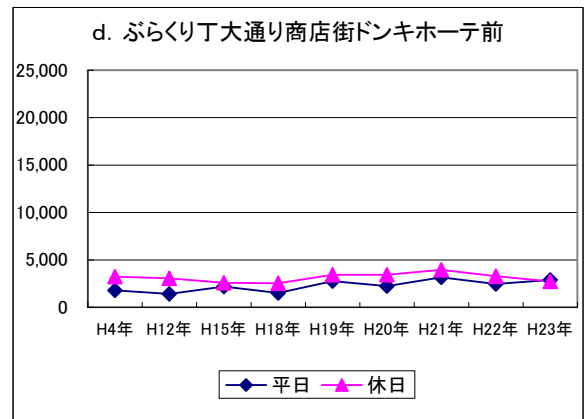
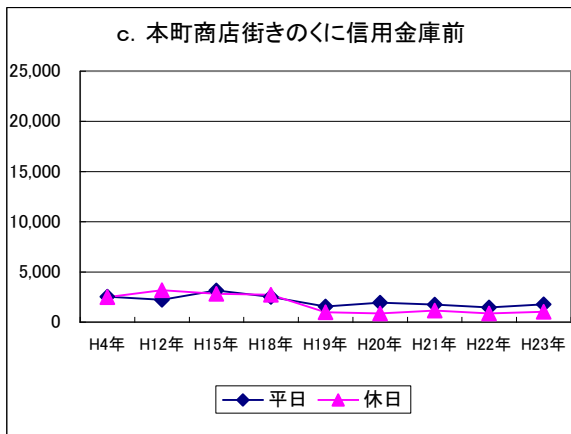
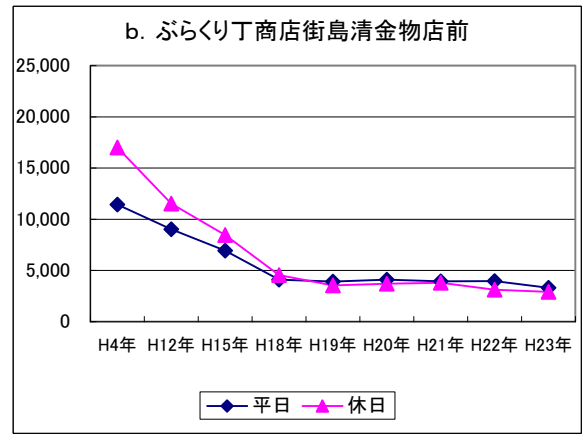
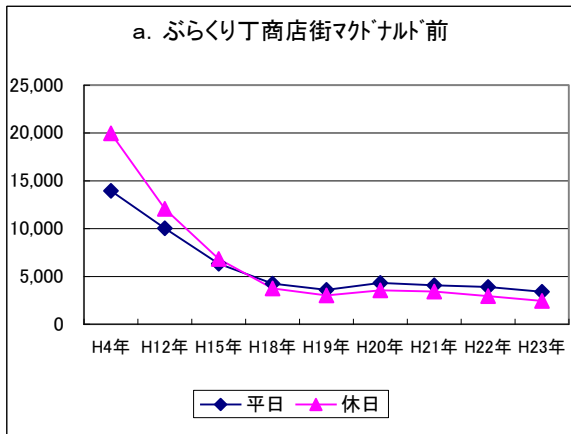
中心商業地通行量（平日・休日別）

単位：人、%

調査地点			H4年	H12年	H15年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H22-H23 増減率
a	ぶらくり丁商店街 マクドナルド前	休日	19,958	12,068	6,823	3,739	3,007	3,538	3,415	2,931	2,438	▲16.8
		平日	13,947	10,037	6,311	4,241	3,579	4,322	4,061	3,898	3,397	▲12.9
b	ぶらくり丁商店街 島清金物店前	休日	16,999	11,510	8,457	4,540	3,546	3,699	3,791	3,106	2,894	▲6.8
		平日	11,415	9,022	6,939	4,089	3,914	4,088	3,943	3,955	3,298	▲16.6
c	本町商店街 きのくに信用金庫前	休日	2,495	3,172	2,813	2,718	975	853	1,141	870	1,027	18.0
		平日	2,523	2,209	3,156	2,508	1,545	1,937	1,732	1,456	1,757	20.7
d	ぶらくり丁大通り商店街 ドンキホーテ前	休日	3,231	3,047	2,578	2,508	3,413	3,424	3,934	3,267	2,720	▲16.7
		平日	1,767	1,387	2,176	1,504	2,742	2,227	3,140	2,445	2,864	17.1
e	北ぶらくり丁商店街 ふなとや前	休日	5,164	3,491	1,437	1,226	1,208	1,195	1,030	1,007	1,094	8.6
		平日	3,270	1,924	1,436	934	1,488	1,405	1,285	1,306	1,223	▲6.4
f	中ぶらくり丁商店街 朝井金物店前	休日	10,899	7,503	6,187	5,137	3,183	3,534	3,973	3,526	3,671	4.1
		平日	6,905	4,183	4,027	4,157	3,475	3,558	3,450	3,503	3,417	▲2.5
g	東ぶらくり丁商店街 丸越前	休日	5,647	4,596	3,850	3,812	1,930	1,906	1,974	1,600	1,978	23.6
		平日	4,072	3,057	3,549	3,036	2,491	2,401	2,353	2,052	2,434	18.6
合計		休日	64,393	45,387	32,145	23,680	17,262	18,149	19,258	16,307	15,822	▲3.0
		平日	43,899	31,819	27,594	20,469	19,234	19,938	19,964	18,615	18,390	▲1.2
休日・平日平均			54,147	38,605	29,871	22,075	18,249	19,045	19,613	17,461	17,106	▲2.0

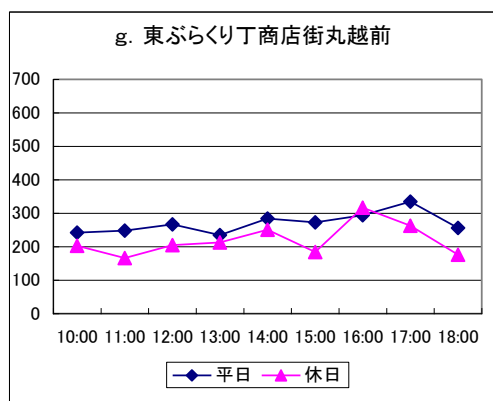
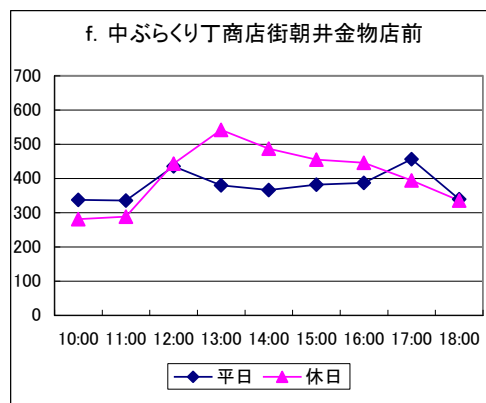
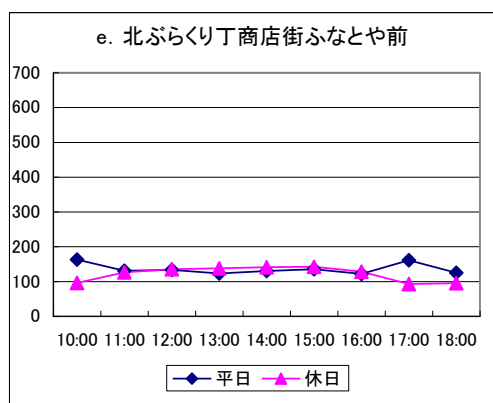
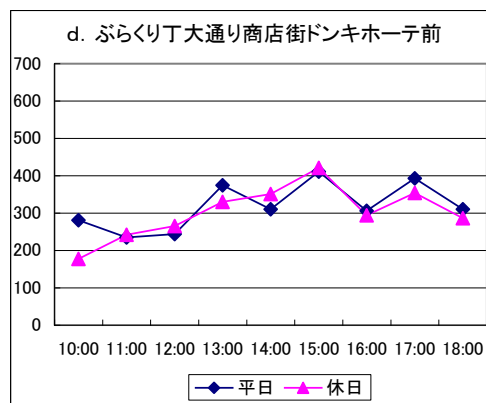
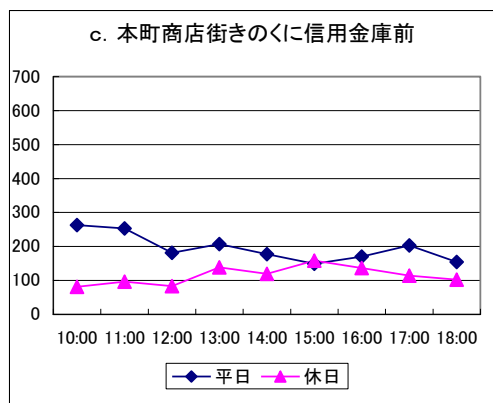
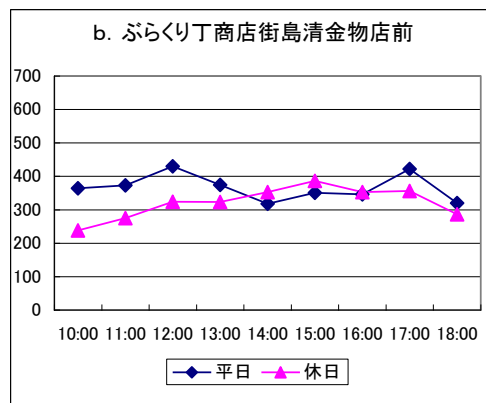
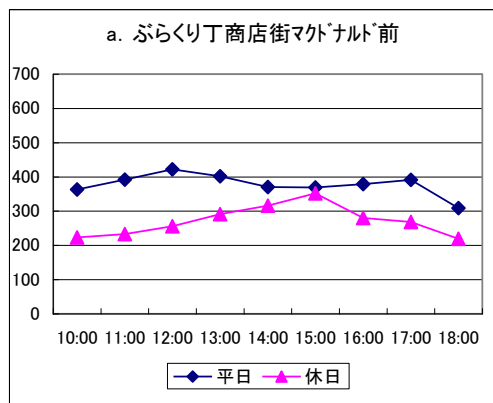


平成23年度 目標値 26,500人



■時間別の通行量

平日では、⑤北ぶらくり丁商店街ふなとや前、⑥中ぶらくり丁朝井金物店前、⑦東ぶらくり丁丸越前で 17 時台頃が山に、休日では、①ぶらくり丁マクドナルド前、②ぶらくり商店街島清金物店前、③本町商店街きのくに信用金庫前で 15 時台頃が山となる傾向が見てとれる。



平成23年8月29日(月) 平日

中心商業地歩行者・自転車通行量調査結果

単位:人

		a. ぶらくり丁商店街 マクナルド前	b. ぶらくり丁商店街 島清金物店前	c. 本町商店街 きのくに信用金庫前	d. ぶらくり丁大通り商 店街 ドンキホーテ前	e. 北ブラクリ丁商店街 ふなとや前	f. 中ぶらくり丁商店街 朝井金物店前	g. 東ぶらくり丁商店街 丸越前	合計
10:00~ 11:00	東(北)向き	186	173	109	130	80	155	118	2,013
	西(南)向き	177	191	154	151	83	182	124	
	計	363	364	263	281	163	337	242	
11:00~ 12:00	東(北)向き	202	208	110	117	62	179	113	1,967
	西(南)向き	190	165	143	118	69	156	135	
	計	392	373	253	235	131	335	248	
12:00~ 13:00	東(北)向き	249	247	98	114	76	218	144	2,112
	西(南)向き	173	183	83	130	57	217	123	
	計	422	430	181	244	133	435	267	
13:00~ 14:00	東(北)向き	202	187	98	185	65	208	137	2,095
	西(南)向き	200	187	109	189	58	172	98	
	計	402	374	207	374	123	380	235	
14:00~ 15:00	東(北)向き	196	154	88	151	52	181	136	1,955
	西(南)向き	174	164	89	159	78	185	148	
	計	370	318	177	310	130	366	284	
15:00~ 16:00	東(北)向き	212	199	58	194	70	198	155	2,070
	西(南)向き	157	152	91	217	65	184	118	
	計	369	351	149	411	135	382	273	
16:00~ 17:00	東(北)向き	195	185	75	153	56	228	178	2,004
	西(南)向き	184	161	95	153	66	159	116	
	計	379	346	170	306	122	387	294	
17:00~ 18:00	東(北)向き	237	264	109	234	104	291	242	2,361
	西(南)向き	154	158	94	159	57	165	93	
	計	391	422	203	393	161	456	335	
18:00~ 19:00	東(北)向き	169	214	95	156	73	212	163	1,813
	西(南)向き	140	106	59	154	52	127	93	
	計	309	320	154	310	125	339	256	
合計		3,397	3,298	1,757	2,864	1,223	3,417	2,434	18,390
平成22年調査結果		3,898	3,955	1,456	2,445	1,306	3,503	2,052	18,615
平成21年調査結果		4,061	3,943	1,732	3,140	1,285	3,450	2,353	19,964
平成20年調査結果		4,322	4,088	1,937	2,227	1,405	3,558	2,401	19,938
平成19年調査結果		3,579	3,914	1,545	2,742	1,488	3,475	2,491	19,234
平成18年調査結果		4,241	4,089	2,508	1,504	934	4,157	3,036	20,469

平成23年9月4日(日) 休日

中心商業地歩行者・自転車通行量調査結果

単位:人

		a. ぶらくり丁商店街 マクナルド前	b. ぶらくり丁商店街 島清金物店前	c. 本町商店街 きのくに信用金庫前	d. ぶらくり丁大通り商 店街 ドンキホーテ前	e. 北ブラクリ丁商店街 ふなとや前	f. 中ぶらくり丁商店街 朝井金物店前	g. 東ぶらくり丁商店街 丸越前	合計
10:00~ 11:00	東(北)向き	110	108	38	90	57	109	86	1,299
	西(南)向き	113	130	43	87	39	172	117	
	計	223	238	81	177	96	281	203	
11:00~ 12:00	東(北)向き	130	147	53	121	65	123	71	1,426
	西(南)向き	103	128	43	121	61	165	95	
	計	233	275	96	242	126	288	166	
12:00~ 13:00	東(北)向き	110	163	41	116	72	238	107	1,711
	西(南)向き	146	161	42	149	63	205	98	
	計	256	324	83	265	135	443	205	
13:00~ 14:00	東(北)向き	144	152	75	161	61	264	103	1,975
	西(南)向き	147	171	63	169	77	278	110	
	計	291	323	138	330	138	542	213	
14:00~ 15:00	東(北)向き	161	161	55	191	70	262	135	2,018
	西(南)向き	155	192	64	160	71	225	116	
	計	316	353	119	351	141	487	251	
15:00~ 16:00	東(北)向き	178	201	77	209	59	240	104	2,098
	西(南)向き	174	185	81	212	83	215	80	
	計	352	386	158	421	142	455	184	
16:00~ 17:00	東(北)向き	147	204	75	144	69	244	184	1,954
	西(南)向き	133	149	61	150	59	202	133	
	計	280	353	136	294	128	446	317	
17:00~ 18:00	東(北)向き	121	184	51	181	47	213	144	1,842
	西(南)向き	147	172	63	173	46	181	119	
	計	268	356	114	354	93	394	263	
18:00~ 19:00	東(北)向き	92	150	46	135	56	179	90	1,499
	西(南)向き	127	136	56	151	39	156	86	
	計	219	286	102	286	95	335	176	
合計		2,438	2,894	1,027	2,720	1,094	3,671	1,978	15,822
平成22年調査結果		2,931	3,106	870	3,267	1,007	3,526	1,600	16,307
平成21年調査結果		3,415	3,791	1,141	3,934	1,030	3,973	1,974	19,258
平成20年調査結果		3,538	3,699	853	3,424	1,195	3,534	1,906	18,149
平成19年調査結果		3,007	3,546	975	3,413	1,208	3,183	1,930	17,262
平成18年調査結果		3,739	4,540	2,718	2,508	1,226	5,137	3,812	23,680

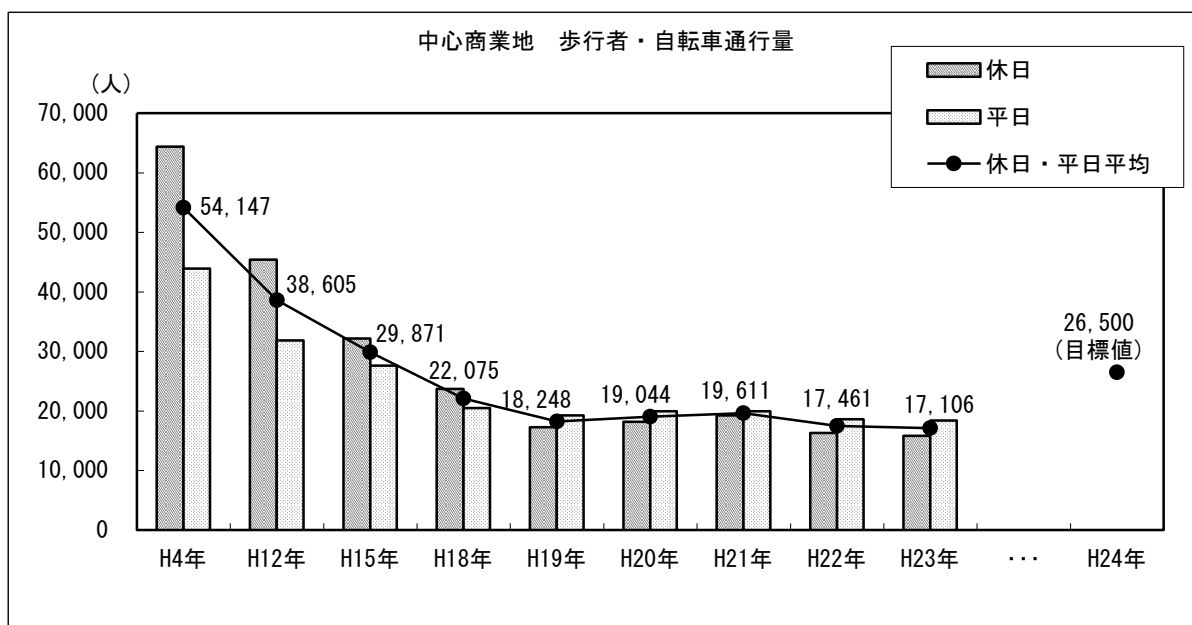


図-2 中心商業地 歩行者自転車通行量 (地点別)

(3) 調査地点の環境変化等

基本計画策定以降現在に至るまでの調査地点周辺の環境変化及び通行量の変化は、以下に示すとおりである。

年月	事象	備考
H19. 3	紀の国ぶらくり劇場オープン	
H19. 3	ベストウエスタンホテルオープン	
H19. 12	フォルテワジマー部オープン	
H20. 10	和歌山県紀北部の地場製品のアンテナショップオープン	
H21. 6	介護付き有料老人ホームオープン	
H21. 7	フォルテワジマ全館オープン	
H22. 3	まちなか交流スペース「みんなの学校」オープン	



(4) 目標達成の状況と今後の見通し

基本計画では、「城まち賑わい拠点の創出」の目標達成度合を測定するため、中心商業地の通行量を数値目標として設定し、現況値（平成 18 年度：22,075 人）から平成 23 年度基本計画終了時には「26,500 人」に増加させることを目指している。一方、今年を中心商業地の通行量は 17,106 人であり、目標値との間に大きな乖離が生じている。

計画時にその効果を見込んだ事業のうち未実施の取組みは「ものづくり工房「ぶらフト」建設運営事業」（効果「305 人」増）のみであり、基本計画事業はほぼ予定通り実施しているものの、恒常的に大きな効果を生み出していない状況にある。

次節の市民意識調査において、中心市街地活性化の重要度は「強くそう思う」、「そう思う」を合わせると市民全体で 77%を占めている一方、中心商業地（ぶらくり丁周辺地域）内で実施する事業として、現在推進している「ぶらくりエンターテイメント」、「みんなの学校」、「100 円バス券サービス」、「ぶらくりスイング」の認知度は、どの取組みも半数以上が「知らない」と回答されており、これらの取組みを積極的に市民へ PR（情報発信）することが重要な課題と考えられる。

今後、まちづくり活動拠点となる『みんなの学校』の利用促進に努めながら、恒常的に集客できる方策について、商店街と協力しながら検討していく必要がある。

3-2 「城まち回遊性の向上」に関する目標達成度の計測・分析

南海和歌山市駅とJR和歌山駅を交流誘導ゾーンとし、両駅から中心商業地に至る本市中心市街地の骨格道路（基本計画の中では「城まちハッピーロード」と総称）の回遊性を高める取組の効果について、目標達成状況を把握するため、和歌山市中心市街地域内（城まちハッピーロード）の6地点の歩行者及び自転車の通行量を計測し分析を行う。

(1) 調査内容

1) 調査日時

休日調査：平成23年10月15日（日）午前10時～午後7時まで^{注)}

注) 毎年6月に調査を実施しているが、今年は雨天のため上記日程に調査を延期した。

2) 調査方法

各調査地点において2方向別に、歩行者・自転車の通行量を1時間ごとに計測する。

3) 調査地点

調査地点は、以下の和歌山市中心市街地域内の6地点とする。

- ①和歌山市駅前線船大工町交差点（和歌山市橋丁21番地）
- ②フォルテワジマ前（和歌山市本町2丁目1番地）
- ③ワジマ十番丁ビル前（和歌山市十番丁19番地）
- ④和歌山市役所前（和歌山市七番丁23番地）
- ⑤けやき大通り坊主丁交差点（和歌山市坊主丁26番地）
- ⑥損保ジャパン和歌山ビル（和歌山市美園町3丁目32-1）

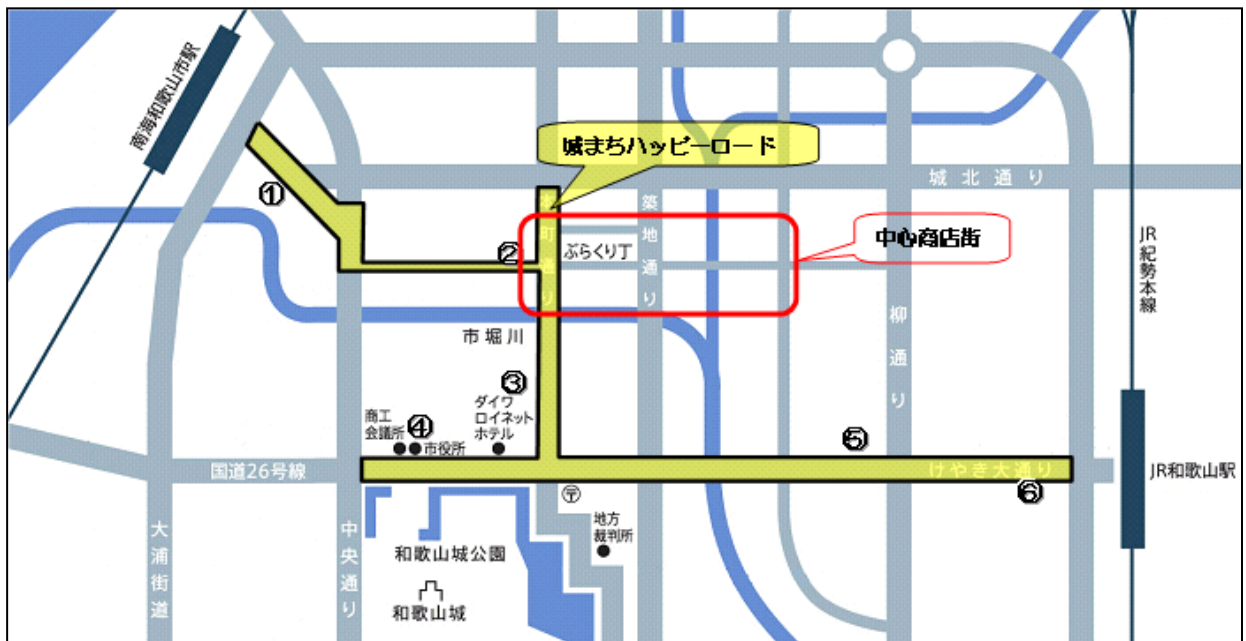


図-3 調査地点位置

(2) 調査結果

城まちハッピーロード全体では、9,249 人であった。この結果は、前年に比べると 2,194 人 (31.1%) 増加したが、一昨年 of 平成 21 年からは、1,977 人 (17.6%) 減少している。

各地点における増減には差がある。

②フォルテワジマ前では、全館完成後、平成 21 年までは増加傾向を示していたが、平成 22 年は減少に転じた。しかし、今年は前年比 43.6% の増加となった。

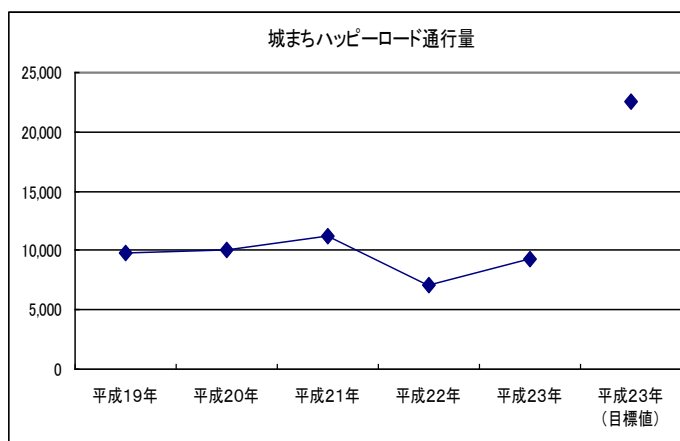
④市役所前では、「和歌山城市民茶会」が実施されたため、前年に比べプラス 211.5% と大きな増加となった。

前年は大幅減少した⑥損保ジャパン和歌山ビルでは、今年も、基本計画の事業である野外アートプロジェクト事業「わぁーと！手づくり市場（マーケット）」が雨天のため開催されず、前年に比べ 16.0% 減少した。

■城まちハッピーロードの通行量 5 年間の推移

全体の通行量は、平成 21 年をピークに平成 22 年に減少したが、今年は若干増加に転じた。しかし目標数値とはかなりの乖離がある。

平成 19 年	9,762 人
平成 20 年	9,993 人
平成 21 年	11,226 人
平成 22 年	7,055 人
平成 23 年	9,249 人 (今回実績)
平成 23 年	22,500 人 (目標値)

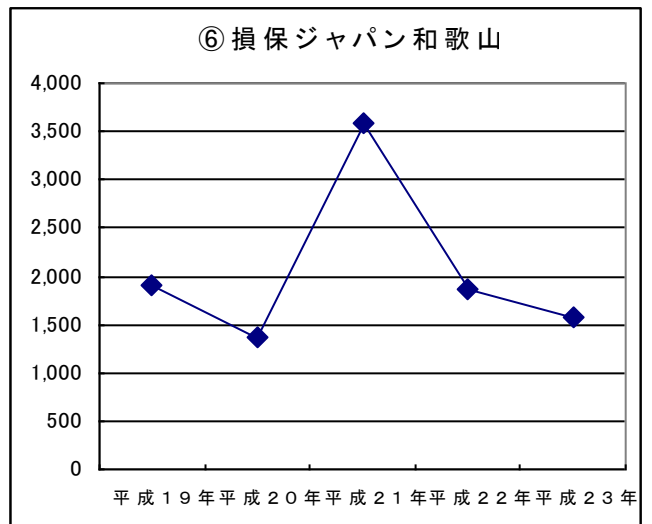
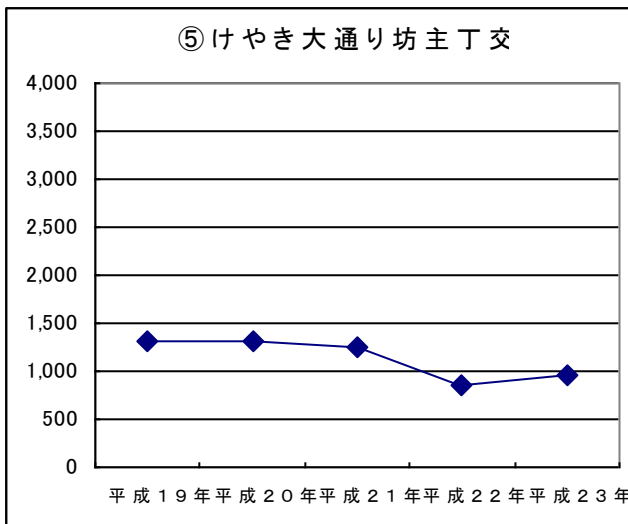
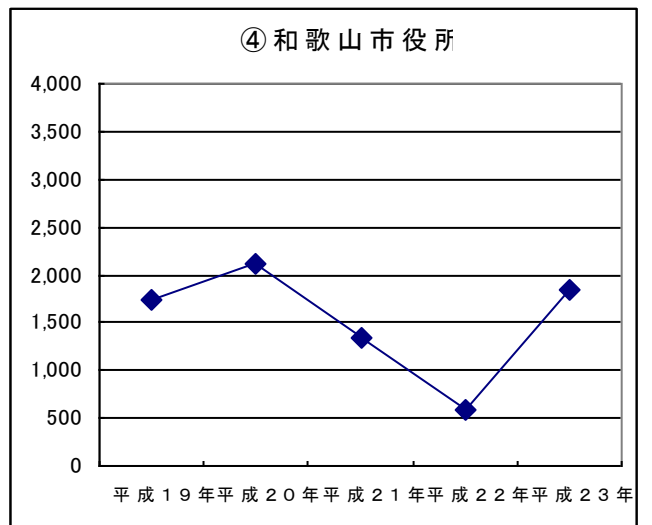
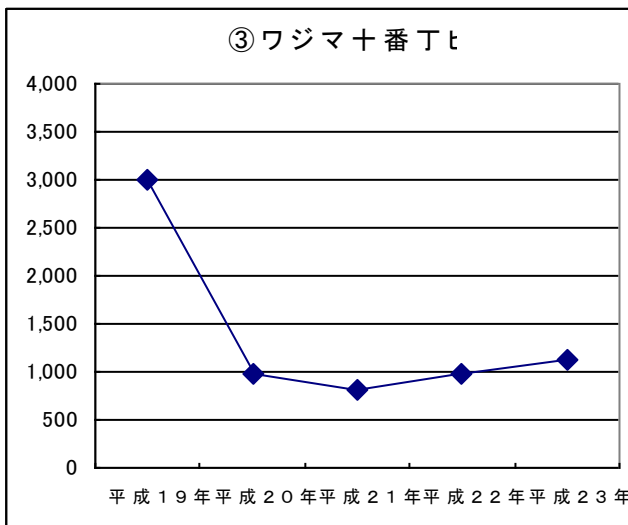
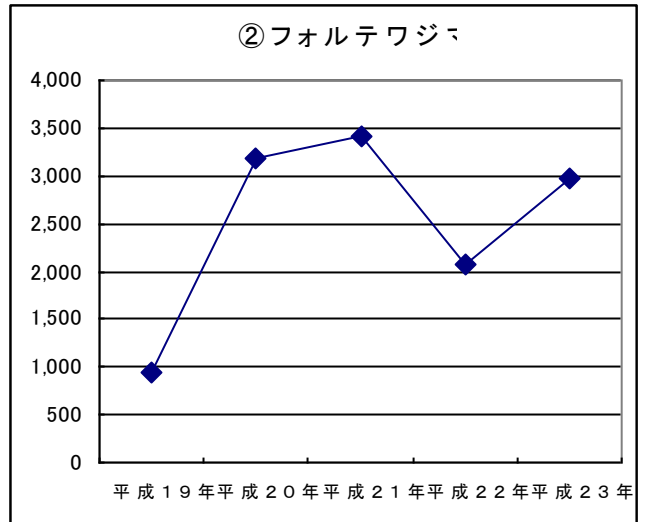
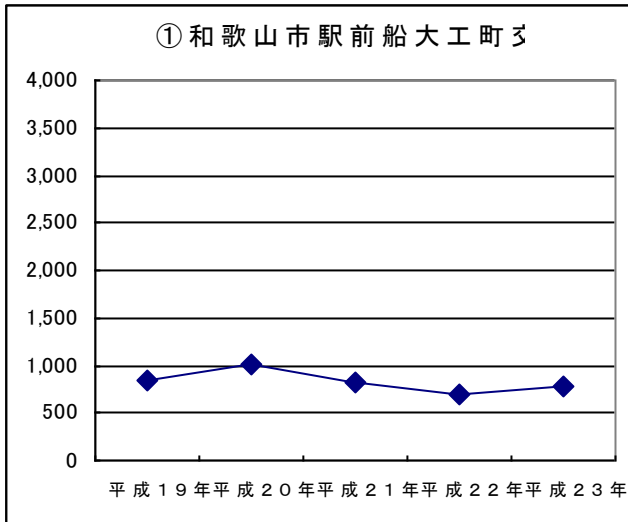


■各地点の通行量の推移

地点毎の通行量の推移は、以下のとおりである。表中の対前年比 (%) は増減比率を表示。

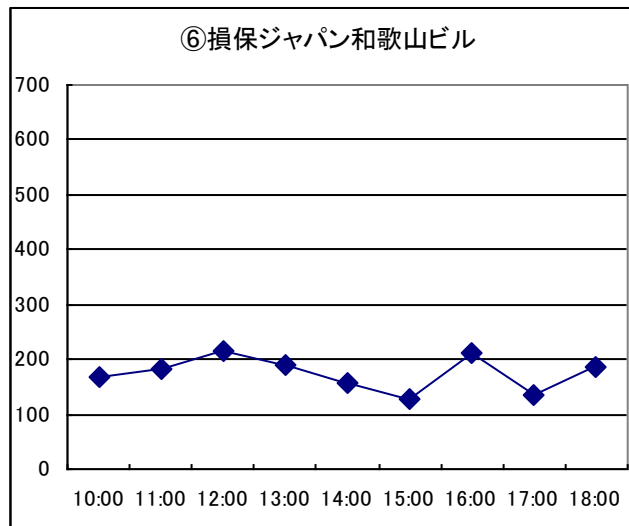
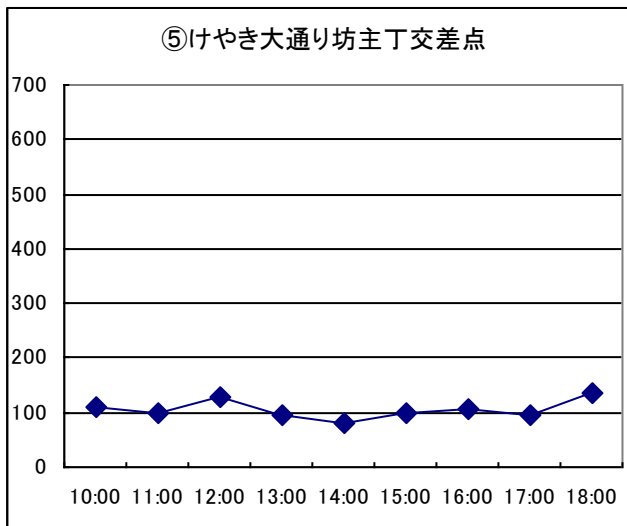
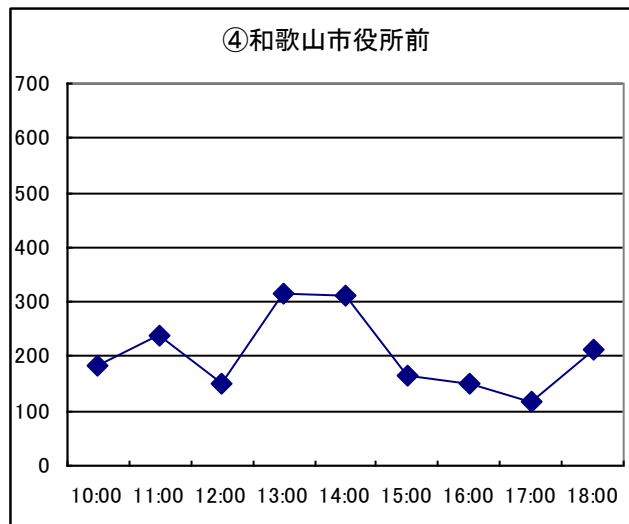
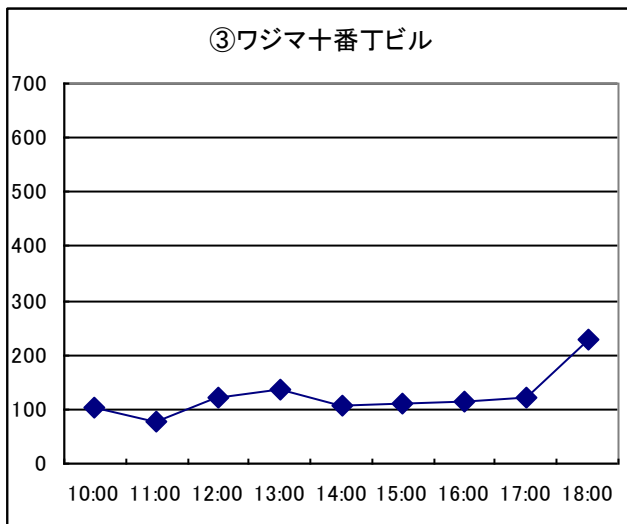
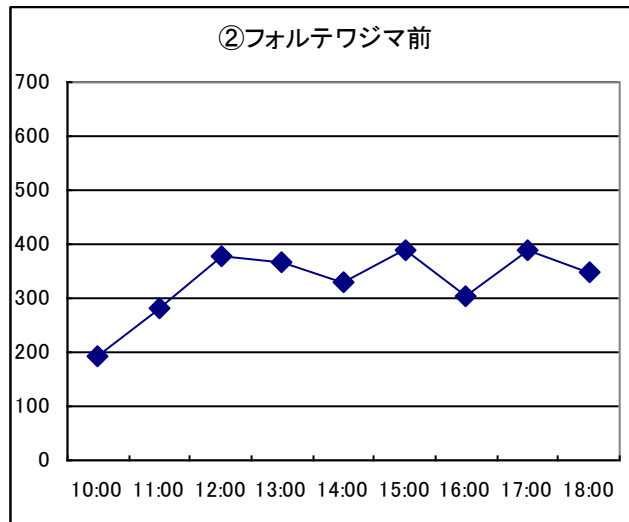
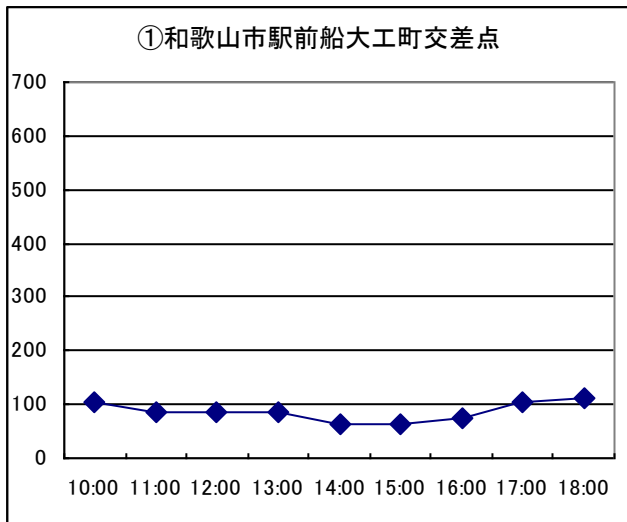
	① 和歌山市駅前線 舟大工町交差点	② フォルテワジマ前	③ ワジマ十番丁ビル前	④ 和歌山市役所前	⑤ けやき大通り 坊主丁交差点	⑥ 損保ジャパン 和歌山ビル	合計
平成 19 年	851	946	3,001	1,739	1,310	1,915	9,762
平成 20 年	1,010	3,190	979	2,123	1,318	1,373	9,993
平成 21 年	826	3,408	813	1,347	1,243	3,589	11,226
平成 22 年	700	2,077	970	592	846	1,870	7,055
平成 23 年	782	2,982	1,119	1,844	951	1,571	9,249
対前年比	11.7%	43.6%	15.4%	211.5%	12.4%	-16.0%	31.1%

単位: 人、%



■時間別の通行量

地点ごとの時間帯別通行量を見ると、②フォルテ・ワジマ前は午前よりも午後・夕方の方が通行量が多くなっている。これは当日開催されたイベント（わかやま城下町バルなど）来場者の影響が考えられる。また、③ワジマ十番丁ビル、④和歌山市役所前、⑤けやき大通り坊主丁交差点、損保ジャパン和歌山ビル前において、夕方の時間帯で18時台の通行量が上がっているのは、「まちなかキャンドルイルミネーション 竹燈夜」(18時から実施されたが途中で中止)の観光客の影響等が考えられる。



平成23年10月15日(日) 休日
 中心市街地区域内歩行者・自転車通行量調査結果

単位:人

		① 和歌山市駅前線 舟大工町交差点	② フォルテワジマ前	③ ワジマ十番ビル前	④ 和歌山市役所前	⑤ けやき大通り 坊主丁交差点	⑥ けやき大通り第一種 市街地再開発事業 実施地点前	合計
10:00~ 11:00	東(北)向き	57	93	49	103	64	99	861
	西(南)向き	46	101	54	81	47	67	
	計	103	194	103	184	111	166	
11:00~ 12:00	東(北)向き	46	146	43	121	52	66	962
	西(南)向き	41	136	34	116	46	115	
	計	87	282	77	237	98	181	
12:00~ 13:00	東(北)向き	37	197	75	103	80	104	1,080
	西(南)向き	50	181	45	47	50	111	
	計	87	378	120	150	130	215	
13:00~ 14:00	東(北)向き	51	190	69	167	58	104	1,189
	西(南)向き	33	178	69	147	37	86	
	計	84	368	138	314	95	190	
14:00~ 15:00	東(北)向き	34	182	52	177	39	82	1,055
	西(南)向き	31	148	56	136	43	75	
	計	65	330	108	313	82	157	
15:00~ 16:00	東(北)向き	31	213	41	77	61	70	956
	西(南)向き	34	176	69	88	37	59	
	計	65	389	110	165	98	129	
16:00~ 17:00	東(北)向き	35	167	55	86	69	123	966
	西(南)向き	41	138	59	65	38	90	
	計	76	305	114	151	107	213	
17:00~ 18:00	東(北)向き	38	208	65	68	54	63	959
	西(南)向き	66	180	56	49	41	71	
	計	104	388	121	117	95	134	
18:00~ 19:00	東(北)向き	64	168	110	171	69	85	1,221
	西(南)向き	47	180	118	42	66	101	
	計	111	348	228	213	135	186	
合計		782	2,982	1,119	1,844	951	1,571	9,249

(3) 調査地点の環境変化等

基本計画策定以降、現在に至るまでの調査地点周辺の環境変化としては、以下に示すとおりである。

年月	事象	備考
H19.12	フォルテワジマー部オープン	
H20.3	十番丁共同住宅・事務所複合ビルオープン	
H21.7	フォルテワジマ全館オープン	
H21～	城まち青空市、「わぁーと！手づくり市場」を開催	
H22.3	JR和歌山駅ビルがリニューアルオープン	
H22.7	城まちeco観光レンタサイクル事業開始	
H22.11	「けやき大通り第一種市街地再開発事業」の商業棟竣工	
H23.7	「けやき大通り第一種市街地再開発事業」の住宅棟竣工	
H23年度中	「けやき大通り第一種市街地再開発事業」のホテル棟竣工予定	

(4) 目標達成の状況と今後の見通し

基本計画は、「城まちハッピーロード通行量」を現況値（平成19年度：9,762人）より「12,680人」増やし「22,500人」とすることを目標とした。一方、今年の城まちハッピーロードの通行量は9,249人であり、目標値との間に大きな乖離が生じている。

計画時にその効果を見込んだ事業のうち未着手の主な取組は「けやき大通り第一種市街地再開発事業」（効果「1,276人」増）のみであり、各種事業を行っているものの、恒常的に大きな効果を生み出していない状況にある。

次節の市民意識調査において、城まちハッピーロード関連事業について、賛成意見やさらなる拡充を求める要望等も見られる一方で、それらの取り組みの認知度や興味度が低い状況から、「城まち賑わい拠点の創出」と同様、関連する取り組みを積極的に市民へPR（情報発信）することが重要な課題と考えられる。

引き続き、基本計画事業を積極的に推進していくとともに、今後JR和歌山駅前に総合案内板の内容充実、城まちハッピーロードの骨格道路である「和歌山市駅前線」、「本町線」の整備を進める予定で、これらハード整備とソフト整備を組み合わせつつ、商店街、和歌山市中心市街地活性化協議会等と連携を図りながら、地域ぐるみで活性化に向けた具体的な事業を検討・実施していく必要がある。

4. 市民意識調査の実施と分析

4-1 市民意識調査の概要

(1) 調査の目的

和歌山市中心市街地活性化基本計画の認定を受け、様々な取組が実施されたことにより、中心市街地の活性化に対する市民意識の変化や中心市街地のあり方を把握するためにアンケート調査を行った。

(2) 調査の概要

○アンケート対象及び手法

調査地域及び対象、方法は、以下のとおりとする。

調査地域：和歌山市全域

調査対象：①中心市街地以外の満16歳以上の和歌山市民2,000人（以下「市民」と言う）

②中心市街地在住の満16歳以上の和歌山市民500人（以下「居住者」と言う）

調査方法：郵送調査

○アンケートの実施期間

発 送：平成23年9月9日（金）

投函締切：平成23年9月28日（水）

○回収結果

①市民アンケート 配布数：2,000 回答数：667 回収率：33.35%

②居住者アンケート 配布数：500 回答数：158 回収率：31.60%

○留意事項

A) 設問ごとの有効回答数は「n=○」と表示しており、回答比率はこれを100%として算出している。

B) 本報告書の数表における比率は百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。

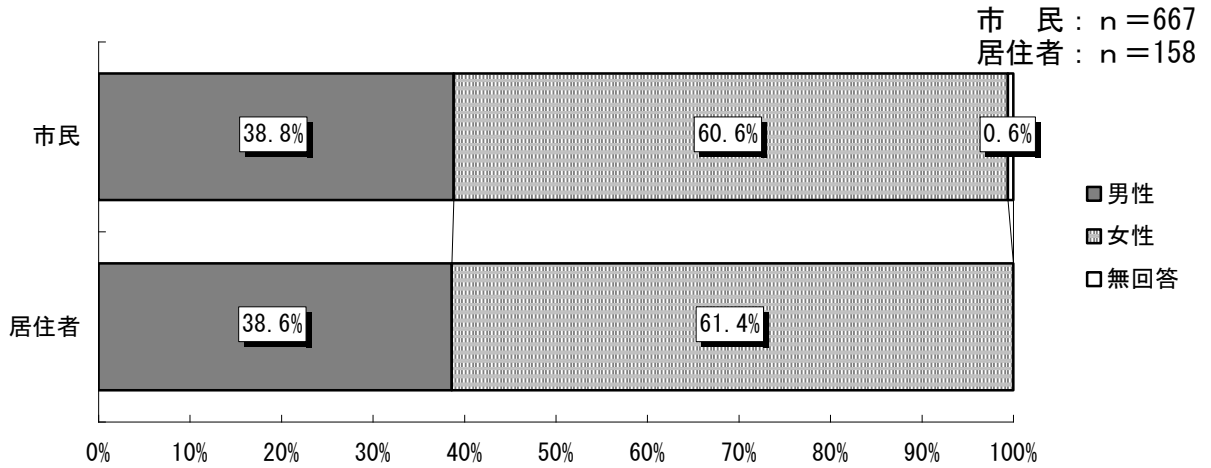
4-2 アンケート集計結果

(1) 回答者について

①性別

あなたの性別は（単独回答）（市民：問1、居住者：問1）

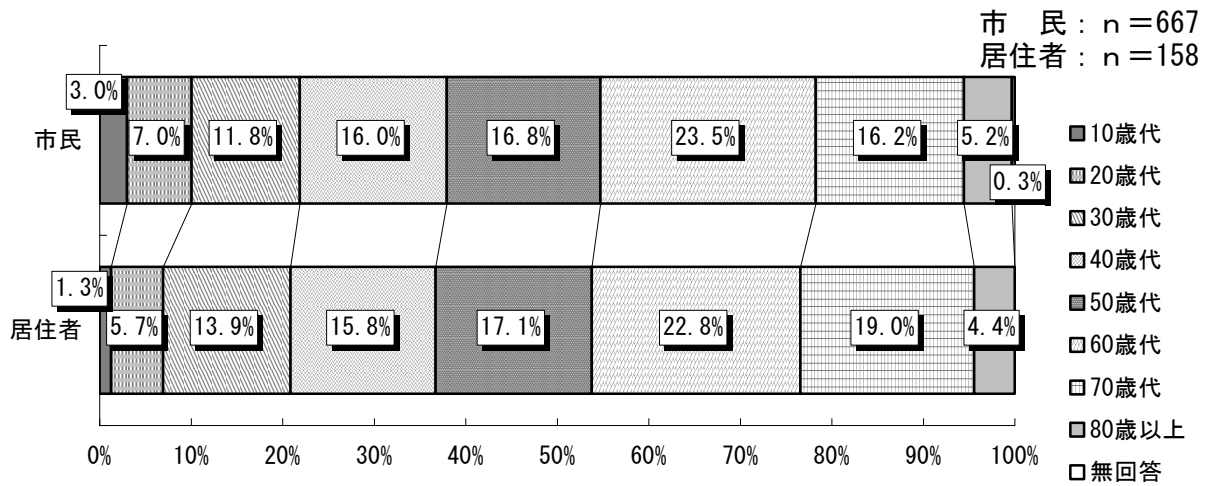
市民、居住者ともに女性の回答が6割程度となっている。



②年齢

あなたの年齢は（単独回答）（市民：問2、居住者：問2）

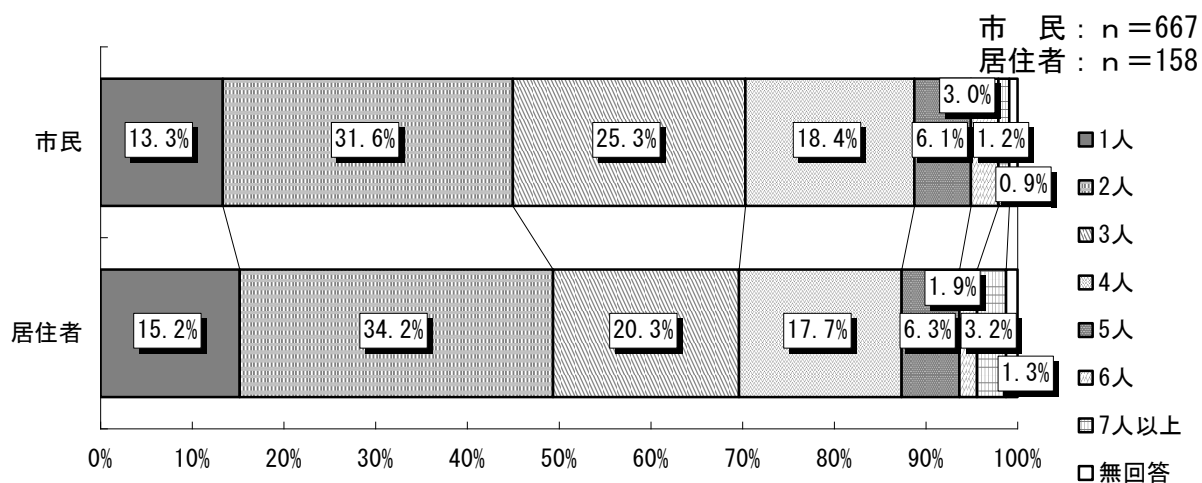
市民、居住者ともに「60歳代」（市民：23.5%、居住者：22.8%）が最も多くなっている。



③同居家族

同居しているご家族は、あなたを含めて何人ですか（単独回答）（市民：問3、居住者：問3）

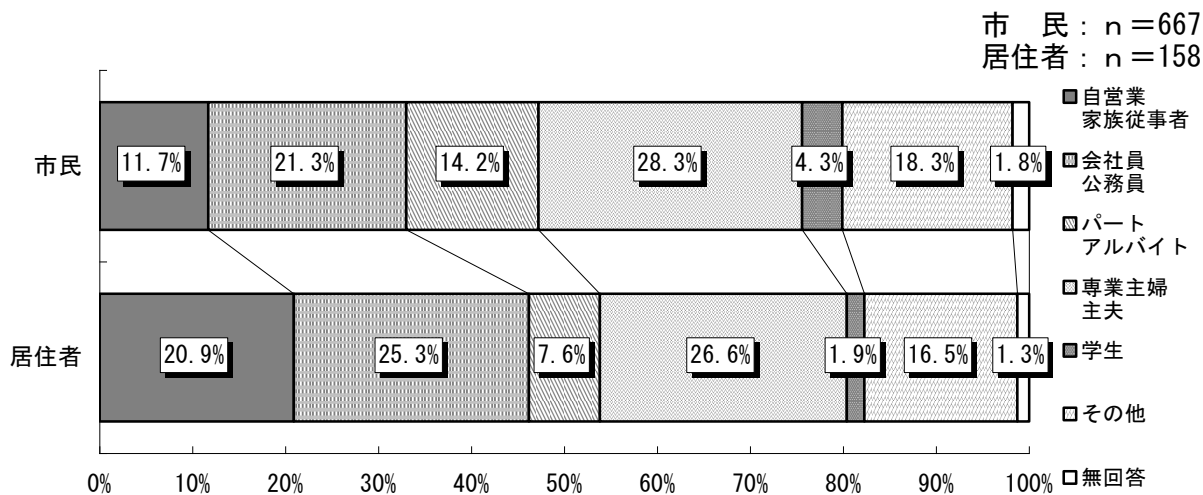
市民、居住者ともに同居している家族の数は「2人」（市民：31.6%、居住者：34.2%）が最も多く、次いで「3人」（市民：25.3%、居住者：20.3%）となっている。



④職業

あなたの職業は（単独回答）（市民：問6、居住者：問5）

市民、居住者ともに職業は「専業主婦・主夫」（市民：28.3%、居住者：26.6%）が最も多く、次いで「会社員・公務員」（市民：21.3%、居住者：25.3%）となっている。



(2) 中心市街地への来訪について

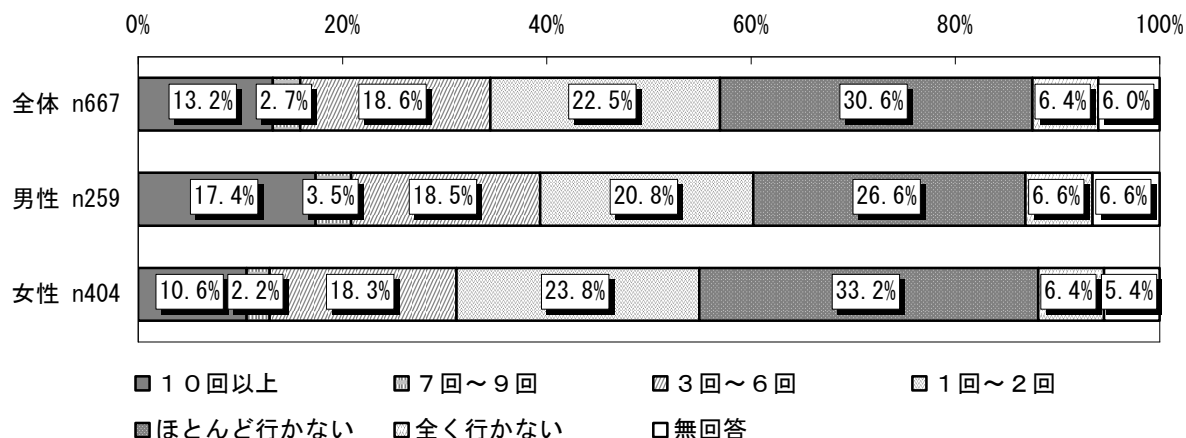
① 1ヶ月の来街頻度（全体、性別集計、年齢別集計）

1カ月に何回くらい中心市街地へ行きますか（単独回答）（市民：問7）

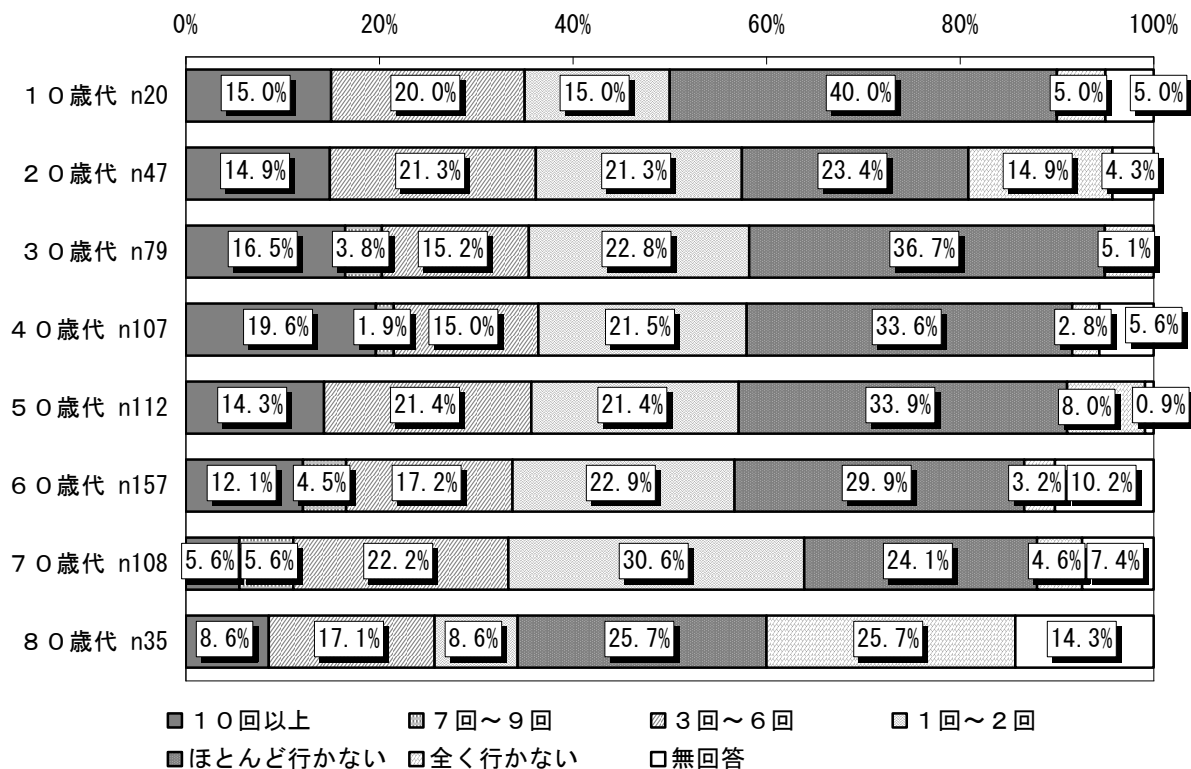
1カ月に何回くらい中心市街地へ行きますか、という質問に対しては、「ほとんど行かない」が204人（30.6%）で最も多く、次いで「1回～2回」が150人（22.5%）であった。

男女間では、「ほとんど行かない」と回答した女性が男性より6.6%多いのに対して、「10回以上」と回答した男性が女性より6.8%多く、来街頻度は男性の方が多い傾向が見られる。

年齢別に見ると、10歳代が「ほとんど行かない」とやや多く回答する傾向があるが、年齢別の結果についてはサンプル数が若干少ないので単純比較は難しい。



※全体の件数には、性別無回答が4件、年代無回答が2件含まれている。



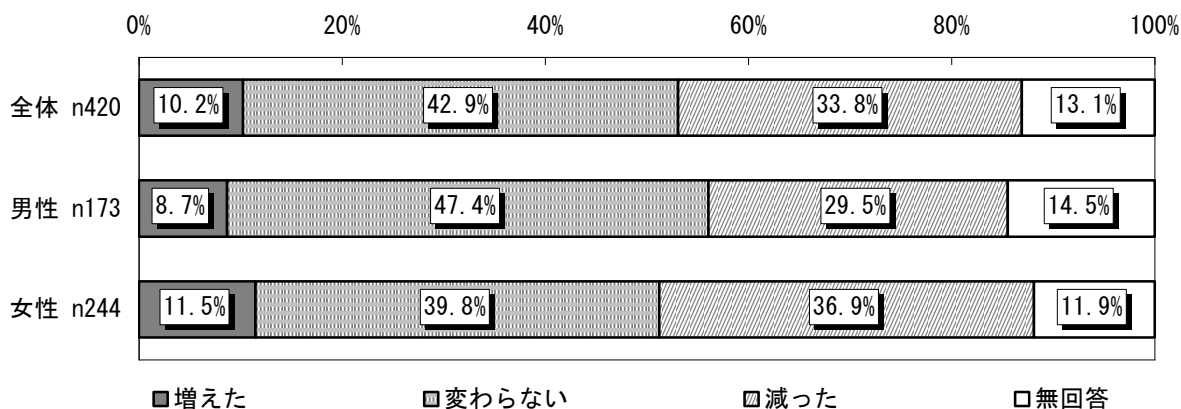
②来街頻度の変化（5年前と比べて）（全体、性別集計、年齢別集計）

5年前と比べて中心市街地へ来る頻度は増えましたか（単独回答）（市民：問8）

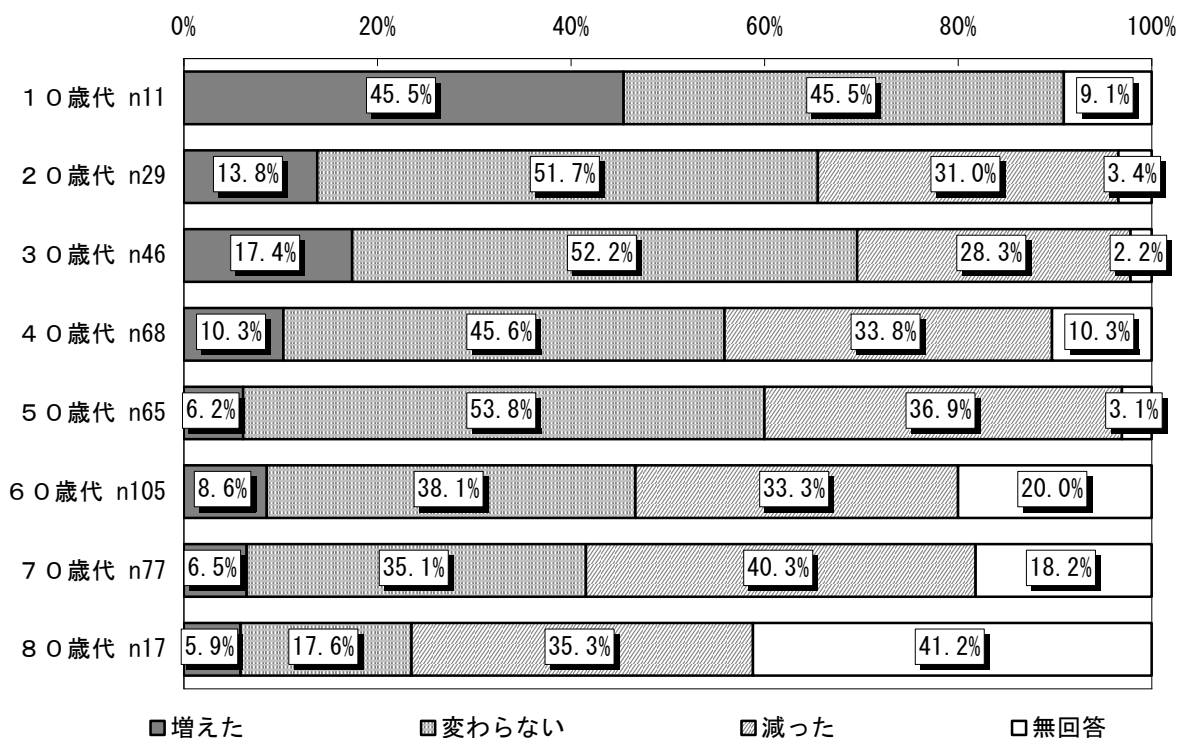
5年前と比べて中心市街地へ来る頻度は増えましたか、という質問に対しては、「変わらない」が180人（42.9%）で最も多く、次いで「減った」が142人（33.8%）、「増えた」が43人（10.2%）であった。

男女間では、大きな違いは見受けられない。

年齢別に見ると、10歳代が「増えた」と回答した割合が著しく高いがサンプル数が少ないので単純比較は難しい。



※全体の件数には、性別無回答が3件、年代無回答が2件含まれている。

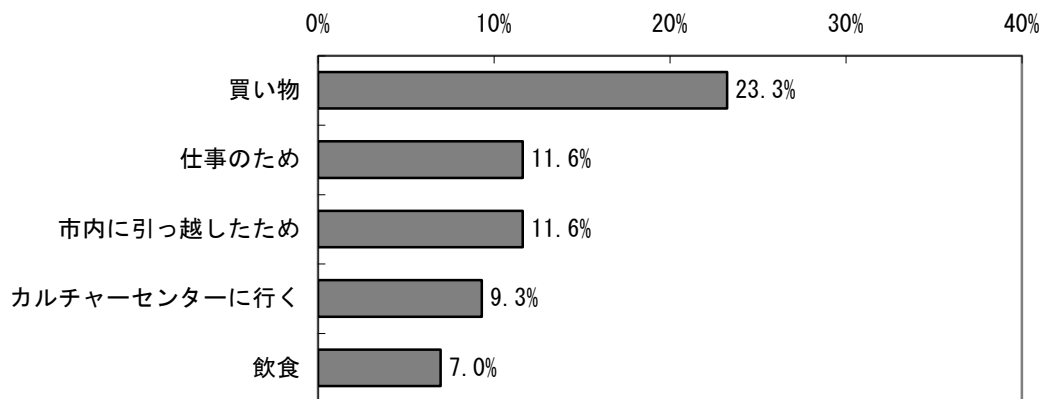


「増えた」または「減った」理由（自由意見）（市民：問8-1）

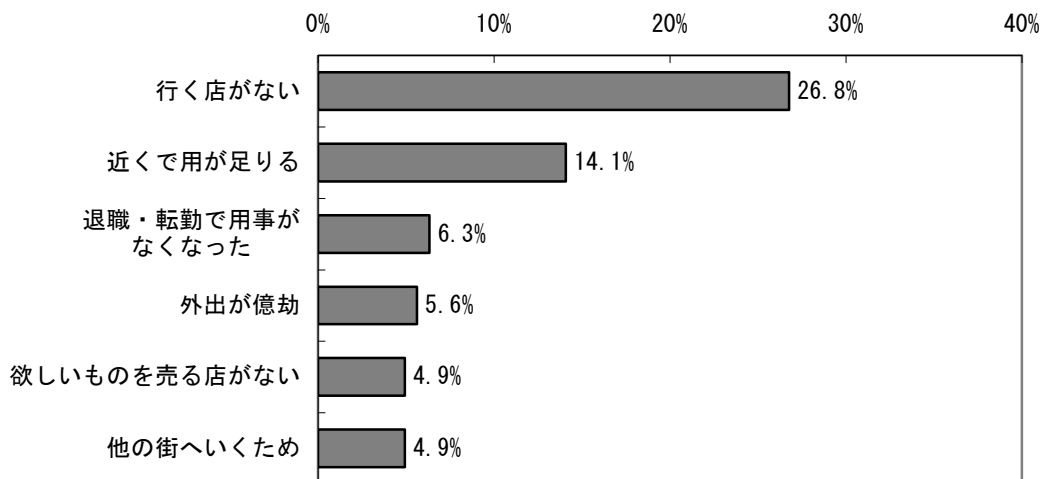
来街頻度の変化について、増えた・減ったと回答した人に、それぞれの理由を聞いたところ、「増えた」と回答した人の理由（43人）は、「買い物」（23.3%）、「仕事のため」（11.6%）、「市内に引っ越したため」（11.6%）、「カルチャーセンターに行く」（9.3%）、「飲食」（7%）等があった。

「減った」と回答した人の理由（142件）は、「行く店がない」（26.8%）、「近くで用が足りる」（14.1%）、「退職・転勤で用事がなくなった」（6.3%）、「外出が億劫」（5.6%）、「欲しいものを売る店がない」（4.9%）、「他の街へいくため」（4.9%）等があった。

増えた理由 トップ5 n43



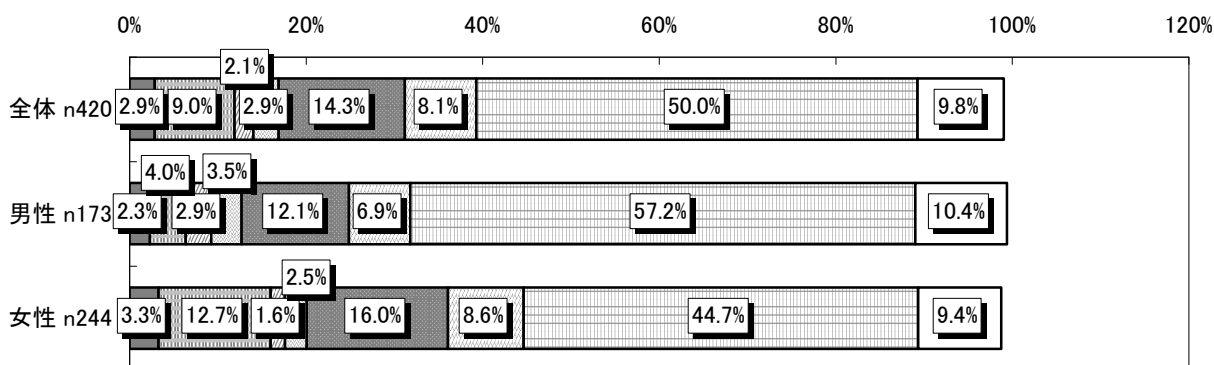
減った理由 トップ5 n142



③ 中心市街地へ行く手段（全体、性別集計、年齢別集計）

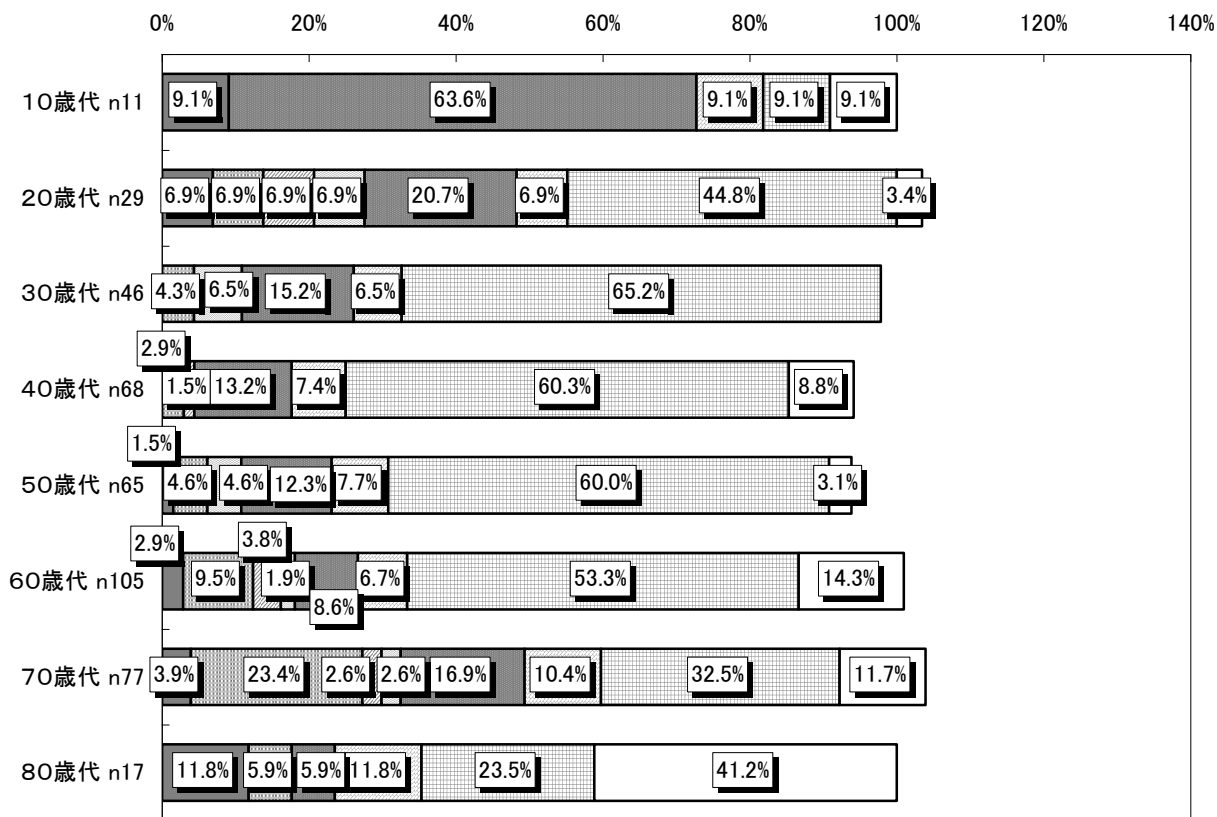
中心市街地へ行く手段は、どれに該当しますか（複数回答）（市民：問9）

中心市街地へ行く手段は、「自家用車」が210人（50%）で最も多く、次いで「自転車」が60人（14.3%）、「バス」が38人（9%）、「バイク」が34人（8.1%）、「電車」と「徒歩」が12人（2.9%）、「タクシー」が9人（2.1%）であった。



■ 電車 ■ バス ■ タクシー ■ 徒歩 ■ 自転車
 ■ バイク ■ 自家用車 ■ その他 ■ 無回答

※全体の件数には、性別無回答が3件、年代無回答が2件含まれている。



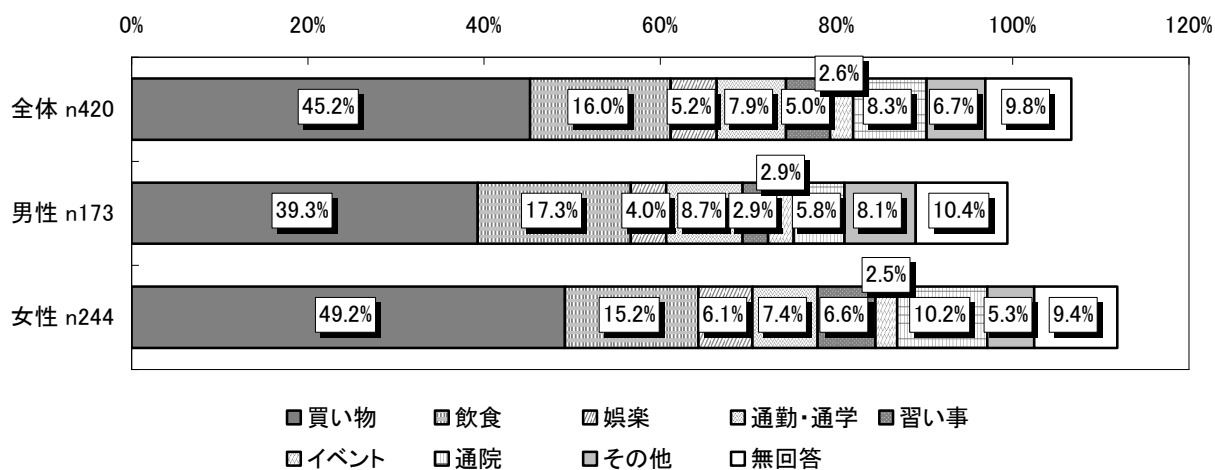
■ 電車 ■ バス ■ タクシー ■ 徒歩 ■ 自転車
 ■ バイク ■ 自家用車 ■ その他 ■ 無回答

※「中心市街地へ行く手段」の集計には複数回答が含まれているので、合計が100%にならない場合がある。

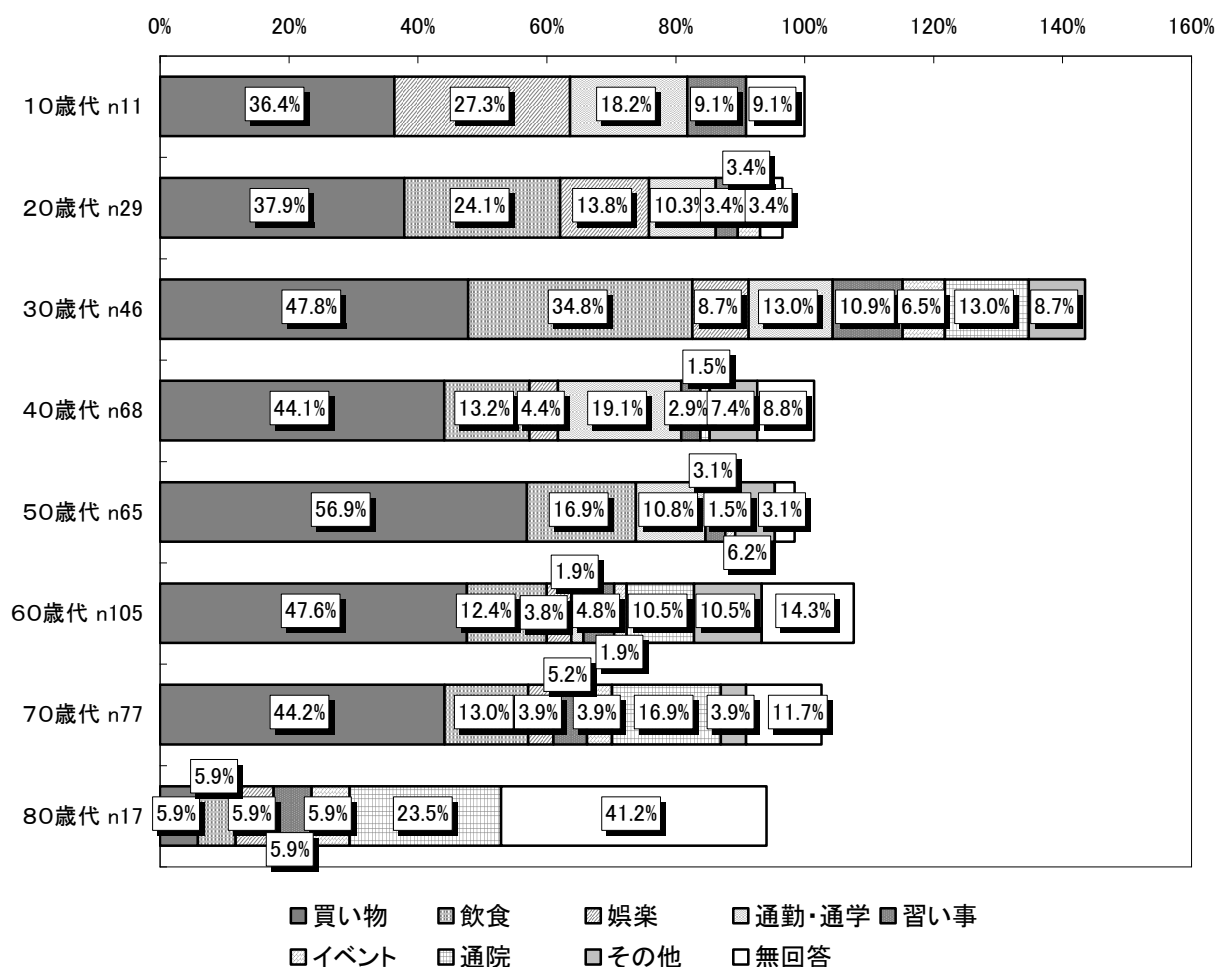
④中心市街地に行く目的（全体、性別集計、年齢別集計）

中心市街地に行く目的は、どれに該当しますか（複数回答）（市民：問10）

中心市街地へ行く目的は、「買い物」が190人（45.2%）で最も多く、次いで「飲食」が67人（16%）、「通院」が35人（8.3%）、「通勤・通学」が33人（7.9%）、「その他」が28人（6.7%）、「娯楽」が22人（5.2%）、「習い事」が21人（5%）、「イベント」が11人（2.6%）であった。



※全体の件数には、性別無回答が3件、年代無回答が2件含まれている。



※「中心市街地に行く目的」の集計には複数回答が含まれているので、合計が100%にならない場合がある。

⑤ 中心市街地の賑わい（全体、性別集計、年齢別集計）

中心市街地の賑わいは5年前と比べてどう変わったと思いますか（単独回答）
 （市民：問11、居住者：問8）

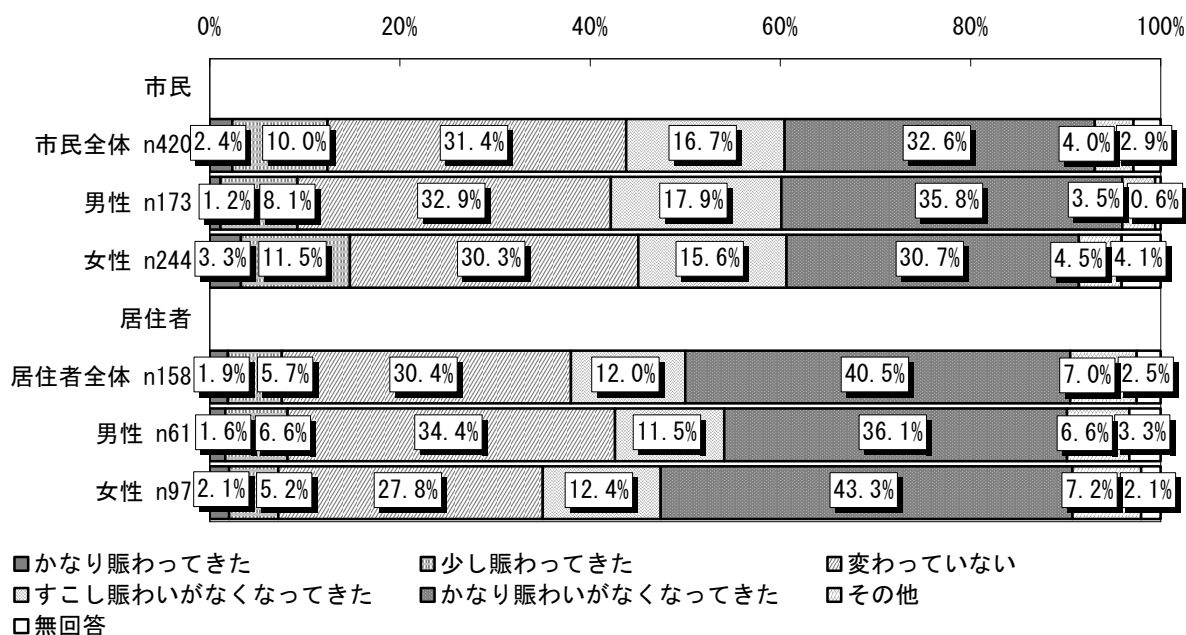
中心市街地の賑わいに対する意見を聞くと、市民、居住者ともに「かなり賑わいがなくなってきた」（市民：32.6%、居住者：40.5%）が最も多く、次いで「変わっていない」（市民：31.4%、居住者：30.4%）となっている。

市民の中心市街地の賑わいは、「かなり賑わいがなくなってきた」が137人（32.6%）で最も多く、次いで「変わっていない」が132人（31.4%）、「すこし賑わいがなくなってきた」が70人（16.7%）、「少し賑わってきた」が42人（10%）、「その他」が17人（4%）、「かなり賑わってきた」が10人（2.4%）であった。

居住者の中心市街地の賑わいは、「かなり賑わいがなくなってきた」が64人（40.5%）で最も多く、次いで「変わっていない」が48人（30.4%）、「すこし賑わいがなくなってきた」が19人（12%）、「その他」が11人（7%）、「少し賑わってきた」が9人（5.7%）、「かなり賑わってきた」が3人（1.9%）であった。

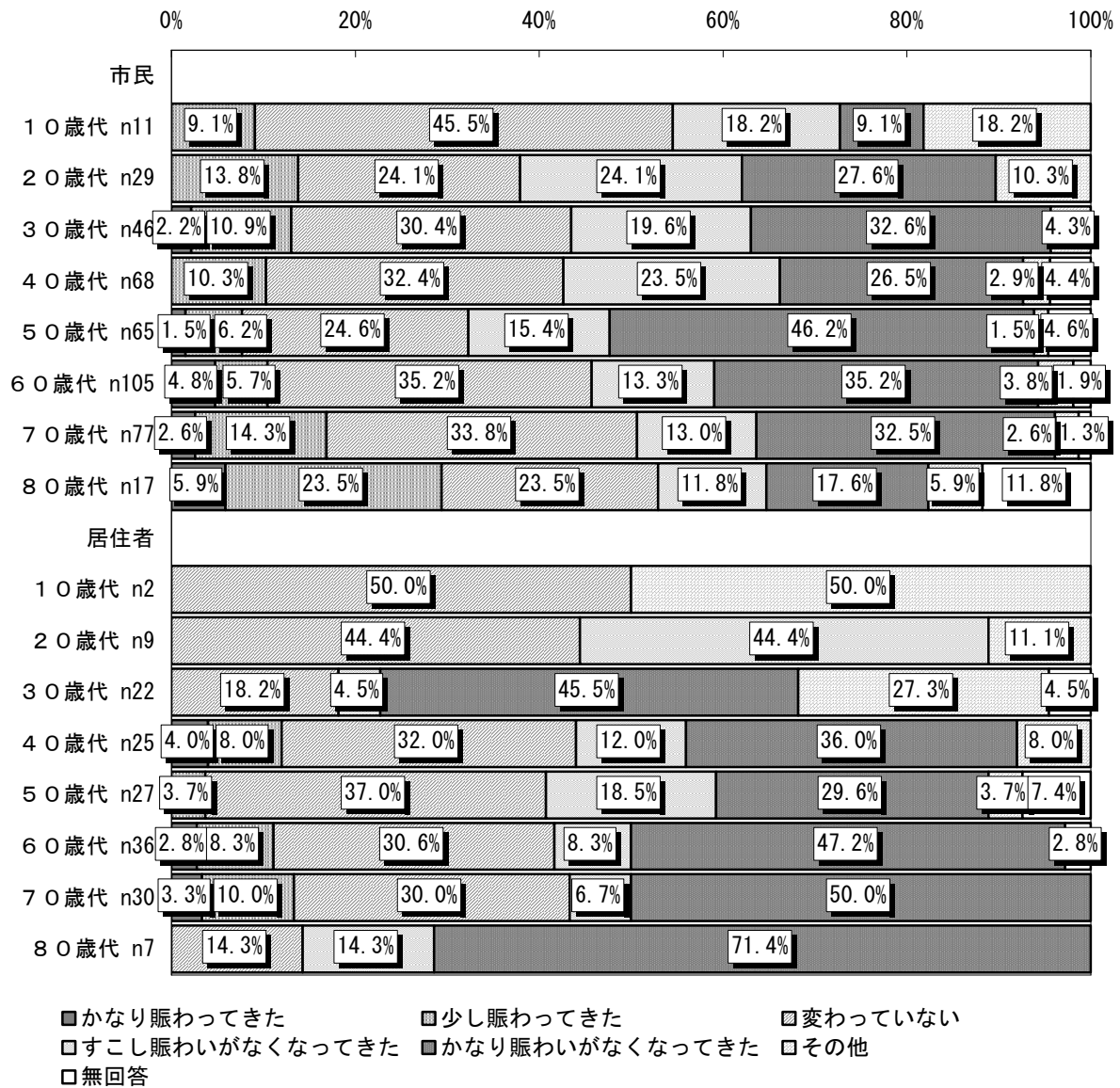
全体的に賑わいが無いと感じている人が半数前後占めている。

また、市民と居住者では大きな変化は見られないが、居住者の方がやや賑わいが無いと回答している傾向がみられる。



中心市街地の賑わい（年齢別集計）

中心市街地の賑わいに対する意見の年齢別集計は以下のグラフが示す通りである。特に居住者の10歳代・20歳代・30歳代では賑わってきたという意見が全く見られないが、サンプル数が少ないので単純比較は難しい。



※サンプル数が少ないため、単純に世代間比較はできない。

⑥どのようにすれば中心市街地を訪れる人が増える

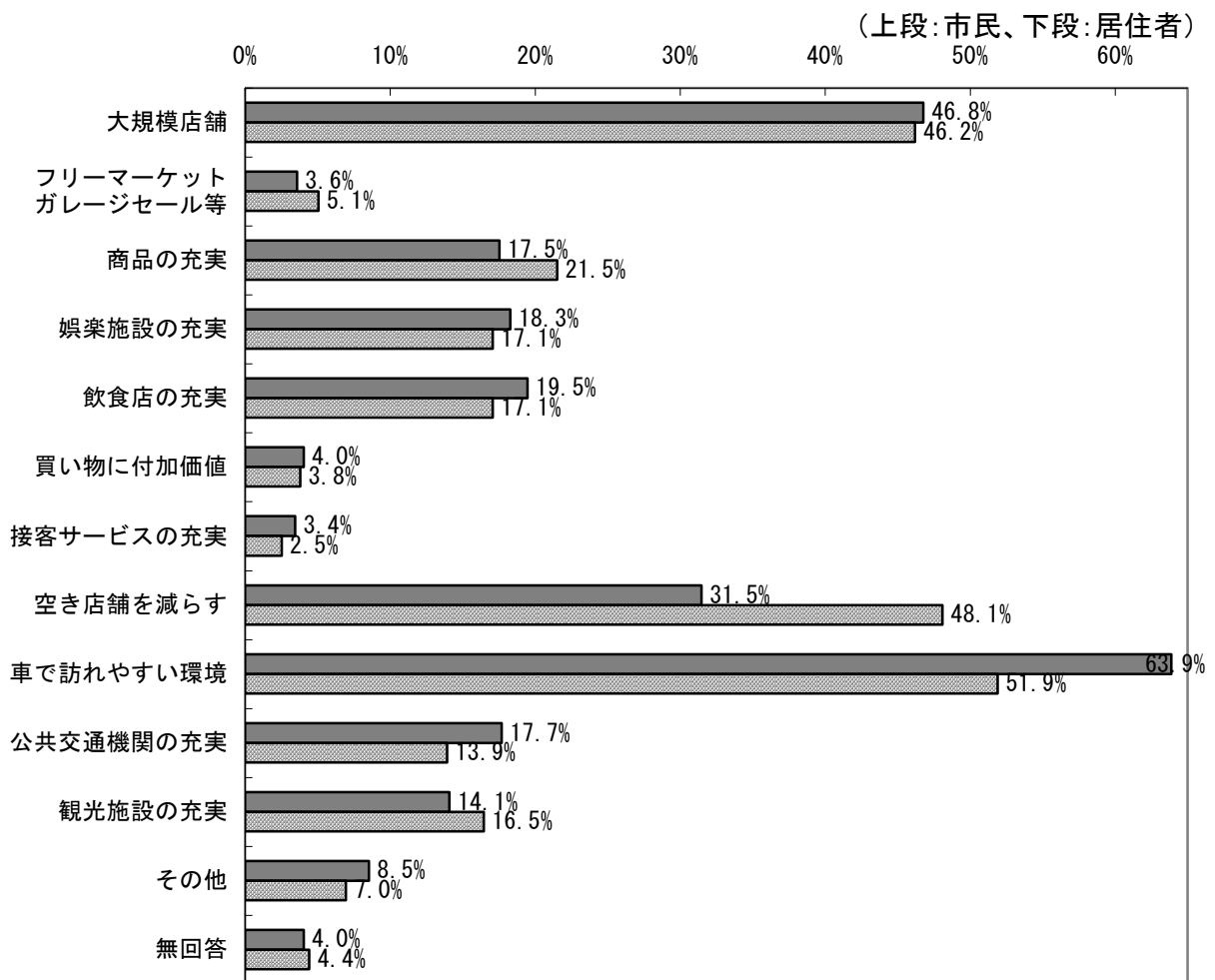
どのようにすれば中心市街地を訪れる人が増えると思いますか（複数回答）

（市民：問12、居住者：問9）

どのようにすれば中心市街地を訪れる人が増える、については、市民は「車で訪れやすい環境」（63.9%）が最も多く、次いで「大規模店舗」（46.8%）、「空き店舗を減らす」（31.5%）の順に意見が多い。

居住者は「車で訪れやすい環境」（51.9%）が最も多く、次いで「空き店舗を減らす」（48.1%）、「大規模店舗」（46.2%）の順に意見が多い。

市民、居住者ともに各意見は概ね同程度の比率だが、市民では「車で訪れやすい環境」が居住者意見に比べ特に意見が多く、居住者では「空き店舗を減らす」が市民意見に比べ特に意見が多くなっている。



(3) 中心市街地の商業について

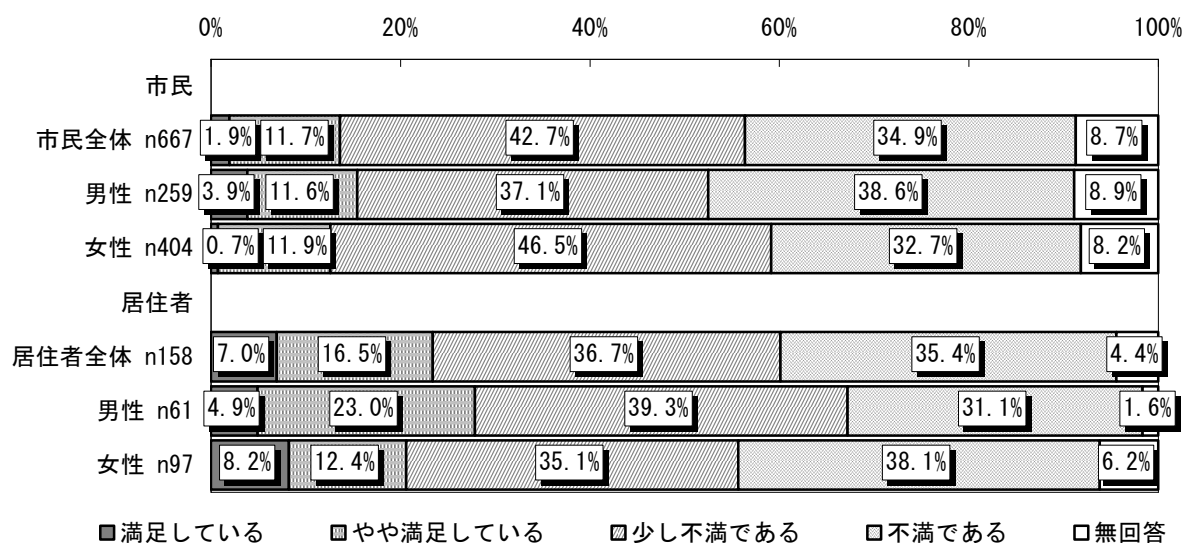
①中心市街地の商業サービス満足度（全体、性別集計、年齢別集計）

中心市街地の商業サービスについて満足していますか（単独回答）
（市民：問13、居住者：問7）

中心市街地の商業サービスに対する意見を聞くと、市民、居住者ともに「少し不満である」（市民：42.7%、居住者：36.7%）が最も多く、次いで「不満である」（市民：34.9%、居住者：35.4%）となっている。

全体的に不満と答えた人が多く、約7割以上になっている。市民と居住者では大きな変化は見られないが、居住者の方が市民より満足度がやや高い傾向が見られる。

また、平成19年度・平成21年度に実施したアンケート調査（以下「前々回調査」「前回調査」という）と比較して不満と答えた人の比率はあまり変化していない。



※市民全体の件数には、性別無回答が4件、年代無回答が2件含まれています。

本設問に関して、前回調査の結果と比較すると、市民では、満足している（満足、やや満足を含む）と答えた人の割合は前回調査からあまり変化していない（満足・やや満足合わせて13.6%→13.6%）。

居住者では、満足していると答えた人の割合は前回調査より若干減少している（満足・やや満足合わせて25%→23.5%）。詳細は、以下の「前々回・前回との比較①」、「前々回・前回との比較②」に掲載した通りである。

◆市民アンケート「前々回・前回との比較①」

	H19年度 (前々回調査)	H21年度 (前回調査)	H23年度 (今回調査)
満足	1.3%	0.0%	1.9%
やや満足	7.6%	13.6%	11.7%
少し不満	37.7%	37.7%	42.7%
不満	48.5%	38.9%	34.9%
無回答	4.9%	9.9%	8.7%

◆居住者アンケート「前々回・前回との比較②」

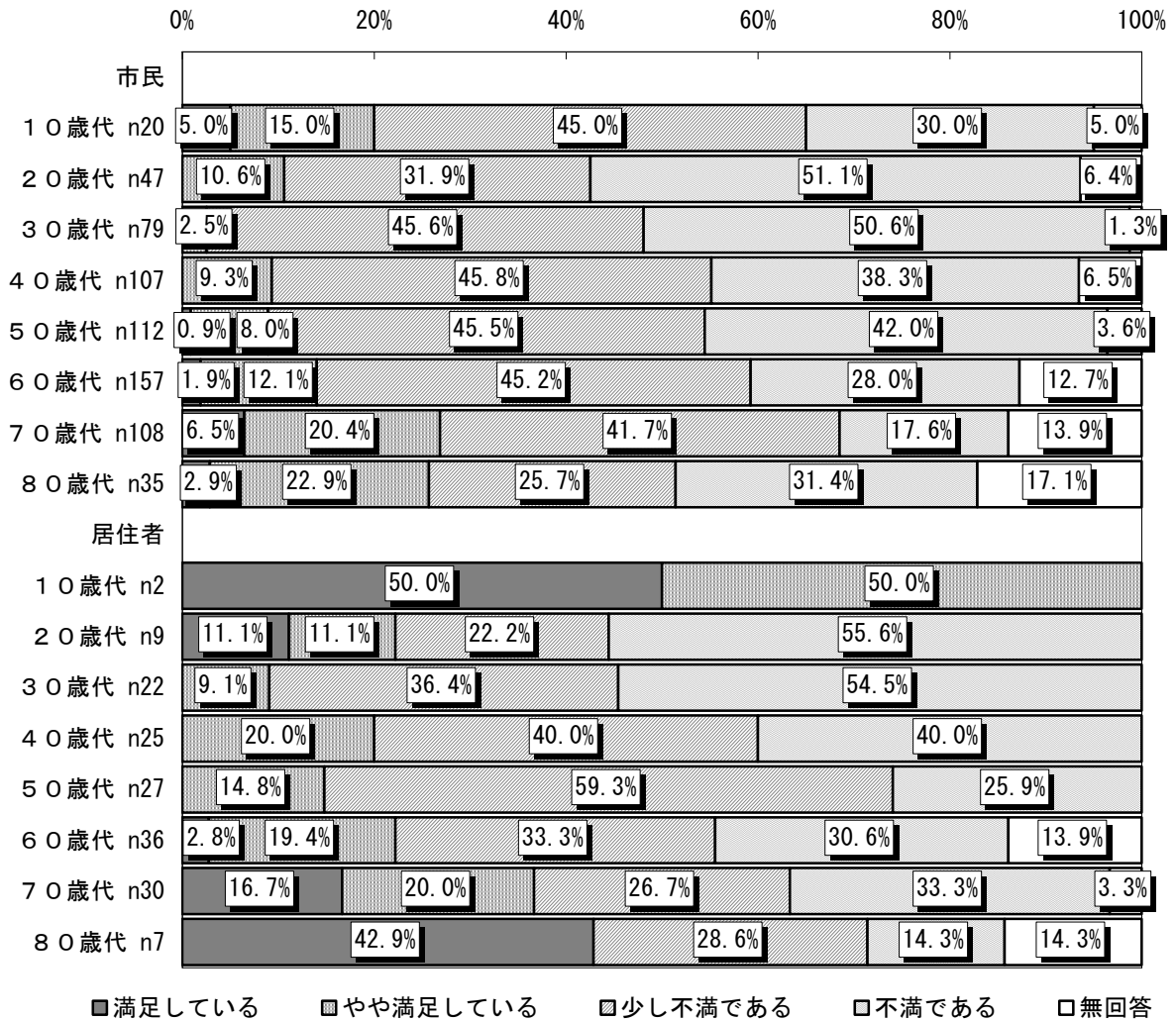
	H19年度 (前々回調査)	H21年度 (前回調査)	H23年度 (今回調査)
満足	0.6%	5.0%	7.0%
やや満足	8.3%	20.0%	16.5%
少し不満	36.9%	40.9%	36.7%
不満	50.3%	29.5%	35.4%
無回答	3.8%	4.5%	4.4%

※前々回・前回との比較は、市民全体、居住者全体の回答を比較している。

中心市街地の商業サービス満足度（年齢別集計）

中心市街地の商業サービスの満足度について、市民・居住者別、年齢別に見ると以下のグラフが示す通りである。

居住者の満足度は市民より高い傾向にあるが、サンプル数が少ないので単純比較は難しい。



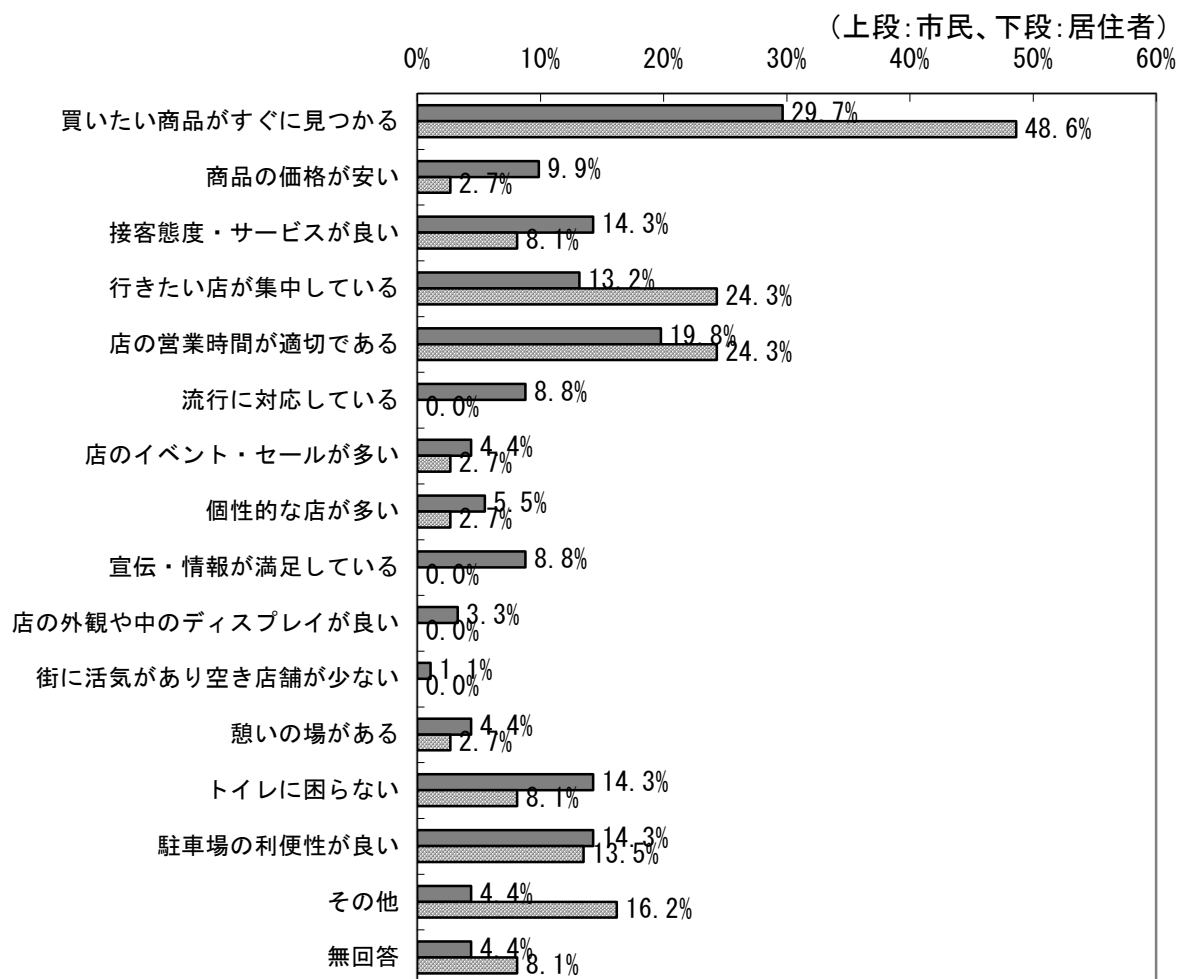
②満足している理由

満足している点はどのようなところですか（複数回答）（市民：問13-1、居住者：問7-1）

満足している理由については、市民は「買いたい商品がすぐに見つかる」（29.7%）が最も多く、次いで「店の営業時間が適切である」（19.8%）、「接客態度・サービスが良い」（14.3%）、「トイレに困らない」（14.3%）、「駐車場の利便性が良い」（14.3%）の順に意見が多い。

居住者は「買いたい商品がすぐに見つかる」（48.6%）が最も多く、次いで「行きたい店が集中している」（24.3%）、「店の営業時間が適切である」（24.3%）の順に意見が多い。

市民では「商品の価格が安い」、「流行に対応している」、「トイレに困らない」などの意見が居住者より多かった。また、居住者では「買いたい商品がすぐに見つかる」、「行きたい店が集中している」などの意見が市民より多かった。



市民、居住者のトップ3は以下の表の通りである。

◆市民アンケート

満足 トップ3	H23年度 (今回調査)	
第1位	買いたい商品	29.7 %
第2位	営業時間	19.8 %
第3位	接客・サービス	14.3 %
	トイレに困らない	14.3 %
	駐車場の利便性	14.3 %

◆居住者アンケート

満足 トップ3	H23年度 (今回調査)	
第1位	買いたい商品	48.6 %
第2位	店が集中	24.3 %
	営業時間	24.3 %

③満足していない理由

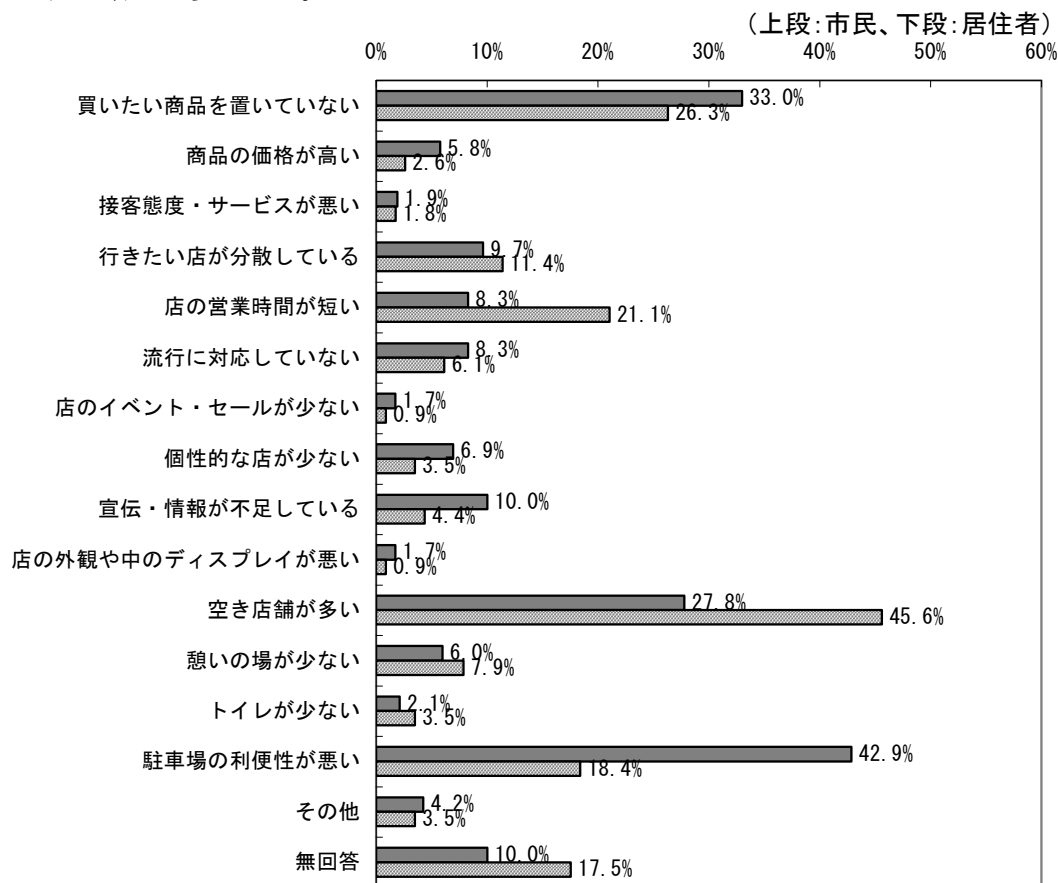
満足していない点があるとするば、その理由は何だと感じますか（複数回答）

（市民：問13-2、居住者：問7-2）

満足していない理由については、市民は「駐車場の利便性が悪い」（42.9%）が最も多く、次いで「買いたい商品を置いていない」（33.0%）、「空き店舗が多い」（27.8%）の順に意見が多い。

居住者は「空き店舗が多い」（45.6%）が最も多く、次いで「買いたい商品を置いていない」（26.3%）、「店の営業時間が短い」（21.1%）の順に意見が多い。

市民では「駐車場の利便性が悪い」が著しく多く、居住者では「空き店舗が多い」といった意見が著しく多かった。



前々回・前回調査との比較では、市民の前々回・前回調査の第2位・第3位が「空き店舗」「買いたい商品」であったが、今回調査では「買いたい商品」「空き店舗」と入れ替わり、駐車場に対する不満がやや上がっている。居住者のトップ3は前回と変わらないが、全体的に比率が若干減少している。

◆市民アンケート「前々回・前回との比較③」

不満 トップ3	H19年度 (前々回調査)	H21年度 (前回調査)	H23年度 (今回調査)
第1位	駐車場 36.9%	駐車場 38.2%	駐車場 42.9%
第2位	空き店舗 35.0%	空き店舗 31.5%	買いたい商品 33.0%
第3位	買いたい商品 29.6%	買いたい商品 30.2%	空き店舗 27.8%

◆居住者アンケート「前々回・前回との比較④」

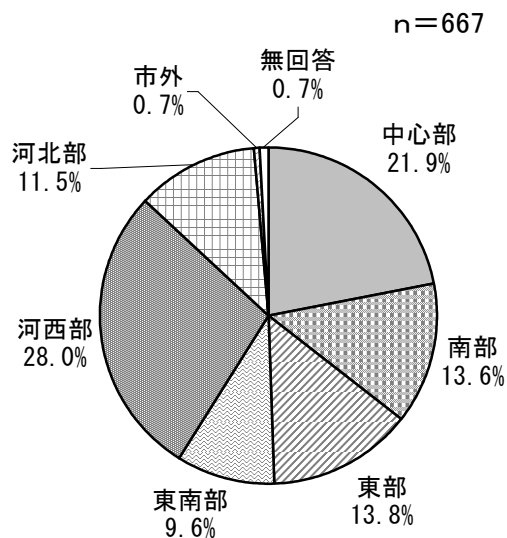
不満 トップ3	H19年度 (前々回調査)	H21年度 (前回調査)	H23年度 (今回調査)
第1位	空き店舗 52.8%	空き店舗 54.5%	空き店舗 45.6%
第2位	買いたい商品 27.6%	買いたい商品 38.3%	買いたい商品 26.3%
第3位	営業時間 23.0%	営業時間 25.4%	営業時間 21.1%

(4) 中心市街地の居住環境について

①市民居住地区・エリア

住んでいる地区はどこですか(単独回答)(市民：問4)

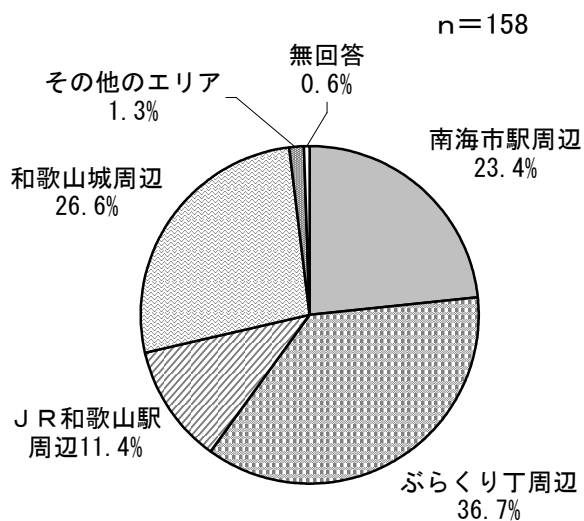
回答者が現在住んでいる地区は、「河西部」が最も多く 187 人 (28%)、次いで「中心部」が 146 人 (21.9%)、「東部」が 92 人 (13.8%)、「南部」が 91 人 (13.6%)、「河北部」が 77 人 (11.5%)、「東南部」が 64 人 (9.6%)、「市外」が 5 人 (0.7%) となっている。



②居住者居住地区・エリア

住まいは、中心市街地のうち次のどのエリア(最も近く)に該当しますか(単独回答)(居住者：問10)

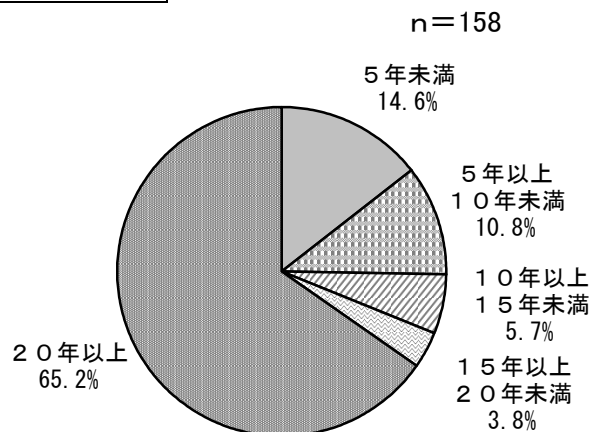
自宅があるエリアについては、「ぶらくり丁周辺」が最も多く 58 人 (36.7%)、次いで「和歌山城周辺」が 42 人 (26.6%)、「南海市駅周辺」が 37 人 (23.4%)、「JR和歌山駅周辺」が 18 人 (11.4%)、「その他のエリア」が 2 人 (1.3%) となっている。



③居住年数

中心市街地に住んで何年経ちますか(単独回答)(居住者：問6)

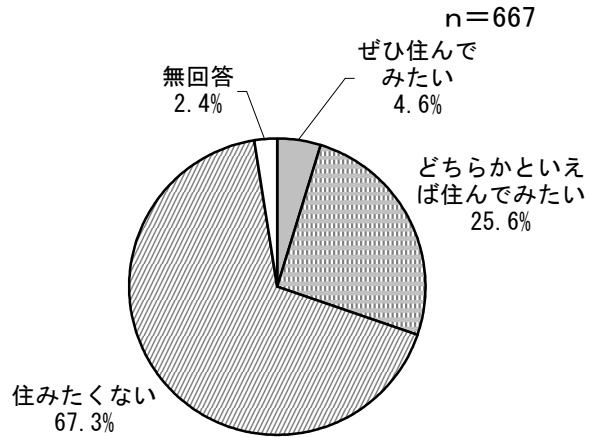
回答者の中心市街地での居住年数については、「20年以上」が圧倒的に多く 103 人 (65.2%)、次いで「5年未満」が 23 人 (14.6%)、「5年以上10年未満」が 17 人 (10.8%)、「10年以上15年未満」が 9 人 (5.7%)、「15年以上20年未満」が 6 人 (3.8%) となっている。



④ 中心市街地への居留意向

中心市街地に住んでみたいと思いますか（単独回答）（市民：問14）

中心市街地に住んでみたいか聞いたところ、「住みたくない」が全体の7割弱を占める。前回調査と比較すると、住んでみたい人と住みたくない人の割合はほとんど変化していない。詳細は以下に掲載した「前々回・前回との比較⑤」のとおりである。



◆市民アンケート「前々回・前回との比較⑤」

	H19年度 (前々回調査)	H21年度 (前回調査)	H23年度 (今回調査)
ぜひ住んでみたい	8.2%	4.5%	4.6%
どちらかといえば住んでみたい	31.6%	25.3%	25.6%
住みたくない	57.2%	66.6%	67.3%
無回答	3.0%	3.6%	2.4%

⑤ 最も住んでみたいエリア

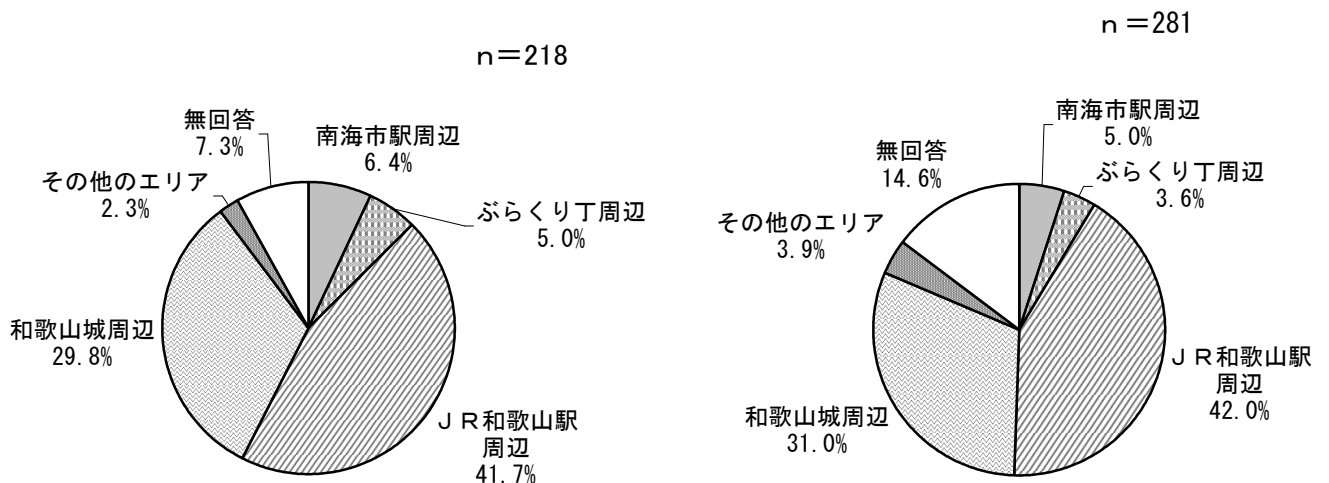
中心市街地の中でも最も住んでみたいと思うエリア（単独回答）（市民：問15）

中心市街地に「住みたくない」と答えた人を除き、最も住んでみたいと思うエリアを聞いたところ、最も多かったのが「JR和歌山駅周辺」の91人（41.7%）、次いで「和歌山城周辺」の65人（29.8%）、であった。

前回調査と比較すると、ほとんど変化していなかった。

【今回調査】

【前回調査】



⑥居住形態

現在お住まいの住宅のタイプは、どれに該当しますか（単独回答）

（市民：問5 A・B・C、居住者：問4 A・B・C）

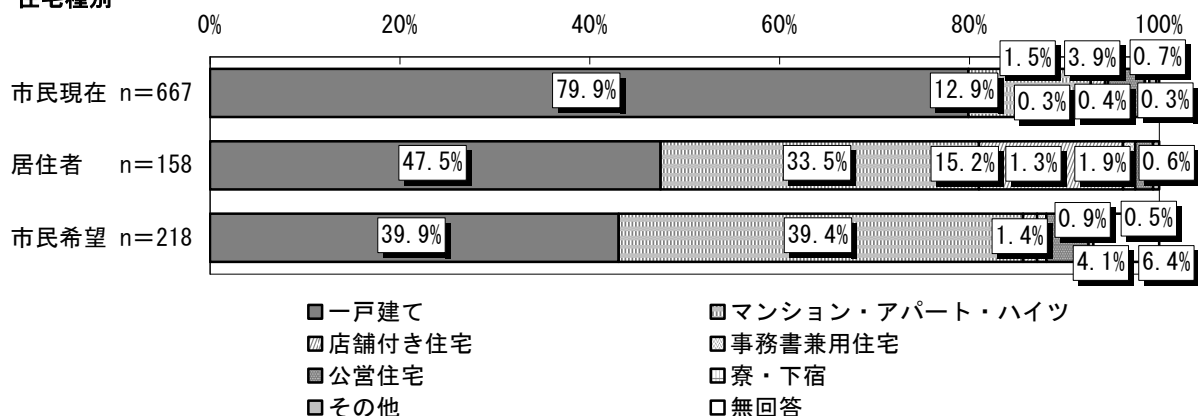
中心市街地に住んでみたい住宅のタイプは、どれに該当しますか（単独回答）

（市民：問16 A・B・C）

市民が現在住んでいる住宅、居住者が現在住んでいる住宅、市民が中心市街地内で住んでみたい住宅について比較した結果は以下のとおりである。

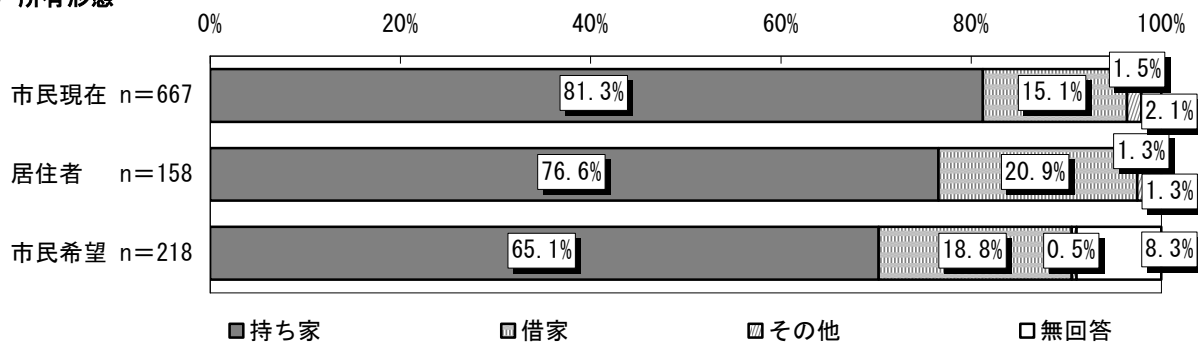
住宅種別を見ると、市民の現在の住環境と比べ、中心市街地では「マンション・アパート・ハイツ」を選択する傾向が高まる。

A 住宅種別



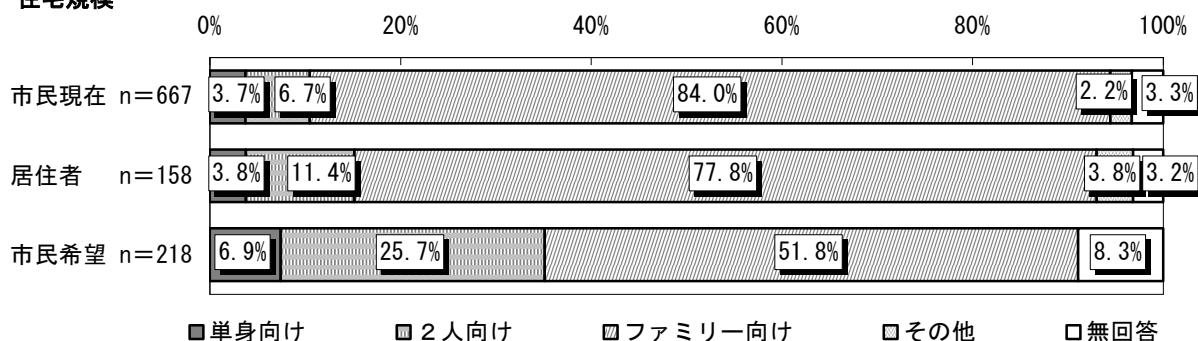
所有形態について見ると、前記のとおり「マンション・アパート・ハイツ」を選択する傾向の割には「借家」希望はそれほど増えない。

B 所有形態



中心市街地では中心市街地外よりも単身向け、2人向けのニーズの高さうかがえるものの、ファミリー向けへの居住希望も過半数を占める。

C 住宅規模

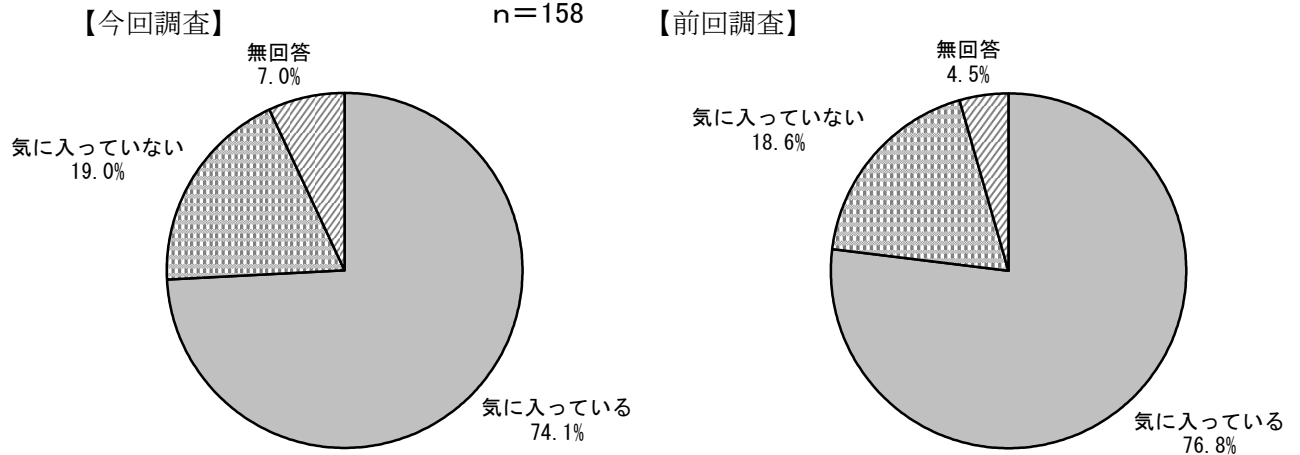


⑦ 中心市街地での生活

中心市街地での生活を気に入っていますか（単独回答）（居住者：問12、問12-1）

中心市街地での生活を気に入ってるかどうかについては、「気に入ってる」が約7割以上を占める。

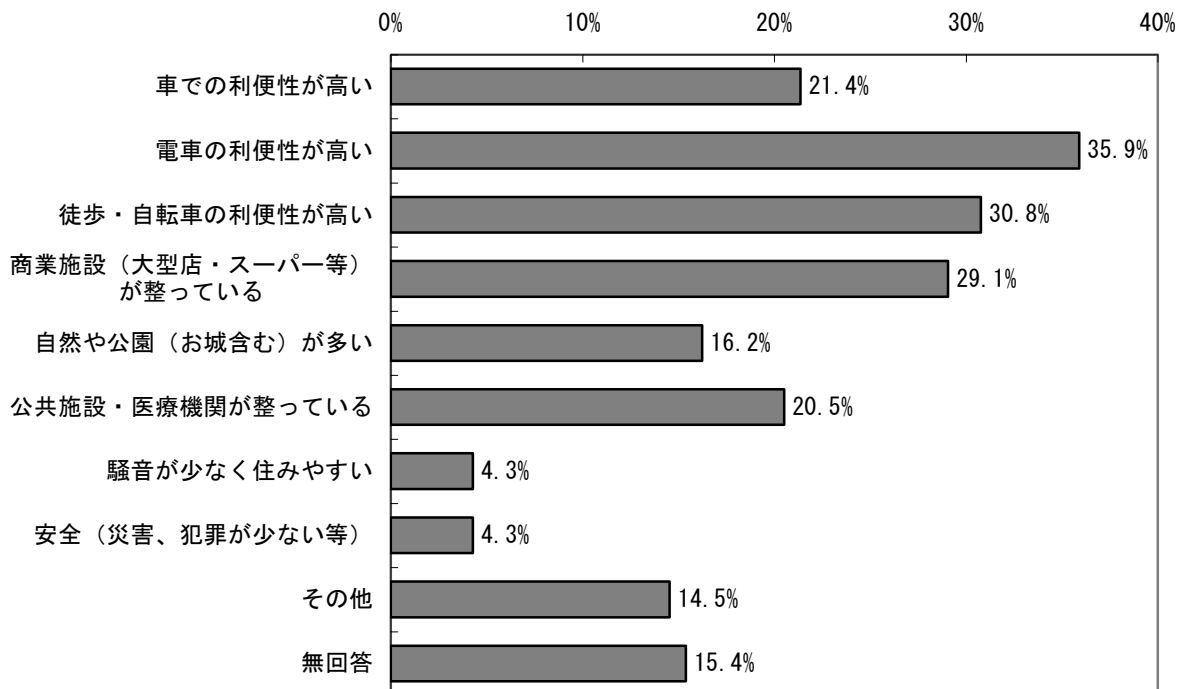
また、前回調査と比較してほとんど割合は変化していない。



「気に入っている理由」

「気に入っている」理由としては、回答者 117 人（100%）のうち「交通の利便性が高いから」という趣旨の回答が最も多く 49 人（41.9%）を占めるため、さらに細分化して「車での利便性が高い」、「電車の利便性が高い」、「徒歩・自転車の利便性が高い」の 3 種類に分類集計した。

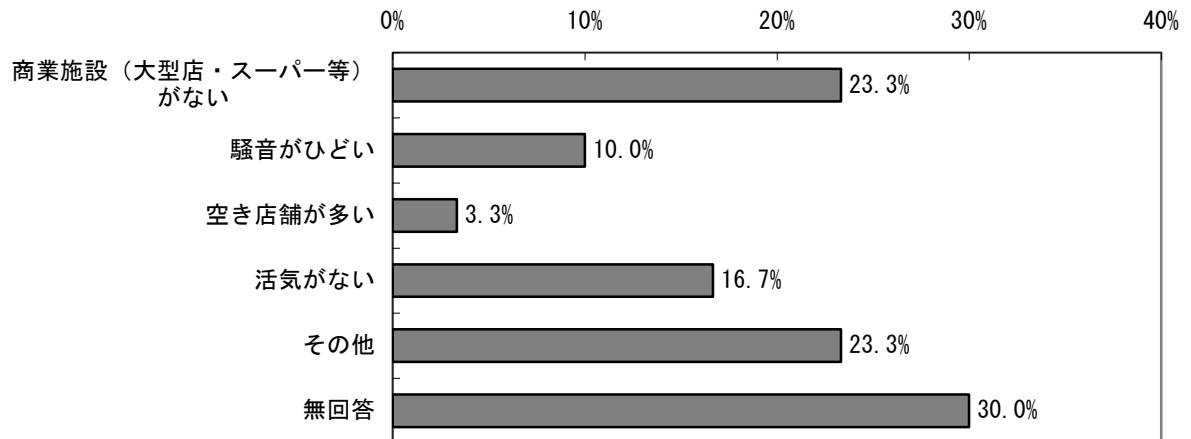
細分化した「気に入っている」理由については、「電車の利便性が高い」が最も多く 42 人（35.9%）、次いで「徒歩・自転車の利便性が高い」が 36 人（30.8%）、「商業施設（大型店・スーパー等）が整っている」が 34 人（29.1%）、「車での利便性が高い」が 25 人（21.4%）、「公共施設・医療機関が整っている」が 24 人（20.5%）、「自然や公園（お城含む）が多い」が 19 人（16.2%）、「その他」が 17 人（14.5%）、「騒音が少なく住みやすい」が 5 人（4.3%）、「安全（災害、犯罪が少ない等）」が 5 人（4.3%）であった。



「気に入っていない理由」

「気に入っていない」理由としては、回答者 30 人（100%）のうち「商業施設（大型店・スーパー）等がない」と「その他」が最も多く 7 人（23.3%）、次いで「活気がない」が 5 人（16.7%）、「騒音がひどい」が 3 人（10%）、「空き店舗が多い」が 1 人（3.3%）であった。

前回調査と比較して、「固定資産税が高い」、「家賃・月極駐車場代が高い」といった意見が見られなくなった。



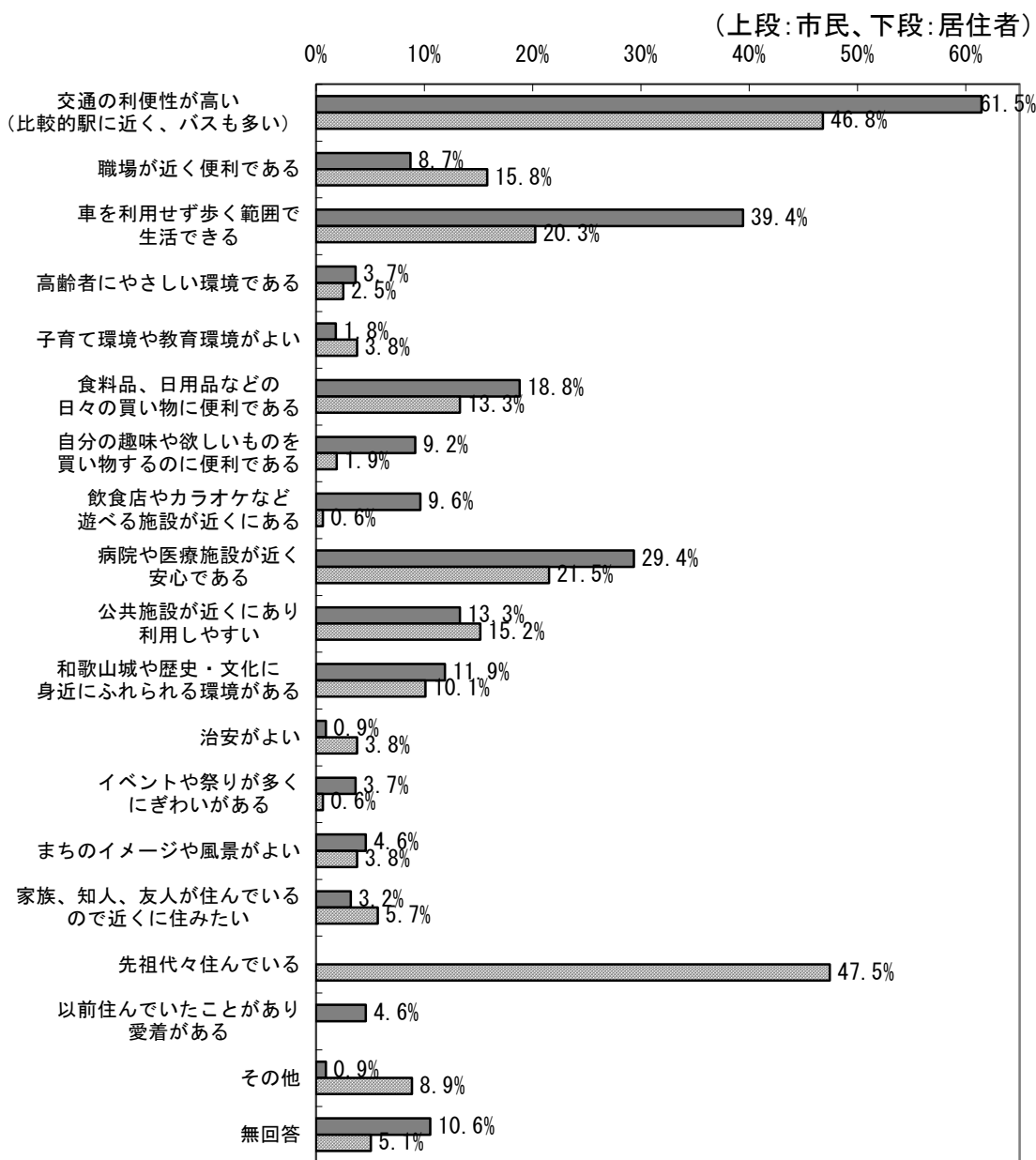
⑧ 中心市街地に住んでみたい理由（市民）と中心市街地に住んでいる理由（居住者）

中心市街地に住んでみたいと思う理由は何ですか（複数回答）（市民：問17）

中心市街地に住んでいる理由は何ですか（複数回答）（居住者：問11）

市民が中心市街地に住んでみたいと思う理由を聞いたところ、「交通の利便性が高い」が134人（61.5%）で、次いで「車を利用せず歩く範囲で生活できる」が86人（39.4%）、「病院や医療施設が近く安心である」が64人（29.4%）となった。

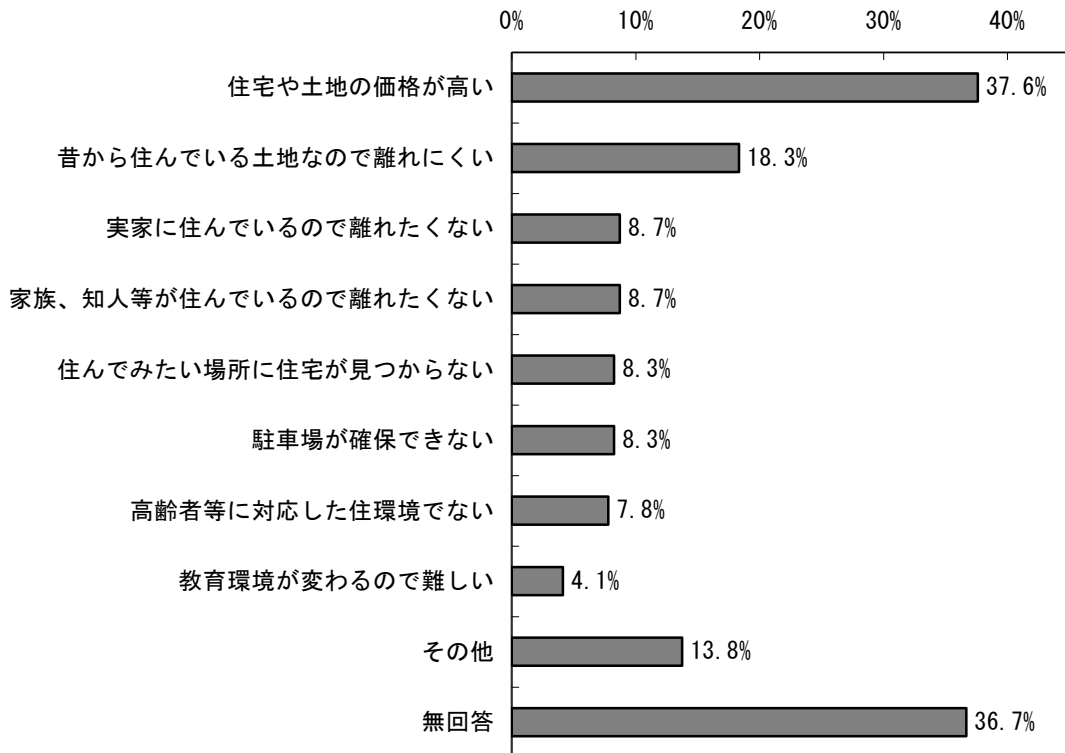
居住者が中心市街地に住んでいる理由は、「先祖代々住んでいる」が最も多く75人（47.5%）、次いで「交通の利便性が高い」が74人（46.8%）で、この2つが圧倒的に多かった。



⑨住み替えていない理由

中心市街地に住んでみたいが、住み替えていない理由は何ですか（複数回答）（市民：問18）

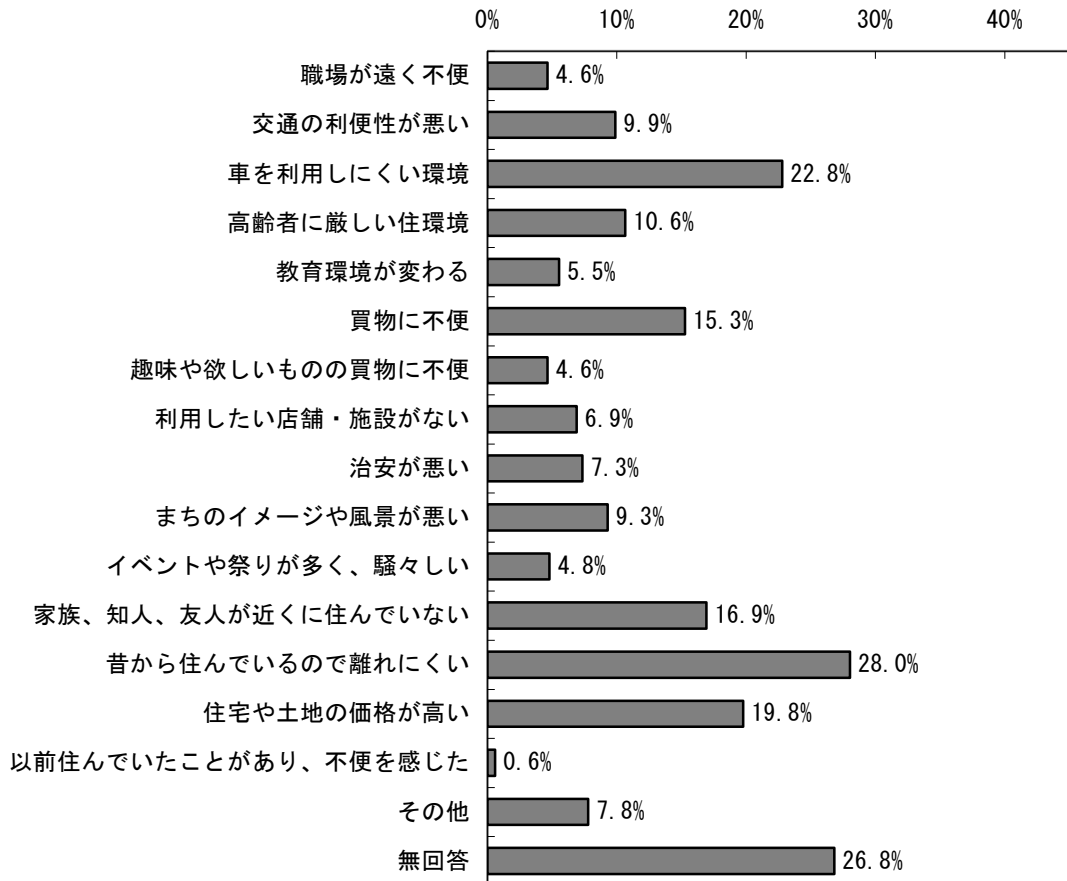
中心市街地に住んでみたいのに、住み替えていない理由を聞いたところ、「住宅や土地の価格が高い」が最も多く 82 人（37.6%）、次いで「昔から住んでいる土地なので離れにくい」が 40 人（18.3%）、「その他」が 30 人（13.8%）、「実家に住んでいるので離れたくない」と「家族、知人等が住んでいるので離れたくない」が 19 人（8.7%）、「住んでみたい場所に住宅が見つからない」と「駐車場が確保できない」が 18 人（8.3%）、「高齢者に対応した住環境ではない」が 17 人（7.8%）、「教育環境が変わるので難しい」が 9 人（4.1%）であった。



⑩中心市街地に住みたくない理由

中心市街地に住みたくないと思う理由は何ですか（複数回答）（市民：問19）

中心市街地に住みたくない理由を聞いたところ、「昔から住んでいるので離れにくい」が最も多く187人（28%）、次いで「車を利用しにくい環境」が152人（22.8%）、「家族、知人、友人が近くに住んでいない」が113人（16.9%）といった理由が上位になった。



⑪ 中心市街地の居住促進

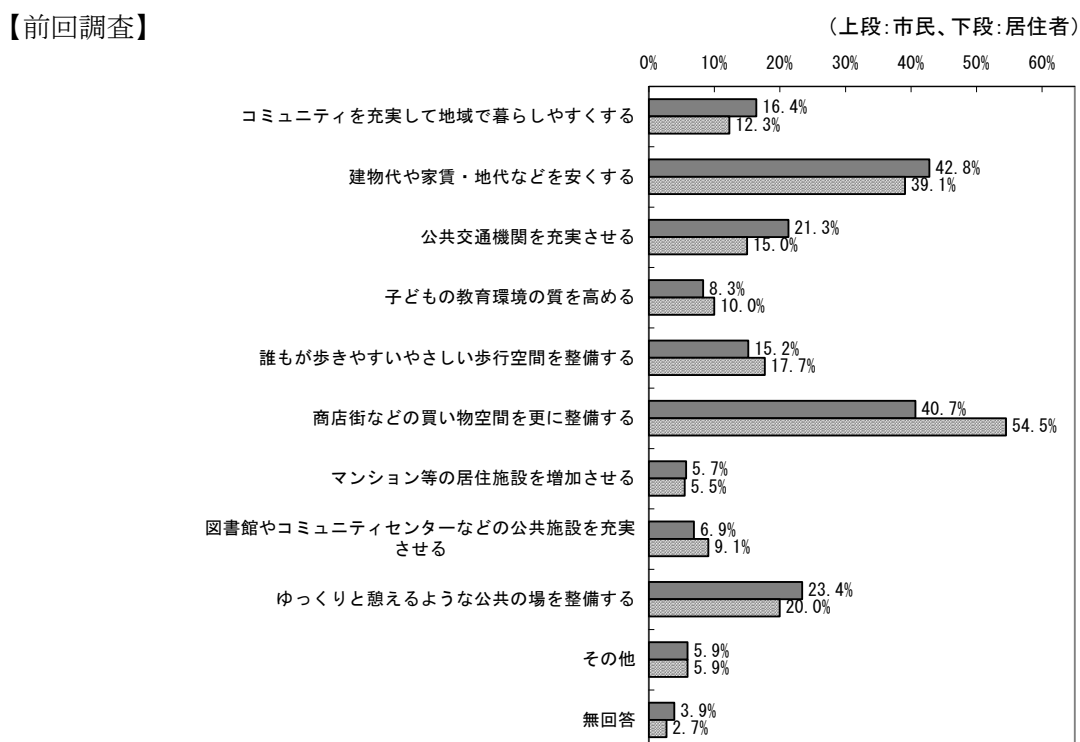
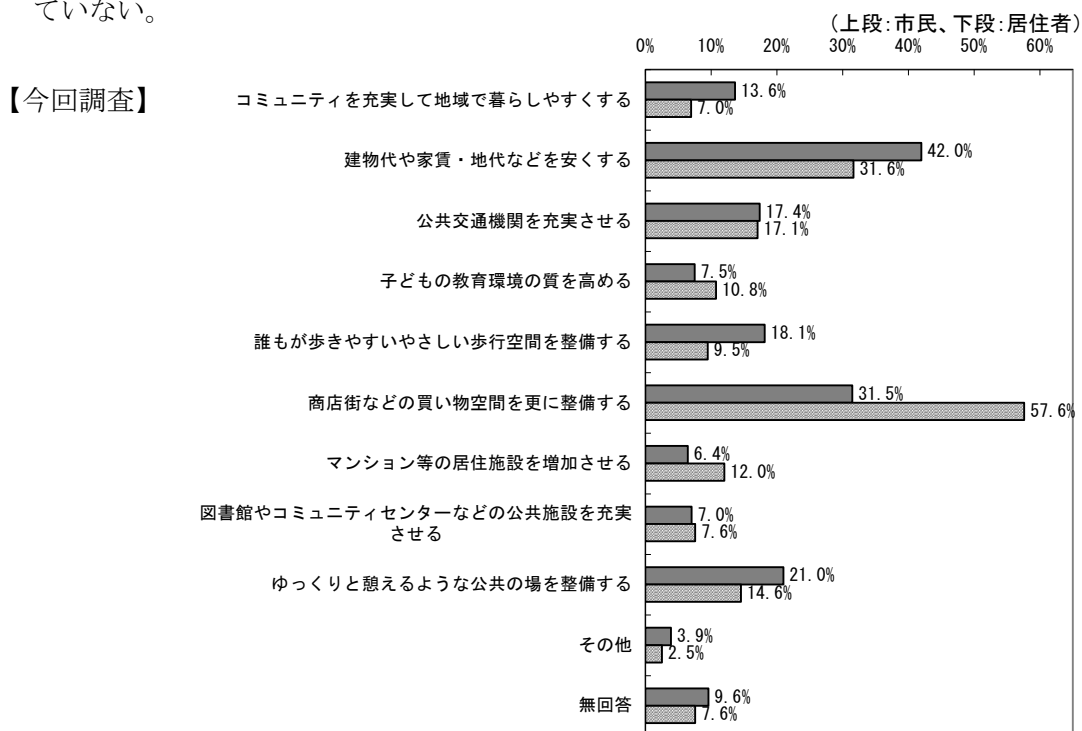
どのようにすれば中心市街地に住んでみたい人が増えると思いますか（複数回答）

（市民：問20、居住者：問13）

市民では、どのようにすれば中心市街地に住んでみたい人が増えると思うかについては、「建物代や家賃・地代などを安くする」が最も多く280人（42%）、次いで「商店街などの買い物空間を更に整備する」が210人（31.5%）などが上位になった。

居住者では、「商店街などの買い物空間を更に整備する」が最も多く91人（57.6%）、次いで「建物代や家賃・地代などを安くする」が50人（31.6%）などが上位になった。

また、前回調査と比較して若干比率が変動しているものの、傾向としてはあまり大きく変化していない。

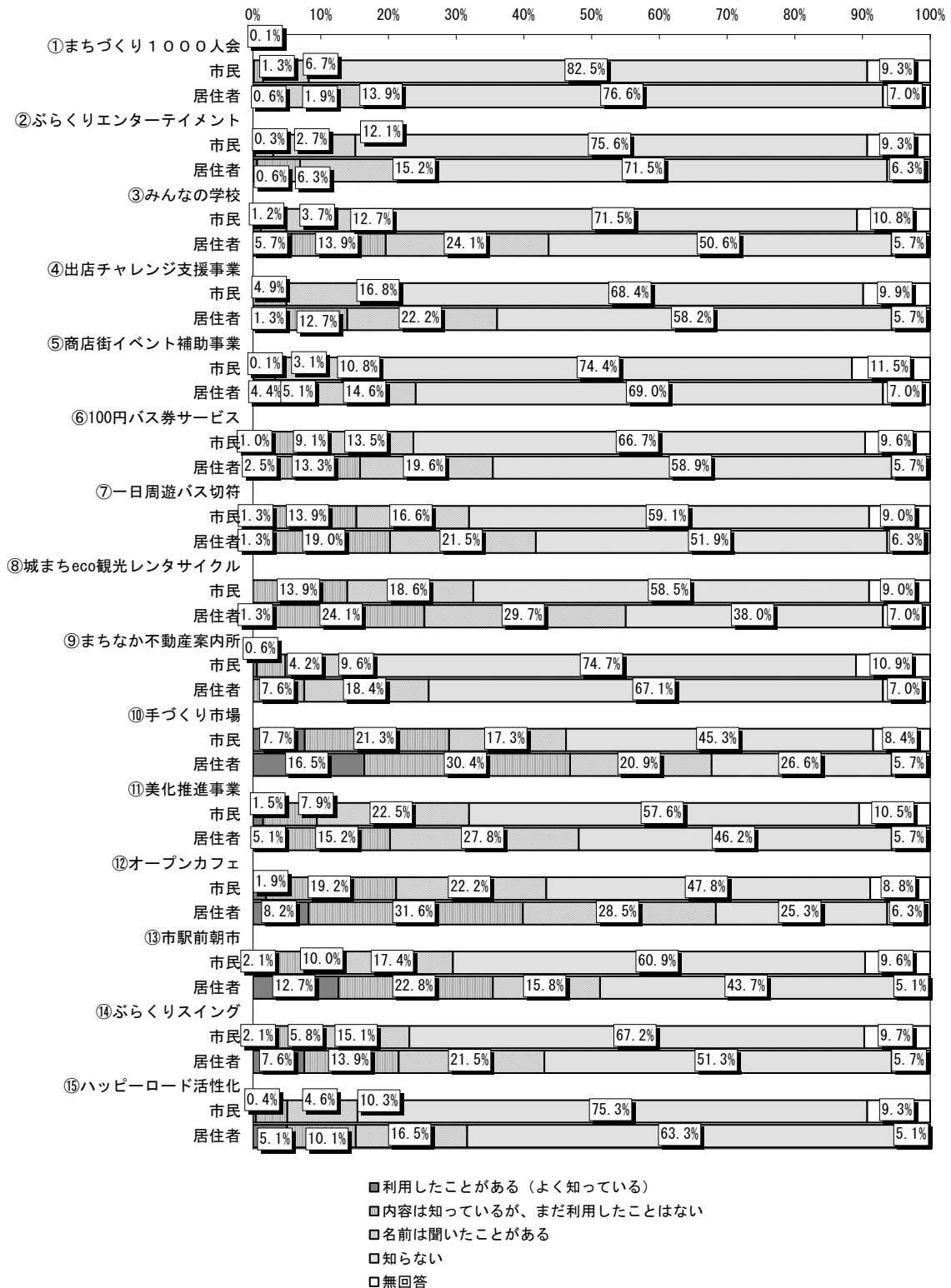


(5) 中心市街地まちづくり活動について

① 具体的取り組みの認知度

どの事業や施設を知っていますか（各事業ごとに単独回答）（市民：問 2 1、居住者：問 1 4）

中心市街地での具体的取り組みについて、どの程度知っているか聞いてみたところ、市民・居住者とも最も認知度が高かったのは「⑩手づくり市場」、次いで「⑫オープンカフェ」であった。また、どの取り組みについても居住者の方が市民より認知度が高い。



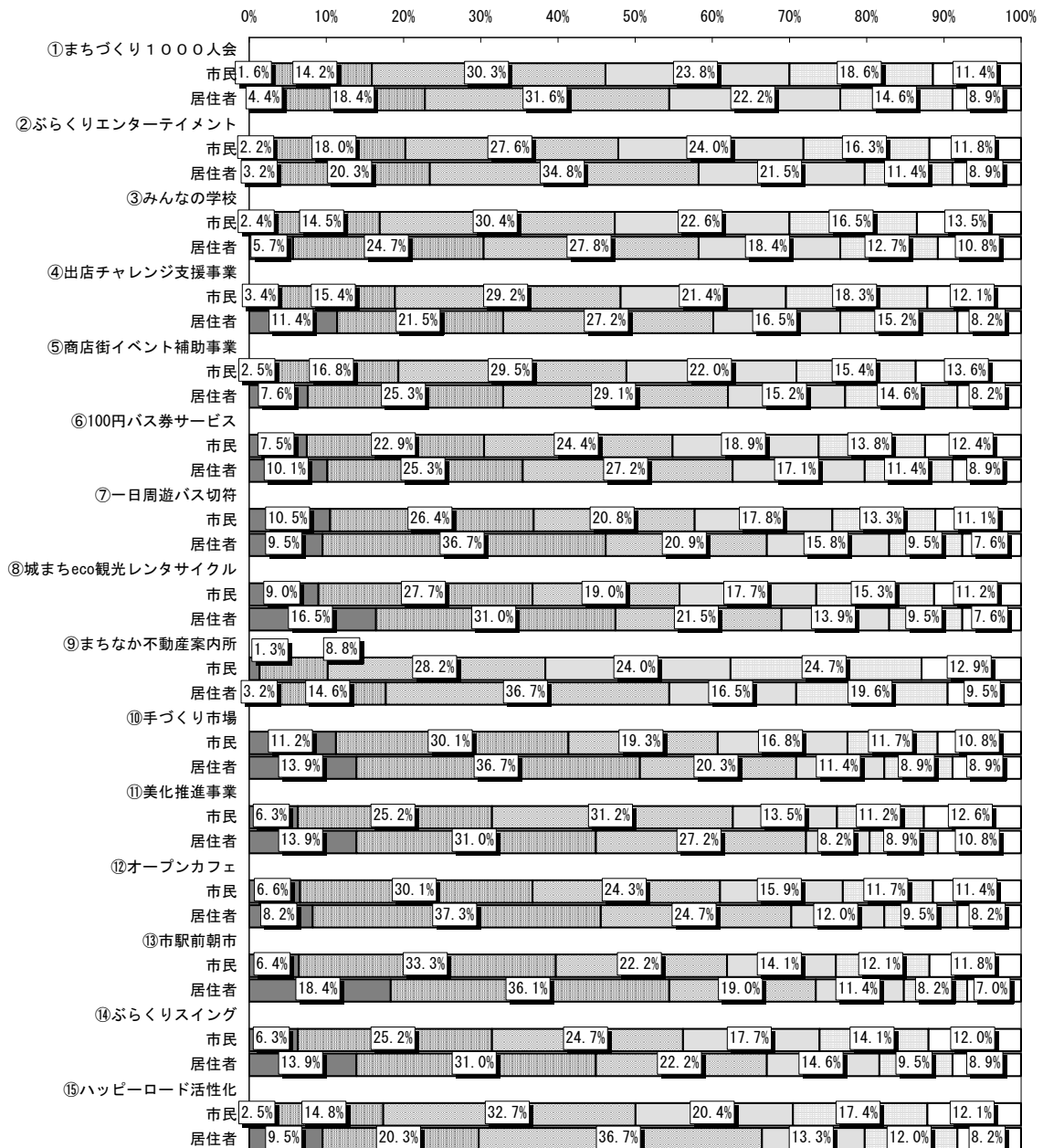
②今後の取り組みの興味度

中心市街地の活性化に対する取り組みについて、どれくらい興味・関心がありますか
(各事業ごとに単独回答) (市民：問23、居住者：問16)

中心市街地での取り組みのうち、継続または今後予定している施設や事業について興味・関心があるかを聞いてみたところ、市民では最も関心の度合いが高かったのは「⑩手づくり市場」、次いで「⑬市駅前朝市」であった。

居住者では最も関心の度合いが高かったのは「⑬市駅前朝市」、次いで「⑩手づくり市場」であった。

また、その関心の度合いは居住者の方が市民より高い。



- 大いに興味・関心がある
- 少し興味・関心がある
- どちらともいえない・わからない
- それほど興味・関心はない
- まったく興味・関心はない
- 無回答

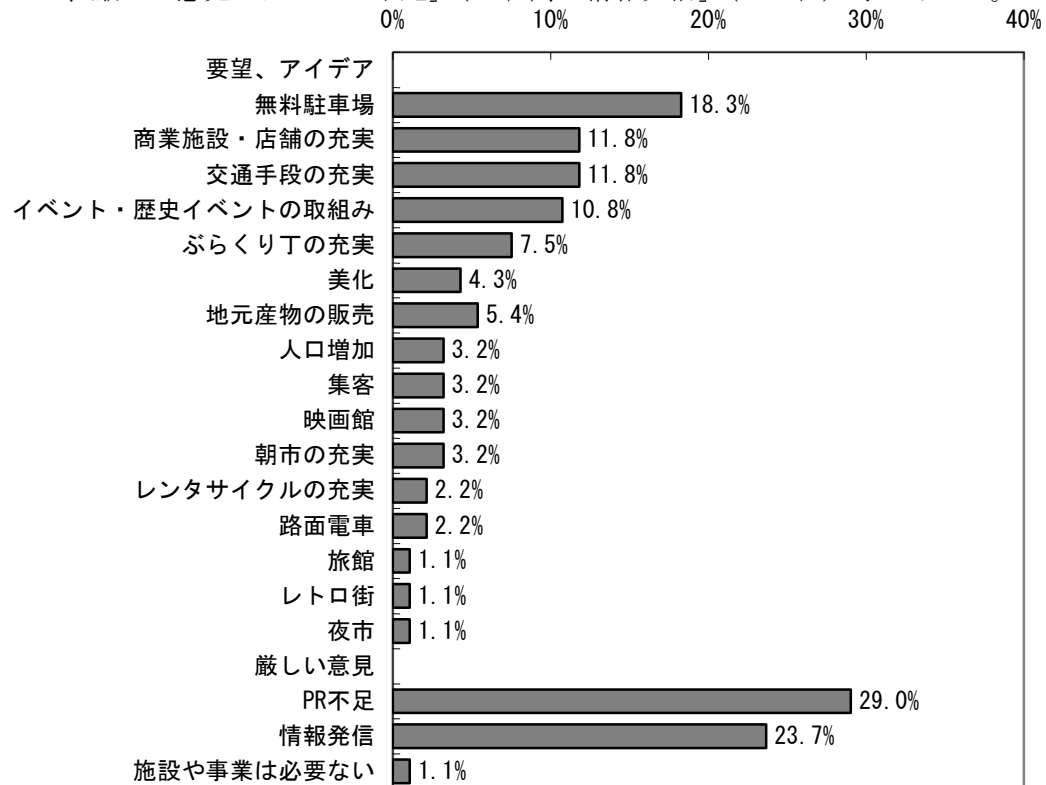
③取り組みへのアイデア

取り組みについて要望やアイデア（自由意見）（市民：問24、居住者：問17）

◆市民アンケート

要望やアイデアの上位だった意見は「無料駐車場」(18.3%)、「商業施設・店舗の充実」(11.8%)、「交通手段の充実」(11.8%)、「イベント・歴史イベントの取り組み」(10.8%)、「ぶらくり丁の充実」(7.5%)等があった。

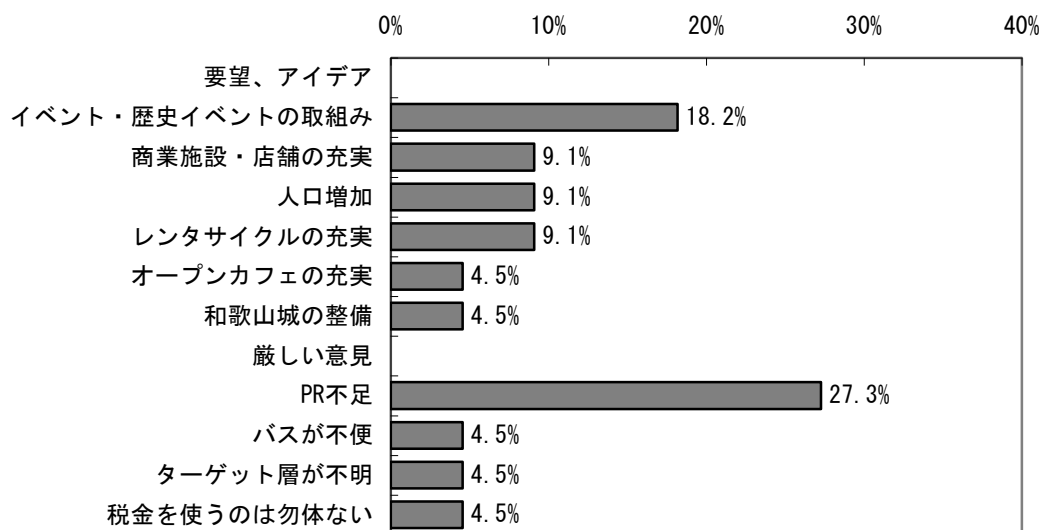
また、厳しい意見には「PR不足」(29%)、「情報発信」(23.7%)等があった。



◆居住者アンケート

要望やアイデアの上位だった意見は「イベント・歴史イベントの取り組み」(18.2%)、「商業施設・店舗の充実」(9.1%)、「人口増加」(9.1%)、「レンタサイクルの充実」(9.1%)があったが、サンプル数が少ないので単純比較は難しい。

また、厳しい意見では「PR不足」(27.3%)等があった。



※自由意見には複数回答が含まれているので、合計が100%にならない場合がある。

(6) 将来の中心市街地まちづくりについて

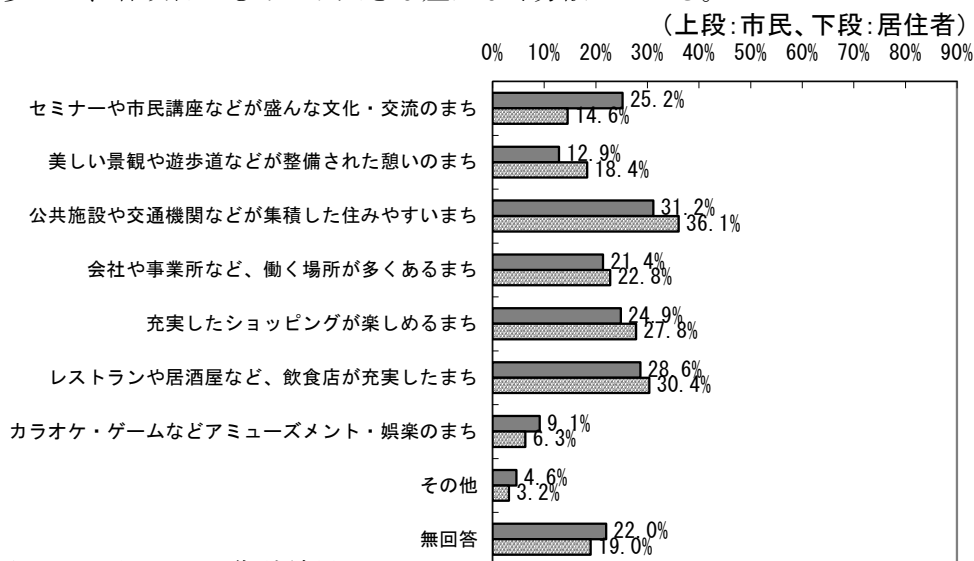
中心市街地の各エリアにふさわしいイメージを聞いたところ、結果は以下のグラフが示す通りであった。

①中心市街地のイメージ

次の中心市街地の各エリアについて、あなたはどんな「イメージ」がふさわしいと思いますか（複数回答）（市民：問25、居住者：問18）

ア. 「南海市駅周辺（南海和歌山市駅）」の集計結果

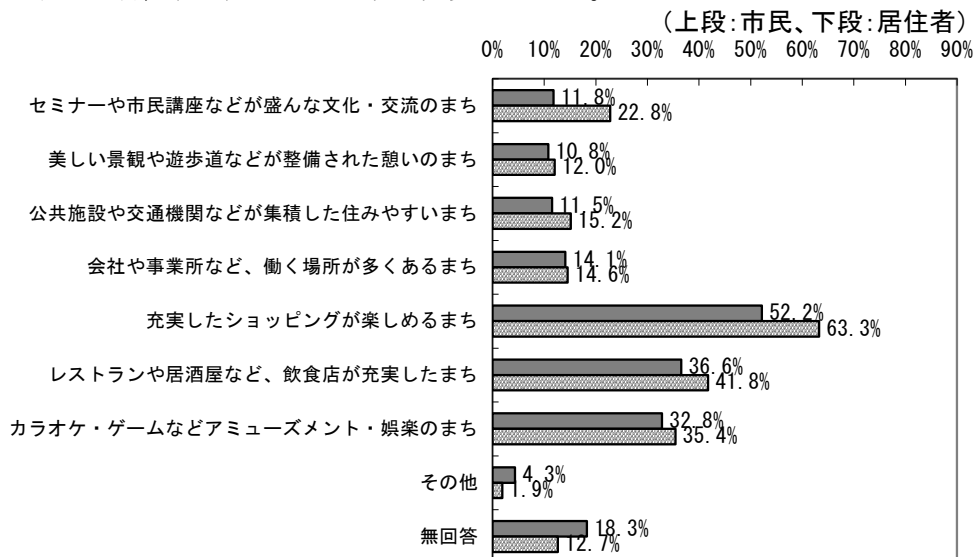
「公共施設や交通機関などが集積した住みやすいまち」（市民：31.2%、居住者：36.1%）が最も多いが、各項目ともあまり大きな差はなく分散している。



イ. 「ぶらくり丁周辺」の集計結果

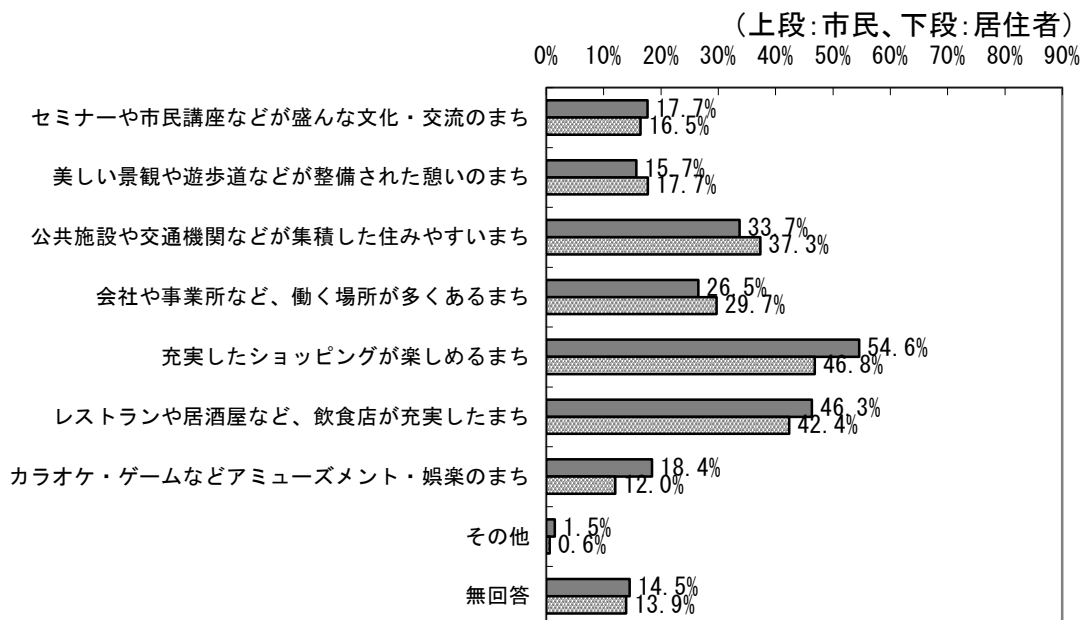
「充実したショッピングが楽しめるまち」（市民：52.2%、居住者：63.3%）が最も多く、次いで「レストランや居酒屋など、飲食店が充実したまち」（市民：36.6%、居住者：41.8%）、「カラオケ・ゲームなどアミューズメント・娯楽のまち」（市民：32.8%、居住者：35.4%）となっている。

「セミナーや市民講座などが盛んな文化・交流のまち」（市民：11.8%、居住者：22.8%）について市民・居住者で差があるように見受けられる。



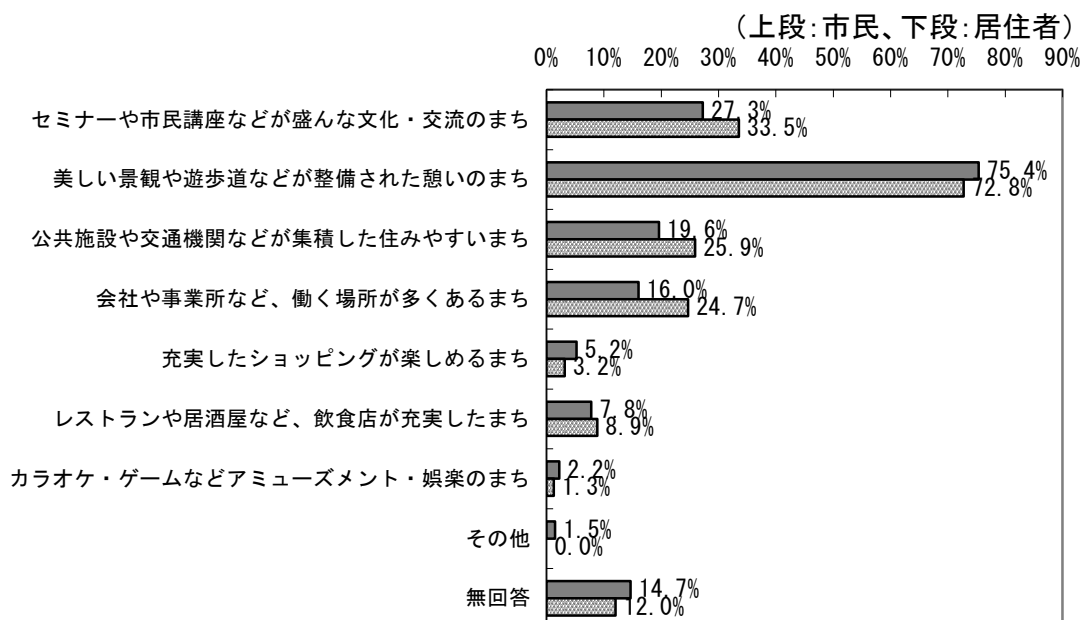
ウ. 「JR 和歌山駅周辺」の集計結果

「充実したショッピングが楽しめるまち」（市民：54.6%、居住者：46.8%）が最も多く、次いで「レストランや居酒屋など、飲食店が充実したまち」（市民：46.3%、居住者：42.4%）、「公共施設や交通機関などが集積した住みやすいまち」（市民：33.7%、居住者：37.3%）となっている。



エ. 「和歌山城周辺」の集計結果

「美しい景観や遊歩道などが整備された憩いのまち」（市民：75.4%、居住者：72.8%）が圧倒的に多く、2位の「セミナーや市民講座などが盛んな文化・交流のまち」（市民：27.3%、居住者：33.5%）以下を大きく引き離していた。



(7) 中心市街地活性化の重要度

①中心市街地活性化の重要度（全体、性別集計、年齢別集計）

和歌山市にとって中心市街地の活性化は重要な課題だと思いますか（単独回答）

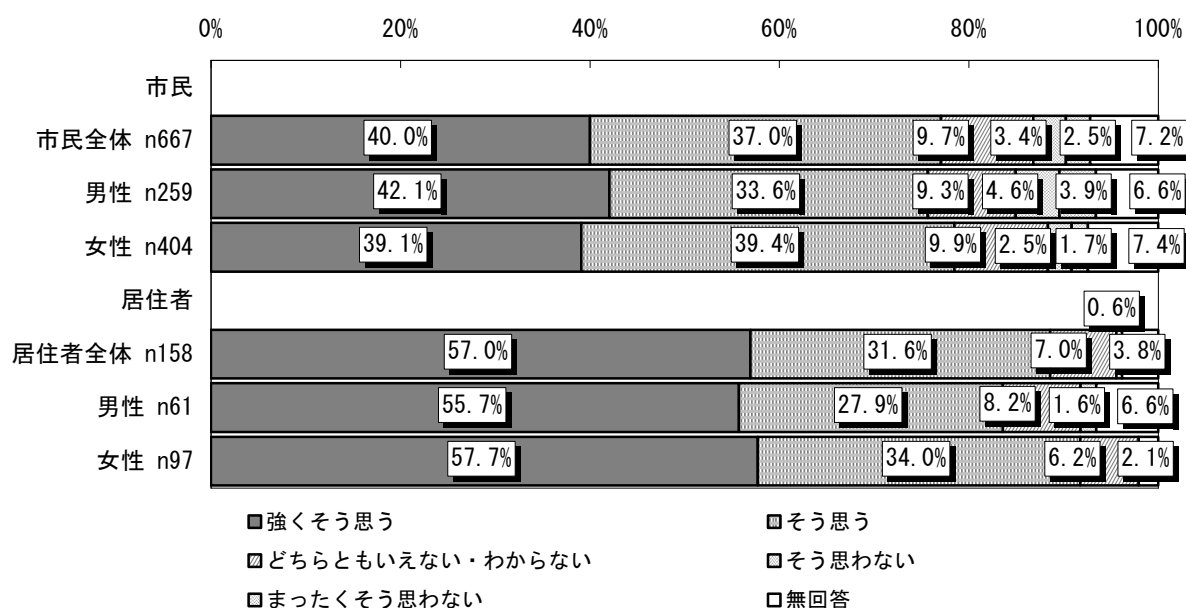
（市民：問27、居住者：問20）

和歌山市にとって中心市街地の活性化は重要な課題だと考えるか聞いたところ、市民では「強くそう思う」が最も多く267人（40%）、次いで「そう思う」が247人（37%）であった。

これらの意見を合わせれば「そう思う」が514人（77%）となり、約8割の人が中心市街地の活性化を重要課題と考えていることがわかる。

居住者では、「強くそう思う」が圧倒的多数で90人（57%）、次いで「そう思う」が50人（31.6%）であった。

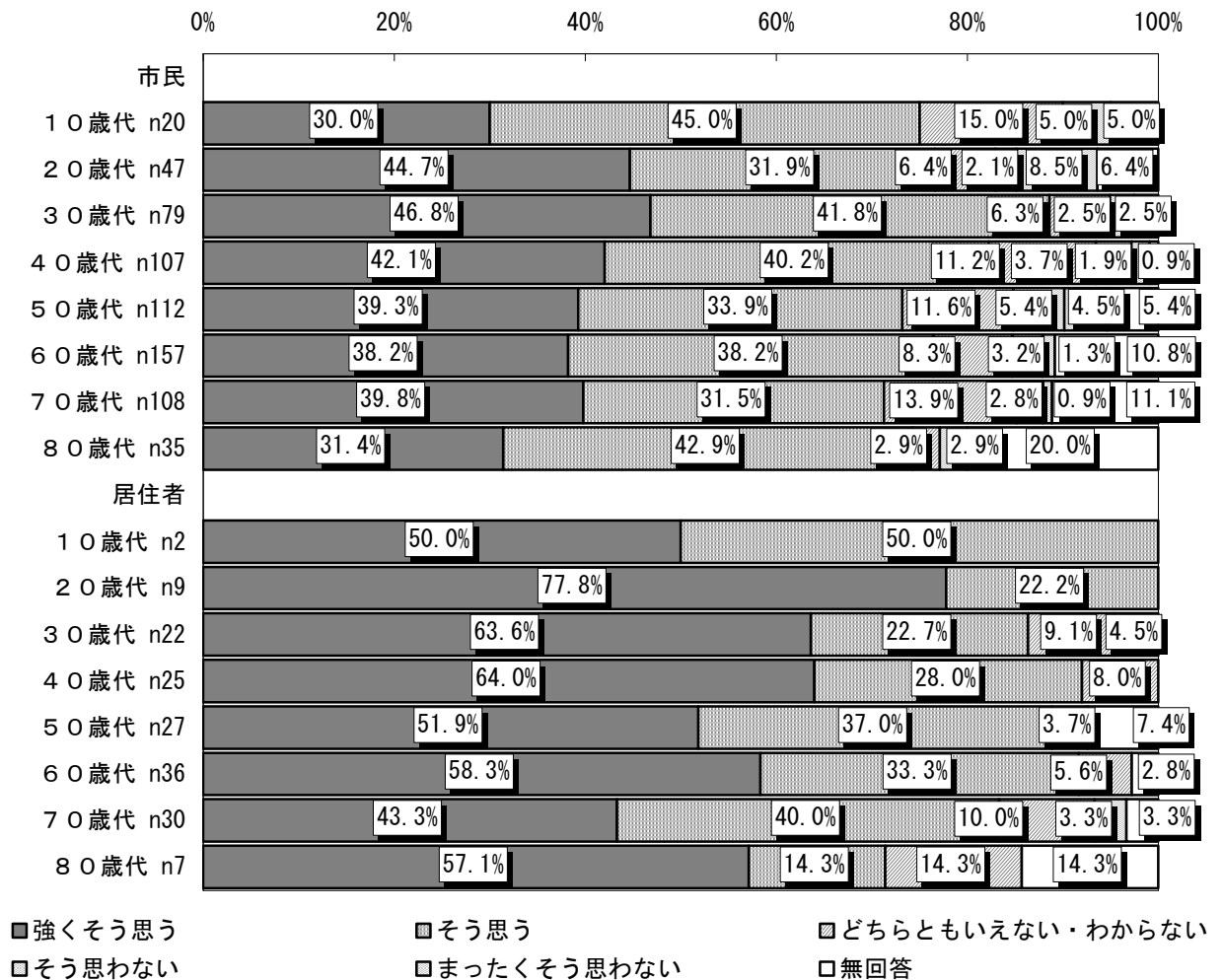
これらの意見を合わせれば「そう思う」が140人（88.6%）となり、市民よりさらに高く約9割の人が中心市街地の活性化を重要課題と考えていることがわかる。



※市民全体の件数には、性別無回答が4件、年代無回答が2件含まれている。

中心市街地活性化の重要度（年齢別集計）

中心市街地の活性化を重要と思うかについて、年齢別に見ると以下のグラフが示すとおり、各年齢ともに「強くそう思う」の割合は、市民と居住者に差がある。



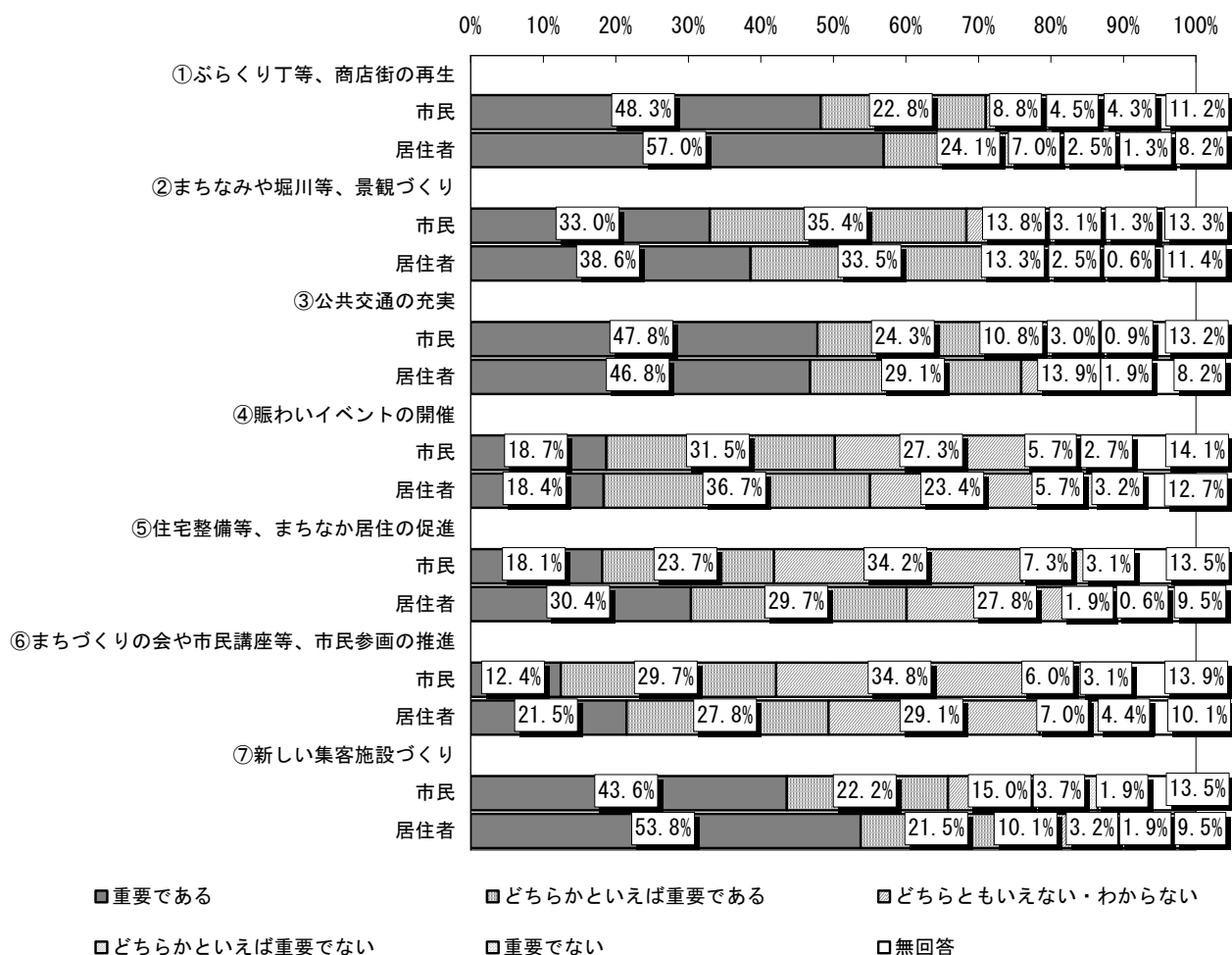
②まちづくり施策の重要度

中心市街地まちづくりの各施策について、どの程度重要だと思いますか（施策ごとに単独回答）
（市民：問26、居住者：問19）

中心市街地のまちづくりの施策について、どの程度重要と考えるかを聞いた結果は、以下のグラフが示す通りである。

市民のトップ3は「ぶらくり丁等、商店街の再生」、「まちなみや堀川等、景観づくり」、「公共交通の充実」だが、居住者のトップ3は「ぶらくり丁等、商店街の再生」、「公共交通の充実」、「新しい集客施設づくり」となっている。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で大きな変化はないように見受けられるが、「新しい集客施設づくり」だけは市民、居住者ともに重要と回答する比率が伸びており、ニーズが高まっている傾向が見られる。



◆市民アンケート「前回との比較⑥」

重要、どちらかと言えば重要の比較	H21年度 (前回調査)	H23年度 (今回調査)	増減
①ぶらくり丁等、商店街の再生	70.5%	71.1%	+ 0.6%
②まちなみや堀川等、景観づくり	69.8%	68.4%	- 1.4%
③公共交通の充実	75.6%	72.1%	- 3.5%
④賑わいイベントの開催	48.9%	50.2%	+ 1.4%
⑤住宅整備等、まちなか居住の促進	43.5%	41.8%	- 1.7%
⑥まちづくりの会や市民講座等、市民参画の推進	39.4%	42.1%	+ 2.8%
⑦新しい集客施設づくり	59.1%	65.8%	+ 6.7%

◆居住者アンケート「前回との比較⑦」

重要、どちらかと言えば重要の比較	H21年度 (前回調査)	H23年度 (今回調査)	増減
①ぶらくり丁等、商店街の再生	82.3%	81.0%	- 1.3%
②まちなみや堀川等、景観づくり	76.8%	72.2%	- 4.7%
③公共交通の充実	76.4%	75.9%	- 0.4%
④賑わいイベントの開催	55.0%	55.1%	+ 0.1%
⑤住宅整備等、まちなか居住の促進	52.7%	60.1%	+ 7.4%
⑥まちづくりの会や市民講座等、市民参画の推進	43.2%	49.4%	+ 6.2%
⑦新しい集客施設づくり	62.7%	75.3%	+ 12.6%

※表の値は重要・どちらかと言えば重要が占める割合

4-3 調査結果の比較

市民アンケート、居住者アンケートの2つの調査より、中心市街地に「住んでいる人」、「住んでみたい人」、「住みたくない人」について、いくつかの設問を比較して見ると、以下のような結果が得られた。

「住んでいる人」は居住者の158人、「住んでみたい人」は市民の間14で中心市街地に「ぜひ住んでみたい」または「どちらかと言えば住んでみたい」と回答した202人、「住みたくない人」は市民の間14で中心市街地に「住みたくない」と回答した449人である。

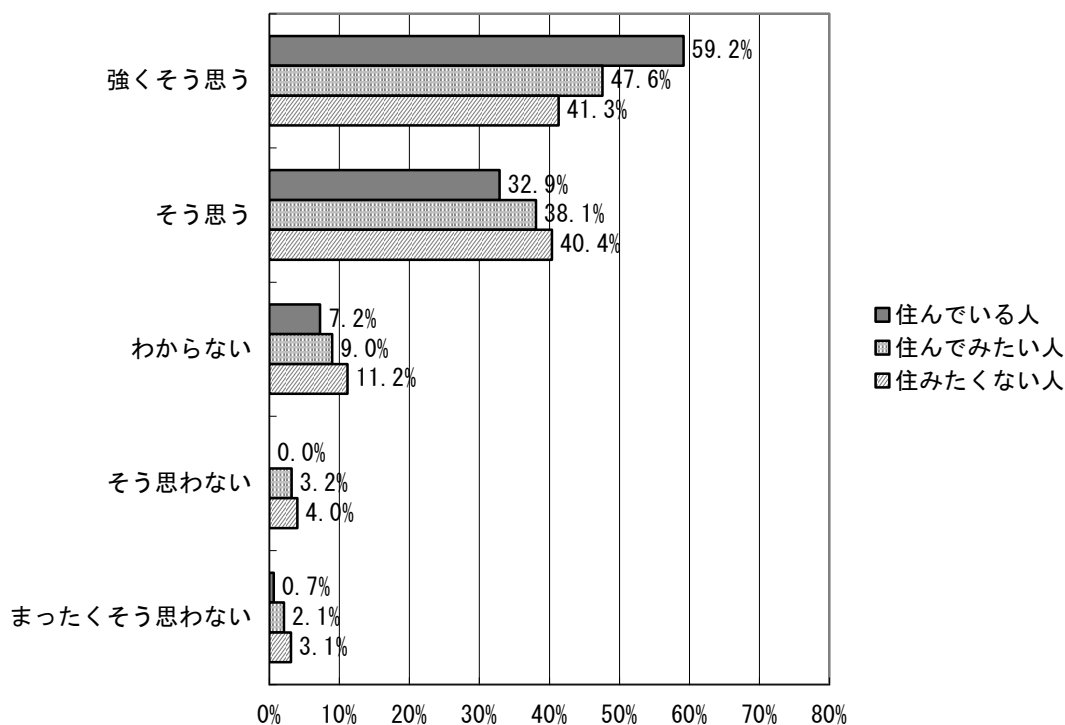
なお、各グラフに示した割合は、設問毎に無回答を除いて算出した。

(1) 中心市街地活性化の重要度

① 中心市街地の活性化の重要度

和歌山市にとって中心市街地の活性化は重要な課題だと思うか(市民:問27、居住者:問20)

「強くそう思う」の割合は、「住んでいる人」が59.2%、「住んでみたい人」が47.6%、「住みたくない人」が41.3%となっており、意識の違いが現れている。

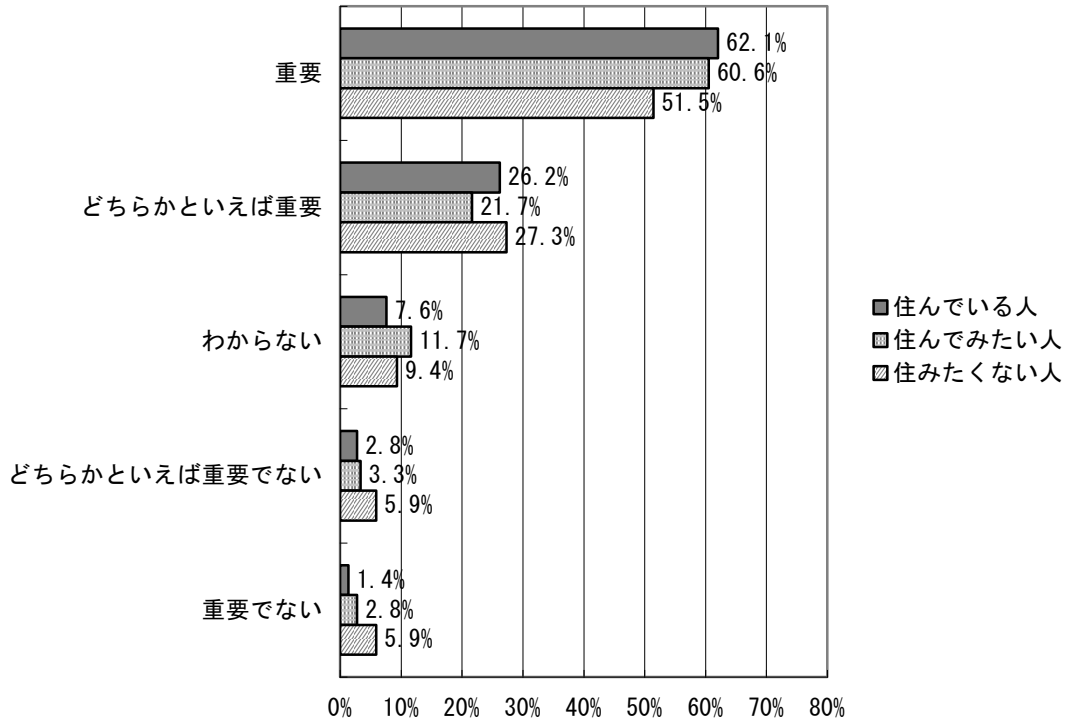


(2) 中心市街地まちづくり施策の重要度

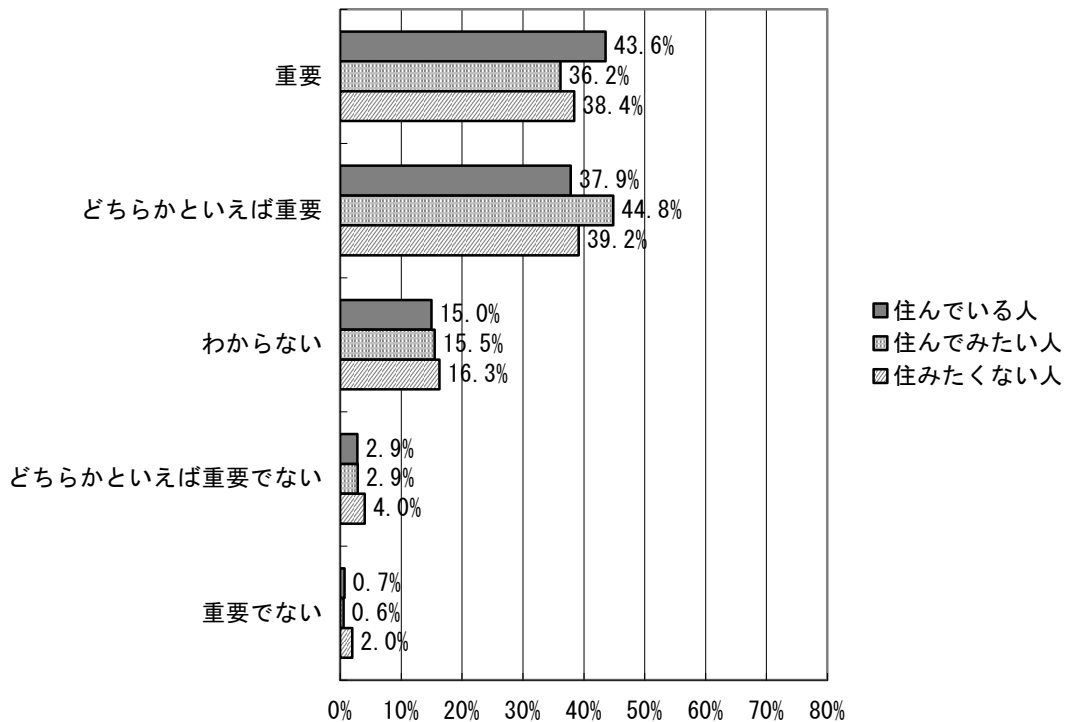
①各施策について

中心市街地まちづくりの各施策について（市民：問26、居住者：問19）

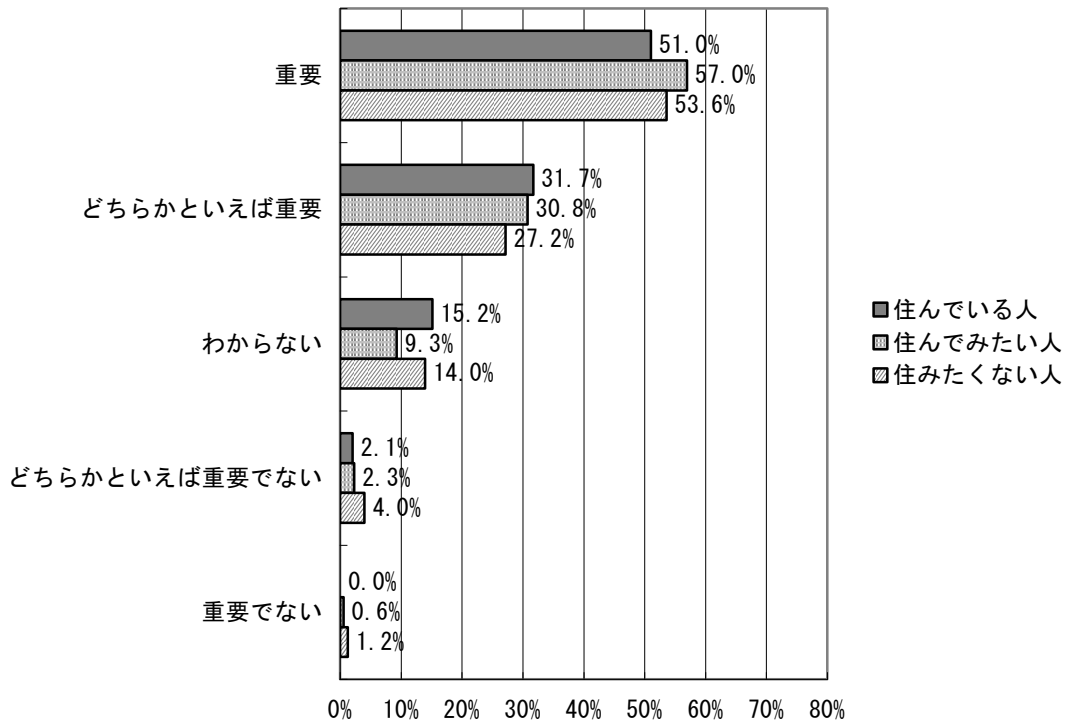
ア. ぶらくり丁等、商店街の再生



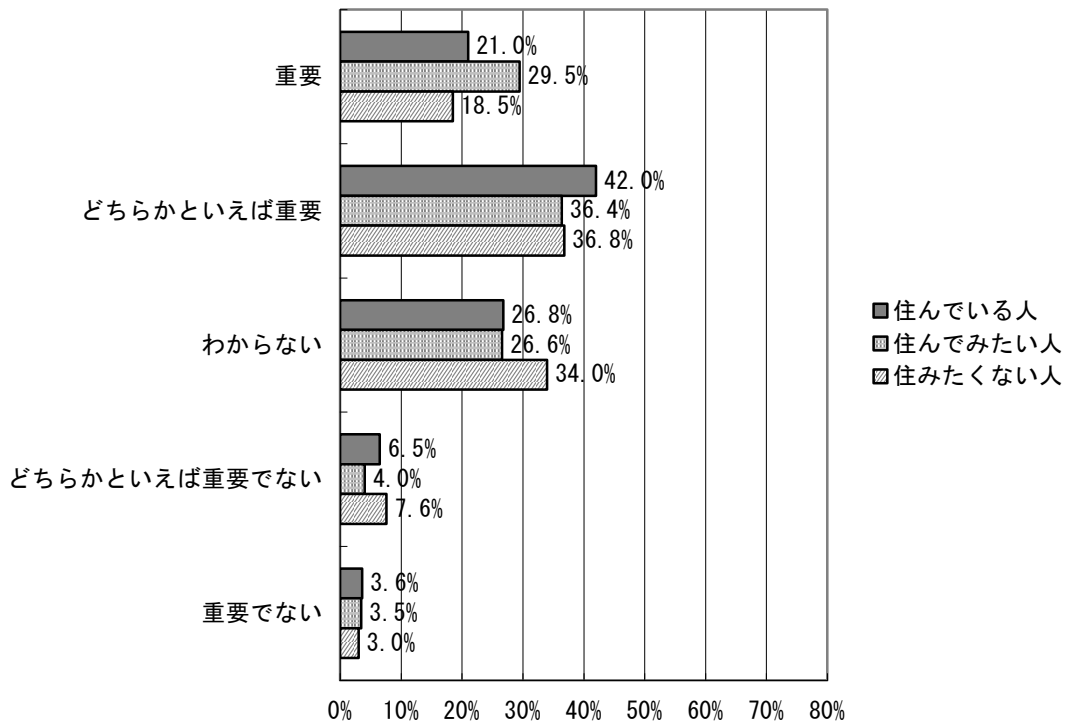
イ. まちなみや堀川等、景観づくり



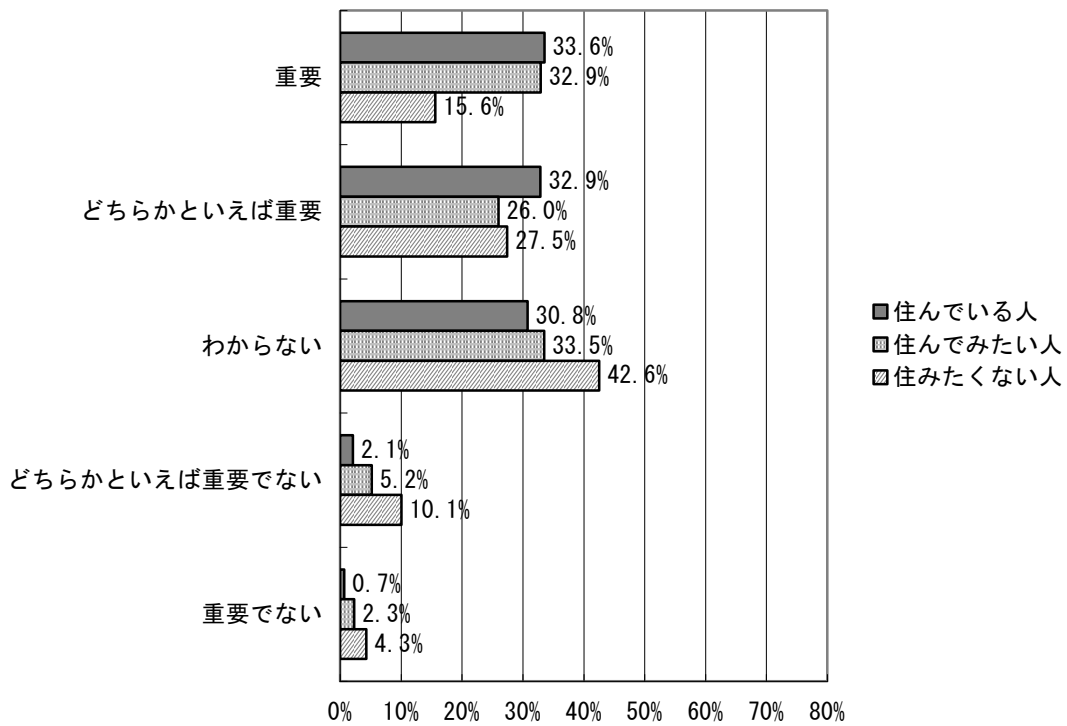
ウ. 公共交通の充実



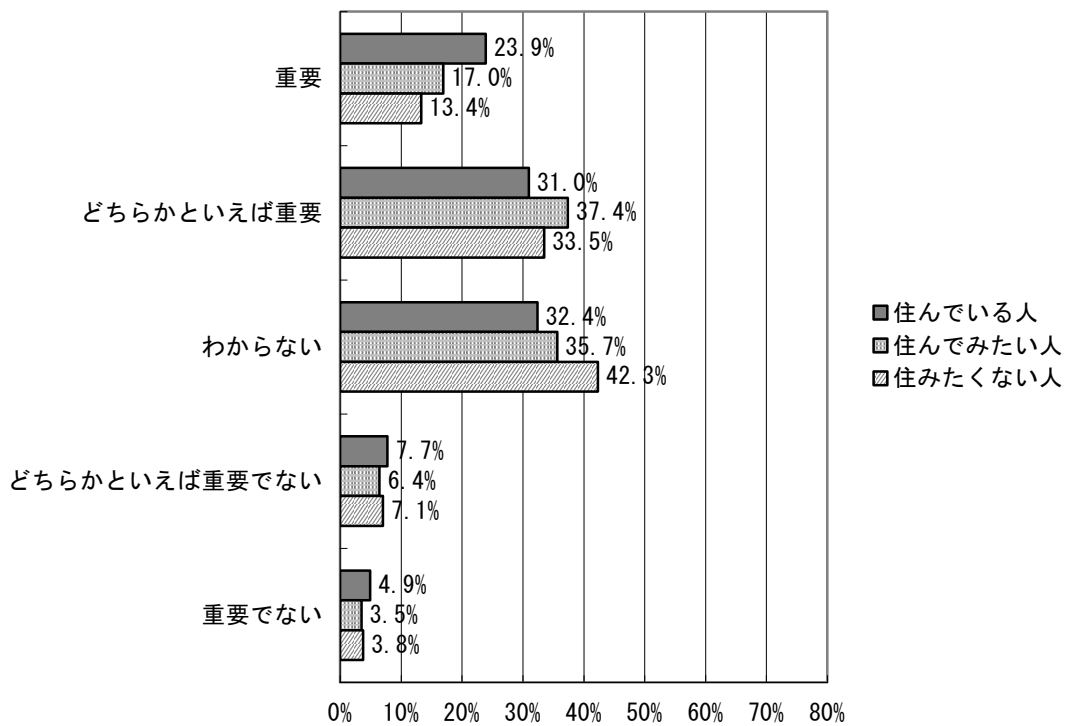
エ. 賑わいイベントの開催



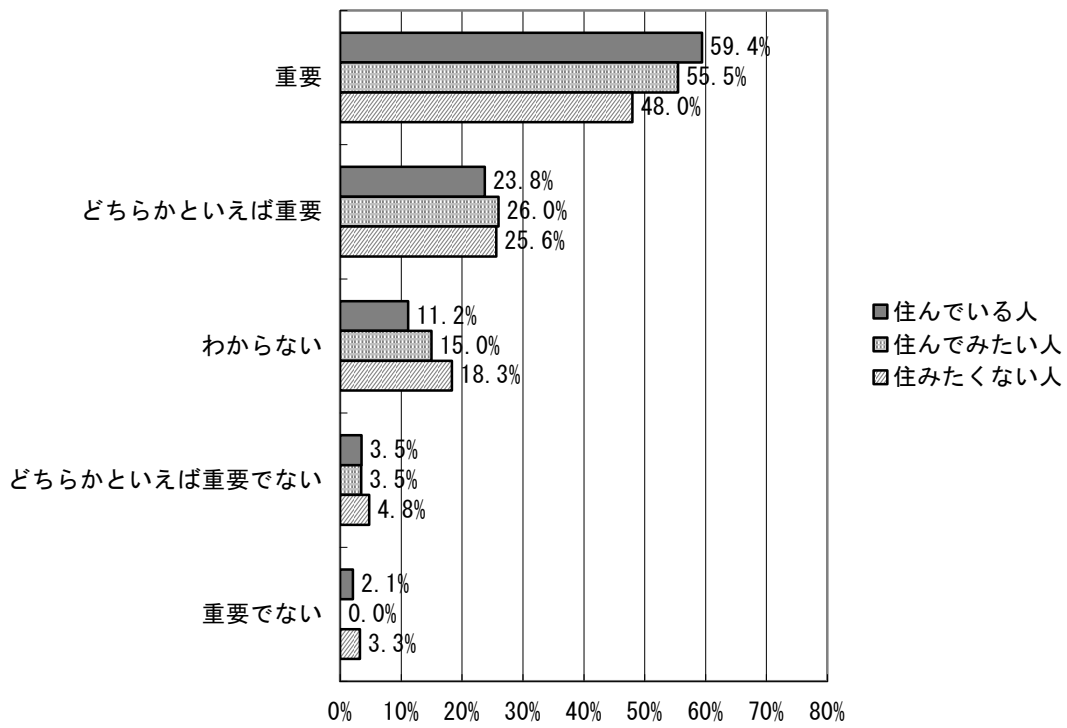
オ. 住宅整備等、まちなか居住の促進



カ. まちづくりの会や市民講座等、市民参画の推進



キ. 新しい集落施設づくり

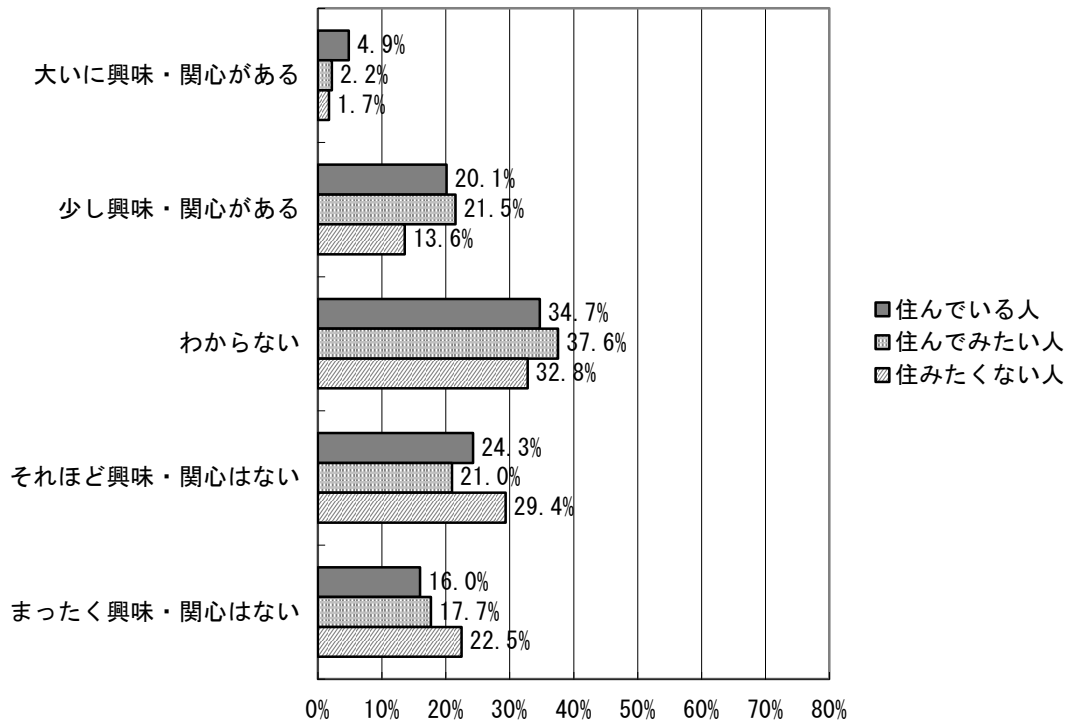


(3) 中心市街地活性化事業の関心度

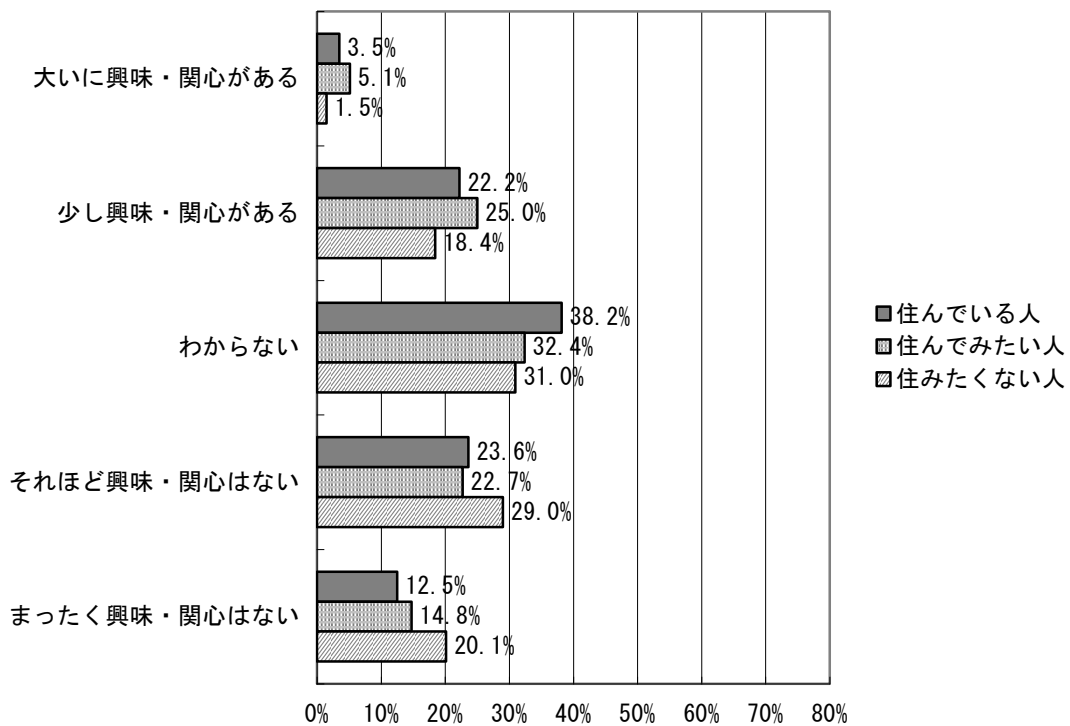
①活性化に対する取り組みについて

中心市街地の活性化に対する取り組みについて（市民：問23、居住者：問16）

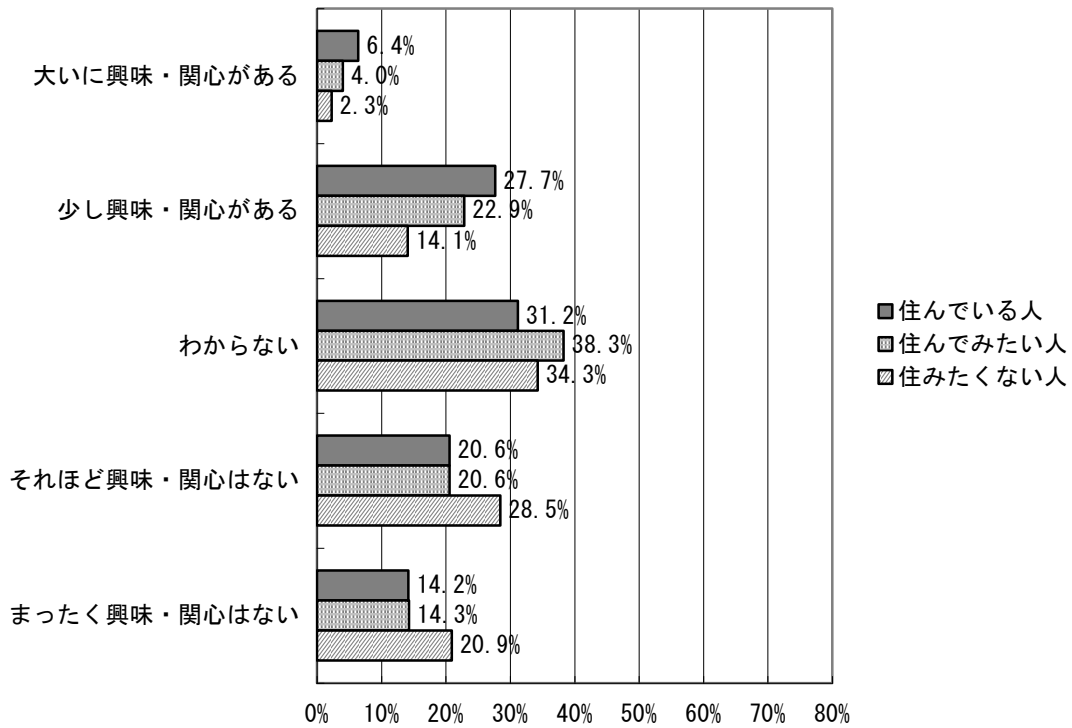
ア. まちづくり1000人会



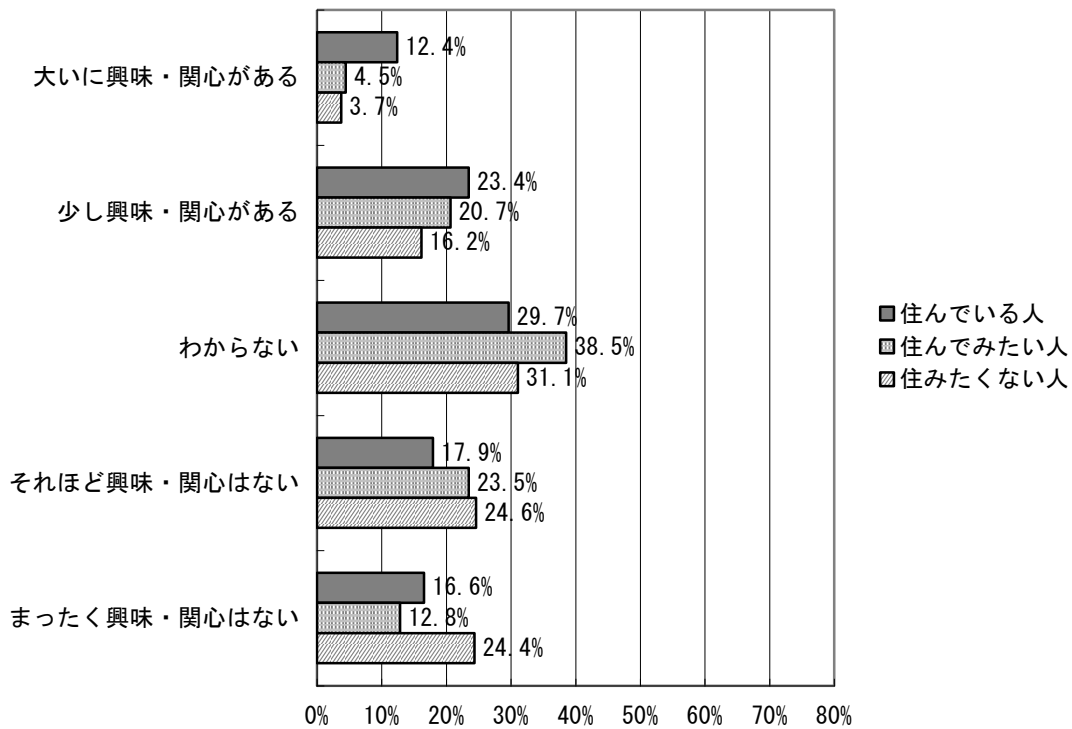
イ. ぶらくりエンターテイメント



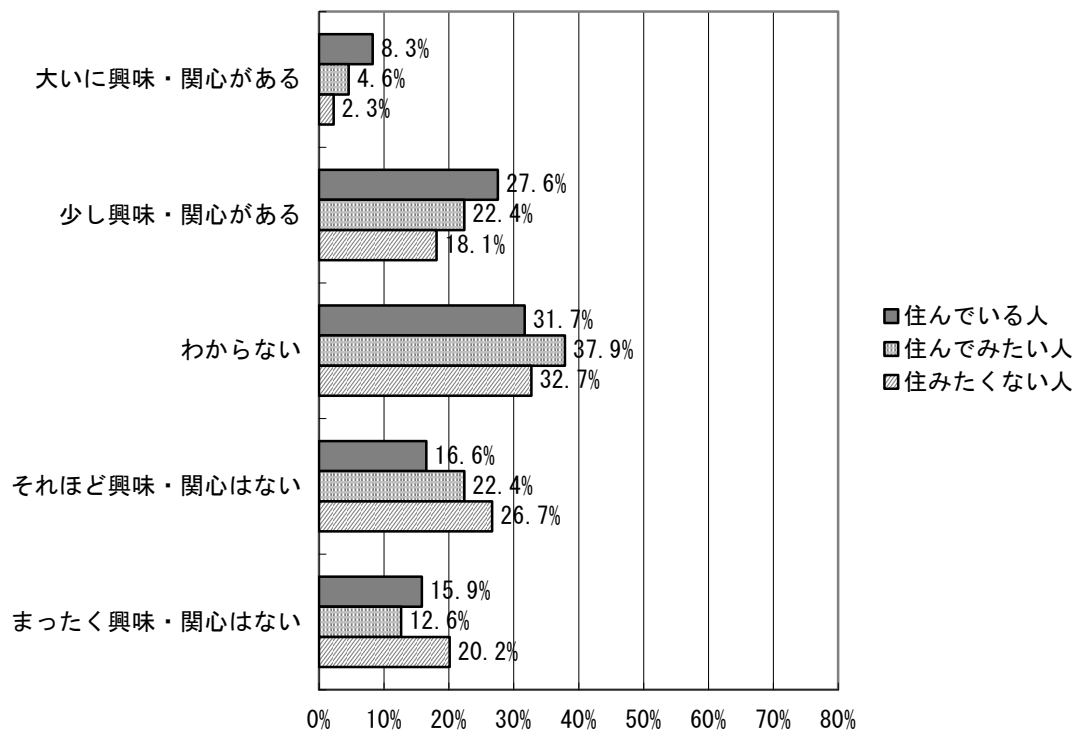
ウ. みんなの学校



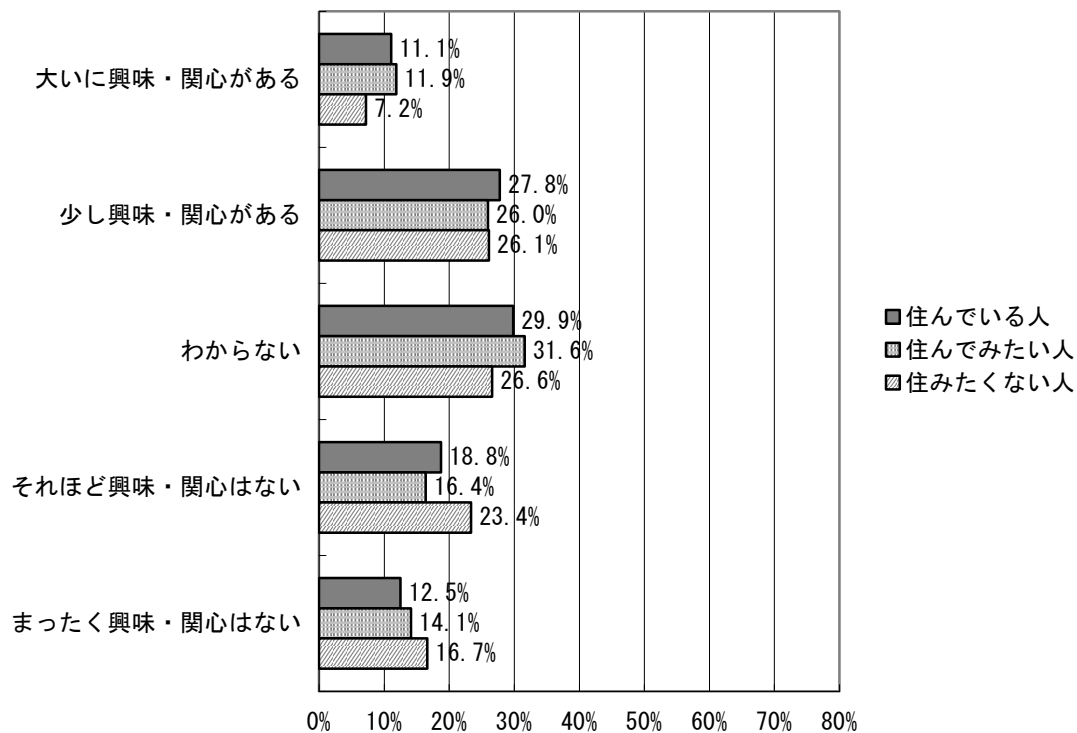
エ. 出店チャレンジ支援事業



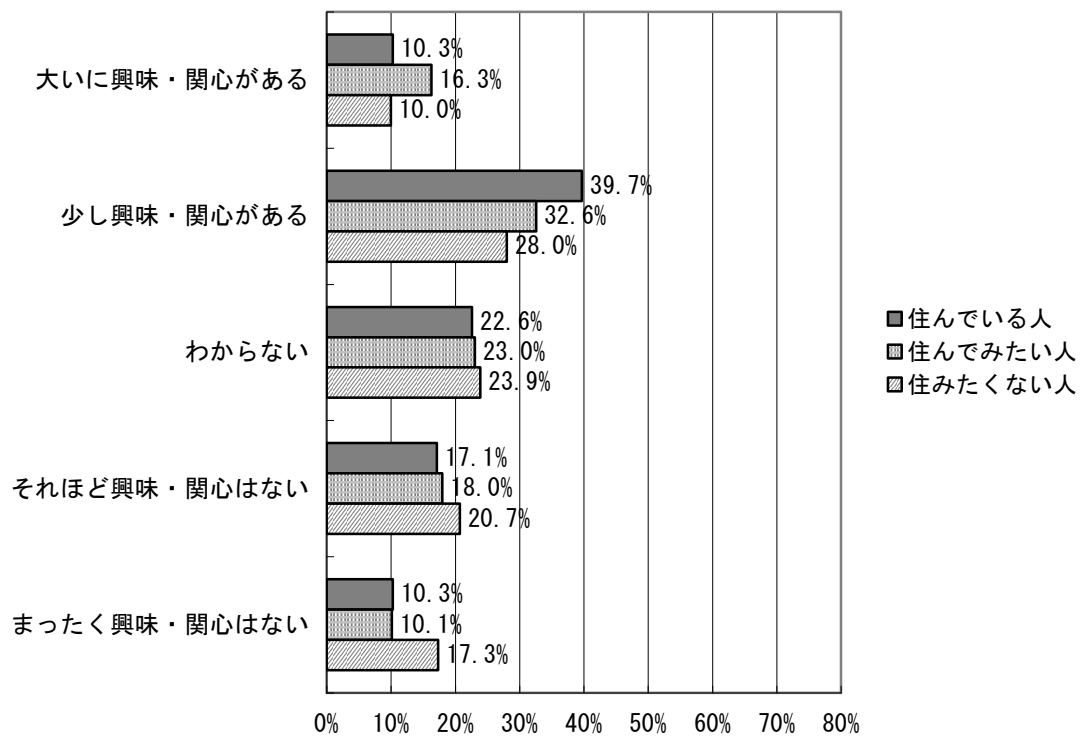
オ. 商店街イベント補助事業



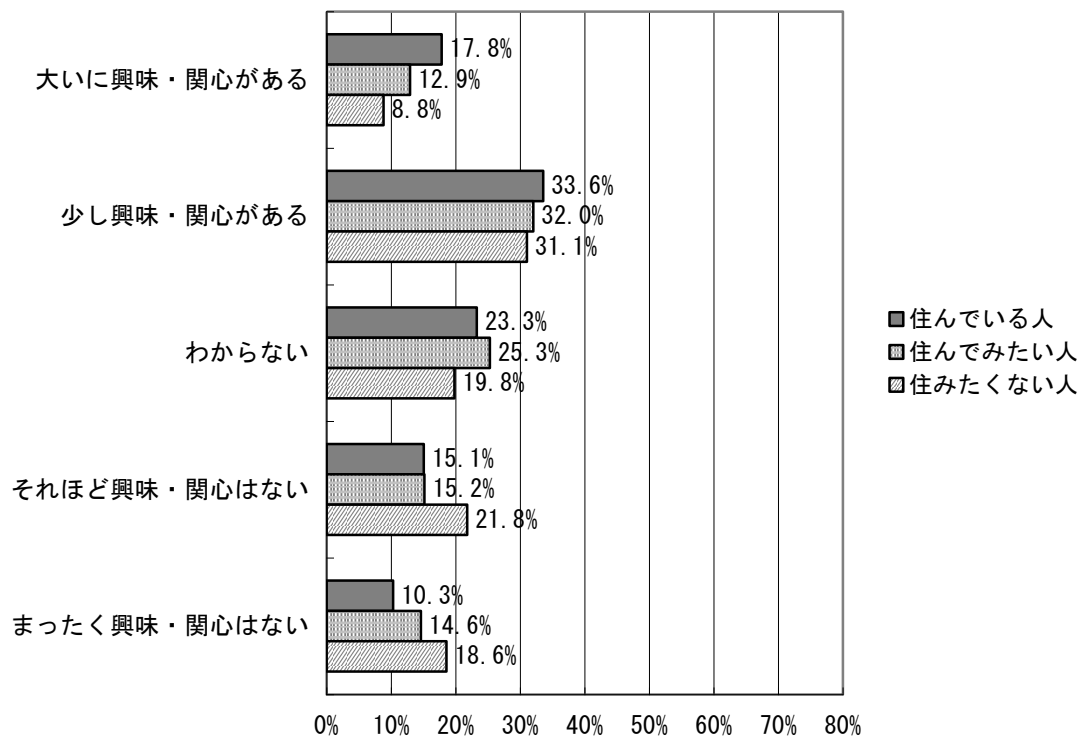
カ. 100円バス券サービス



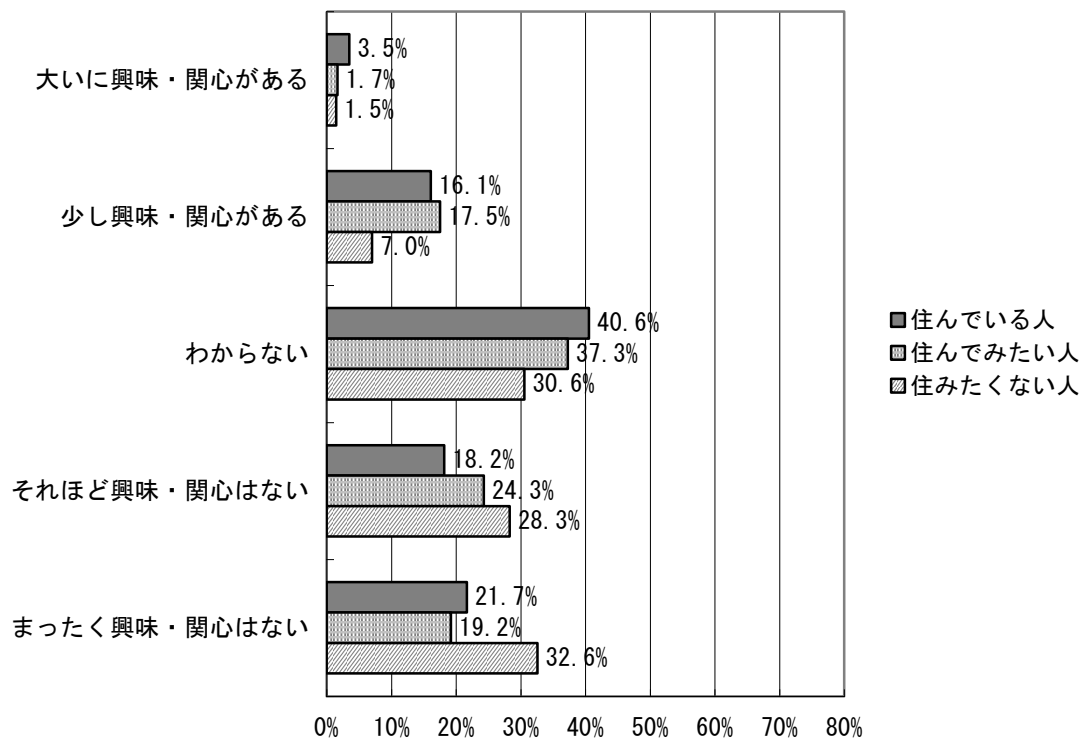
キ. 一日周遊バス切符



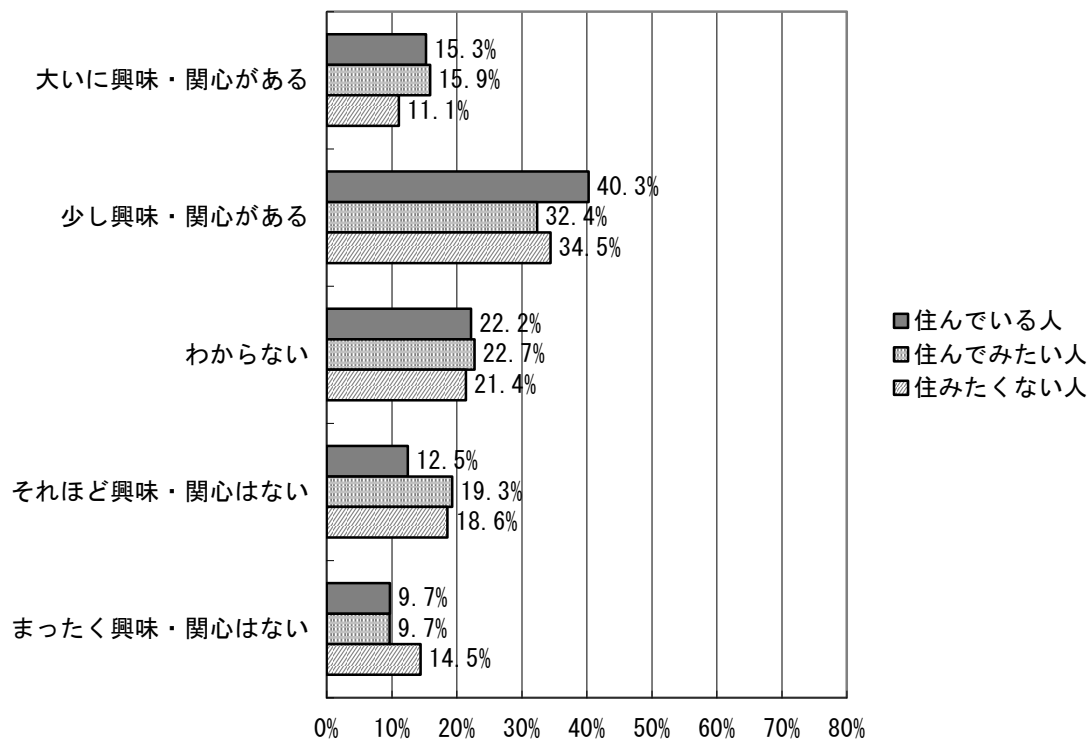
ク. 城まち eco 観光レンタサイクル



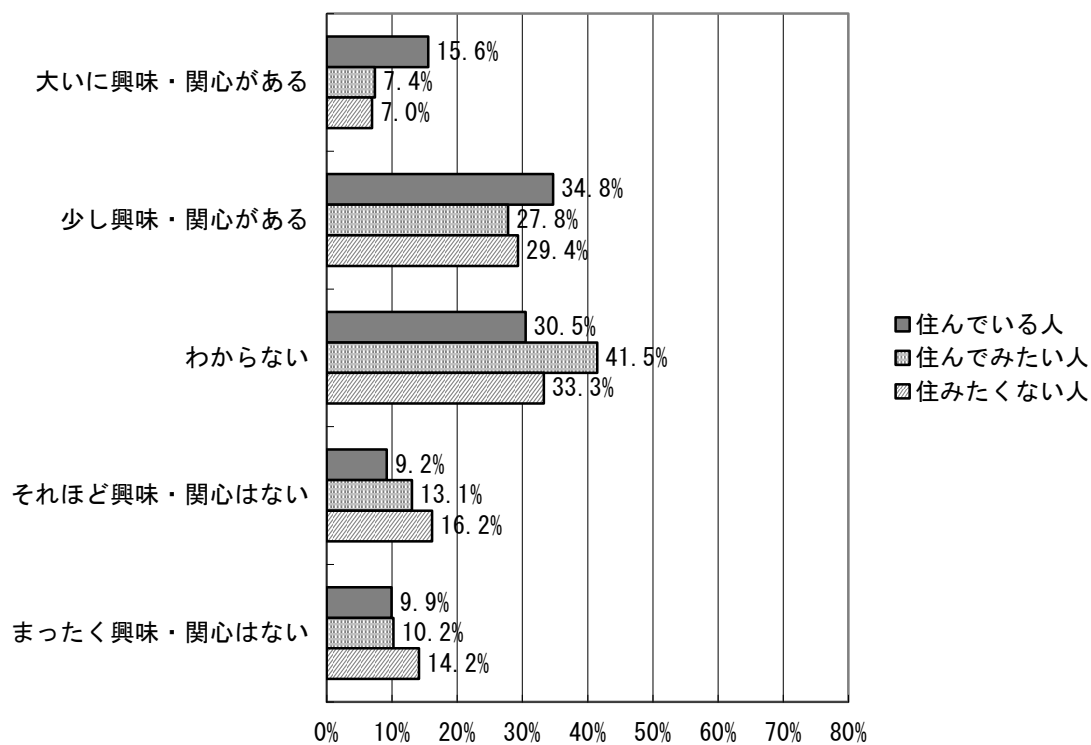
ケ. まちなか不動産案内所



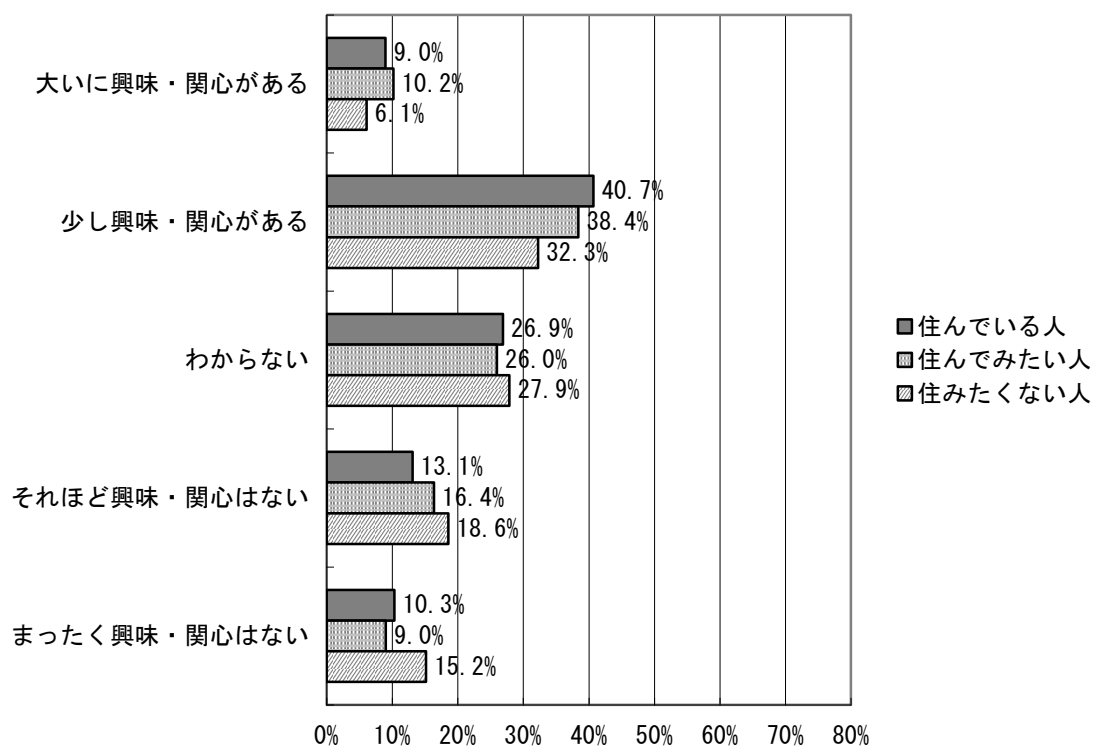
コ. 手づくり市場



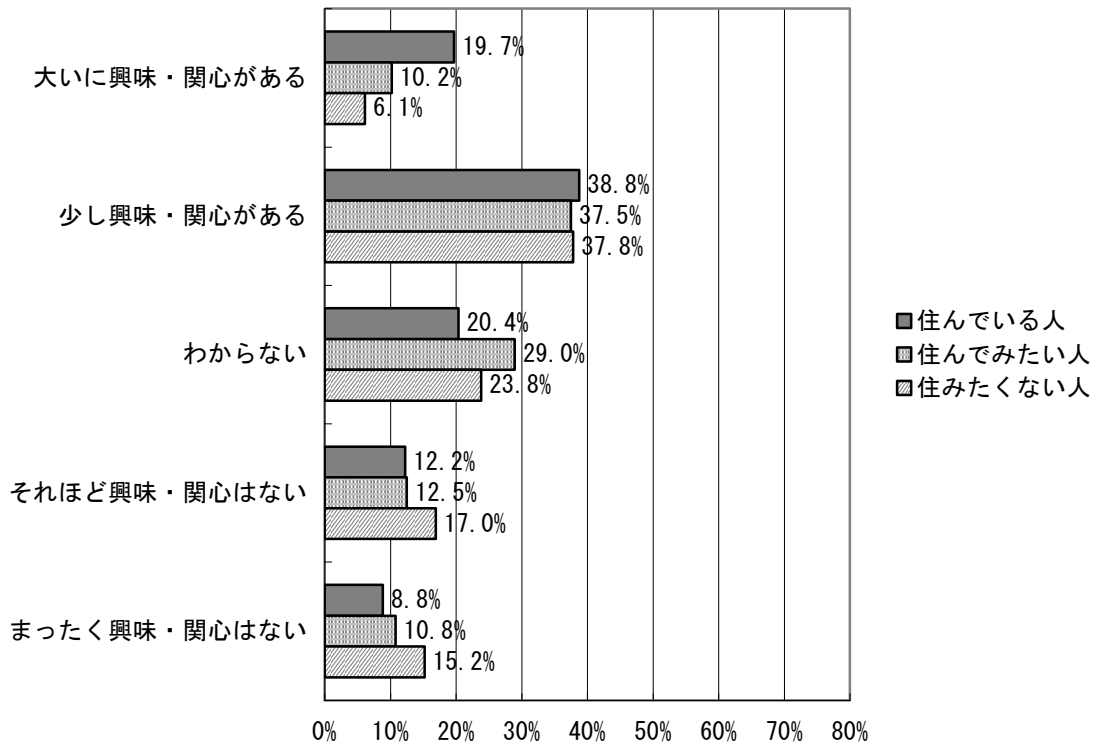
サ. 美化推進事業



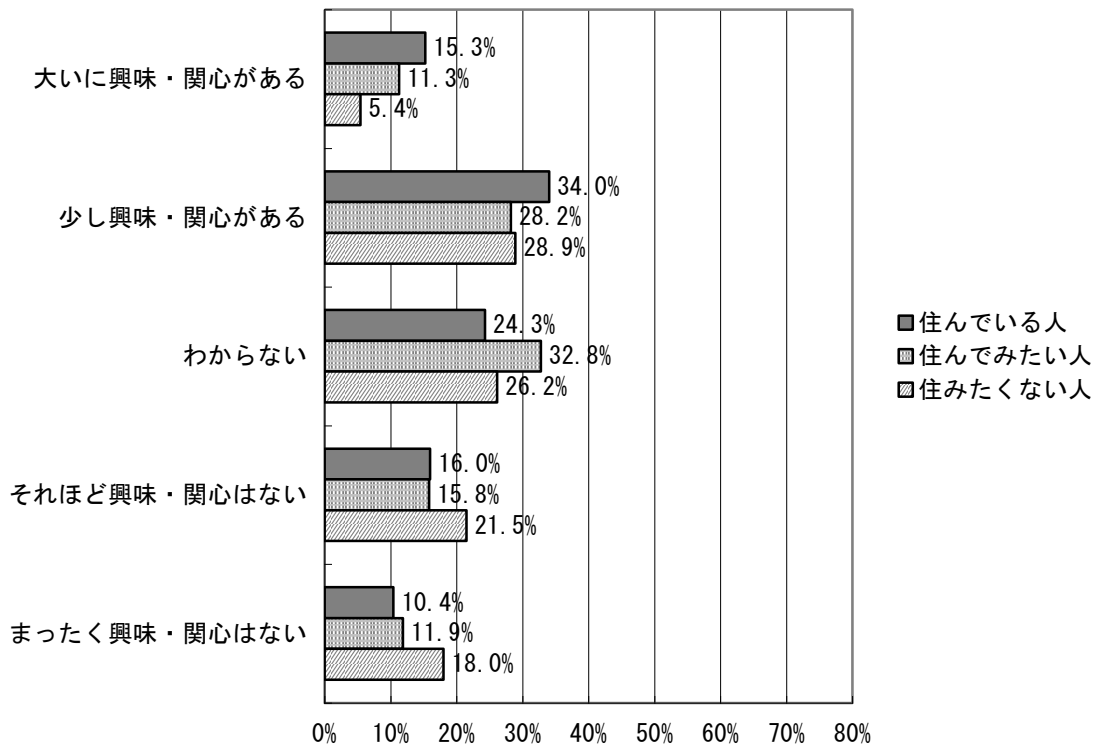
シ. オープンカフェ



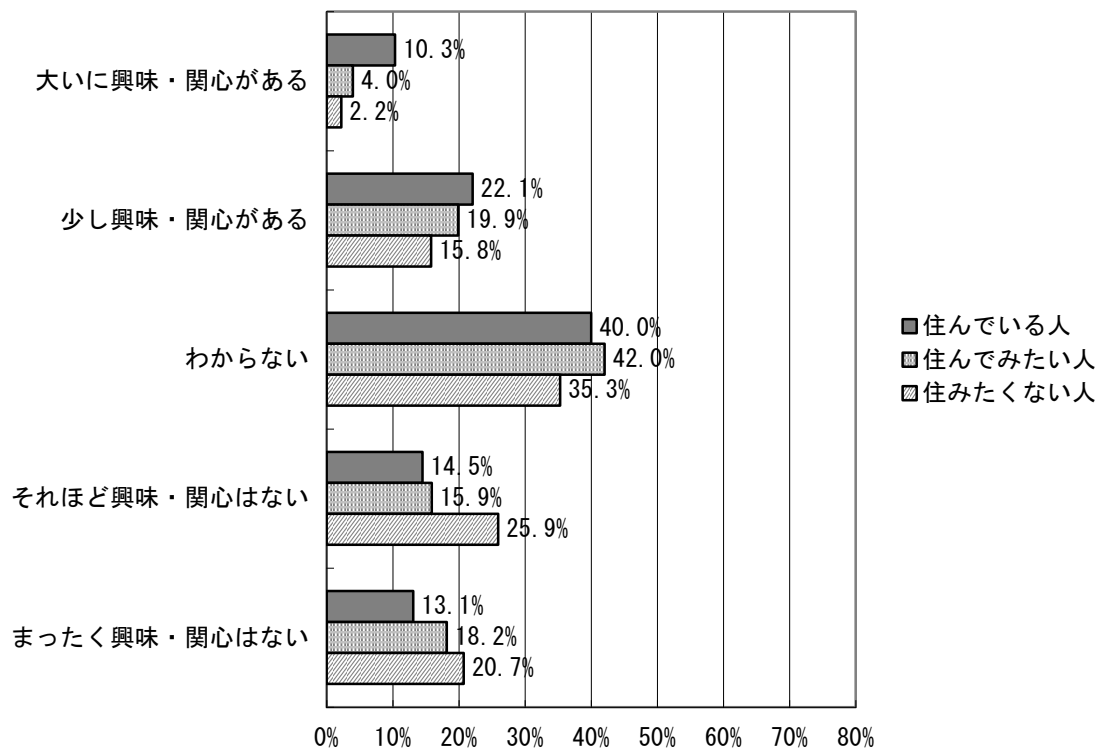
ス. 市駅前朝市



セ. ぶらくりスイング



ソ. ハッピーロード活性化



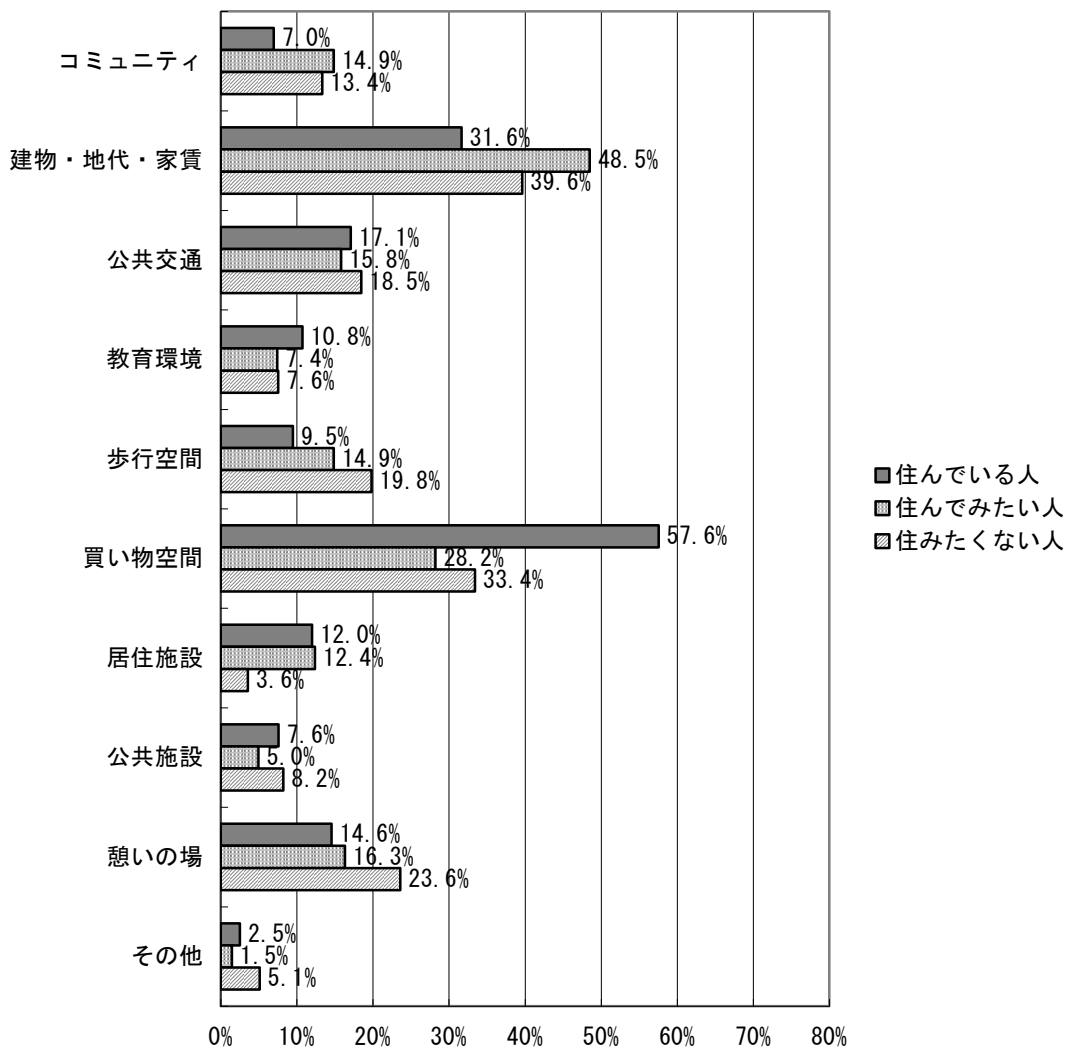
(4) 居住者増加の取り組みについて

① 「取り組みについて」

どのようにすれば中心市街地に住んでみたい人が増えると思うか（市民：問20、居住者：問13）

選択肢から2つまでを選んでもらったところ、以下のグラフが示すような結果となった。

- < 選択肢 >
1. 地域コミュニティを充実して暮らしやすくする
 2. 建物代や家賃・地代などを安くする
 3. 公共交通機関を充実させる
 4. 子どもの教育環境の質を高める
 5. 誰もが安心、安全に歩ける歩行空間を整備する
 6. 商店街などの買い物空間を更に整備する
 7. マンション等の居住施設を増加させる
 8. 図書館やコミュニティセンターなどの公共施設を充実させる
 9. ゆっくりと憩えるような公共の場を整備する
 10. その他



(5) まとめ【総評】

アンケート調査結果からは、中心市街地以外に居住する市民と中心市街地居住者との意識の差が見てとれる。

①中心市街地以外に居住する市民と中心市街地居住者の回答結果の比較

【中心市街地以外に居住する市民の主な回答結果】

中心市街地以外に居住する市民は、5年前と比較して中心市街地を訪れる頻度が減った人が33.8%だったが、前回調査時(44.5%)より、やや減少している。ただし、商業サービスに対する不満は「不満」「やや不満」を合わせると77.6%で前回調査時(76.6%)とあまり変化が見られず、依然として不満を抱えている。

また、中心市街地に住んでみたいと思うかという問いも「住みたくない」が67.3%と多く、前回調査時(66.6%)とあまり変化が見られない。

中心市街地の活性化が重要な課題と考えるかどうかを聞いた結果を見ると、「強くそう思う」と答えたのは40%で、これについても前回調査時(40.7%)とあまり変化が見られない。

【中心市街地居住者の主な回答結果】

中心市街地の居住者には20年以上住み続けている人が全体の65.2%と多く、商業サービス等に不満を抱えていても、中心市街地での生活を気に入っている人が全体の74.1%を占めた。

中心市街地の活性化が重要な課題と考えるかどうかを聞いた結果を見ると、「強くそう思う」と答えたのは57%で、前回調査時(66.8%)よりやや減少傾向にある。

【比較結果】

これらの結果を比較して言えるのは、中心市街地以外に居住する市民と中心市街地居住者との間には中心市街地に対する関心・重要度に関してまだ意識の差があるものの、中心市街地居住者の関心が若干低下しつつある。また、中心市街地以外に居住する市民の認知度はあまり変化していないものの、関心を持っている市民は潜在的にいるように見受けられ、自由意見において様々なイベント提言、改善策提言も多く見られた。また、現状の取り組みの一部に対しては、賛成意見とさらなる拡充を求める要望も散見され、必ずしも関心は低くないと考えられる。ただし、PR不足・情報発信不足により、関心があるにも関わらず認知されていない現状を指摘する意見があるため、今後、中心市街地活性化のための施策を進めていく際には、さらに積極的に市民にPRすることなど情報発信への取り組みが重要な課題と考えられる。

②前回調査結果の比較

今回の調査結果と平成21年度のアンケート結果を比較すると、中心市街地の商業サービスや居住意向などはあまり変化が見られなかった。ただし、まちづくりの各施策においては、新しい集客施設づくりへの関心が高まっている。

また活性化に対する取り組みについては、人気のある取り組みに対してさらなる拡充を望む声が多く上がっている。人気のある取り組みは、各取り組みへの興味・関心度と取り組みへの要望やアイデアの意見とを比較したところ、特に前回調査から引き続けている「手づくり市場」、「オープンカフェ」、「一日周遊バス切符」については、前回調査ではあまり認知されていなかったが、今回調査では関心が高まっており、意見も寄せられている。また、今回調査で新たに追加した取り組みでは「城まちeco観光レンタサイクル」、「市駅前朝市」に関心が高く、意見等も寄せられている。